CCF001J　クリスチャンライフ・フォーメーション１

担任教員

4 単位
指定なし
通年

＜授業の内容とねらい＞

本科目は通年の4年間（編入生は2年間）にわたる共通科目です。本学は実践的神学教育（「建学の精神」）を重要な教育の柱とし、TCU生活全体を教育の機会と捉え、それらを通して教会と社会に仕える姿勢と実践力を兼ね備えた福音を肌で感じさせるキリスト者の育成をめざしています。本科目は、霊性、学習、生活の総合的な涵養を目的とし、①大学におけるチャペル出席（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な取り組みと振り返り、③地域教会での主日礼拝と教会奉仕を通し、キリスト者として神と教会、そして人と社会に仕える姿勢と実践力を養うために設けられています。学生は上記の３つの取り組みに対する自己評価（「TCUポートフォリオ」）、および教員との面談等を通して自己理解を深め、自らの将来像を意識しつつ、総合的な自己形成を行います。

＜授業テーマと内容＞

１）チャペル
チャペルは、学びと生活の手を休めて、共に神を見上げ、意識的に霊的な養いを得るための時間です。TCUにおけるチャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）は、TCUでの学生生活の核であり、TCU信仰共同体の中心でもあります。TCUでの学びと生活を統合する中心軸として、チャペル出席を大切にしましょう。

２）コイノニア（小グループチャペル）
コイノニア（小グループチャペル）は、学生同士また学生と教員の霊的な交流と成長を促す分かち合いの場です。毎週金曜のチャペルの時間に、1年生、2年生、各専攻（3・4年）、大学院各学年、教会音楽専攻科の各グループに分かれて行います。TCUで共に学び生活する仲間との歩みを神様からの特別な恵みとして受け取り、御言葉を中心にしつつ、より意識的に味わっていくことを目指します。

３）寮生活を含む学生生活
寮生活や委員会活動等を含む学生生活を通して、学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きることの実践を目指します。「神を愛し、人を愛せよ」を学生生活全体の理念とし、宗教改革者マルティン・ルターの「キリスト者の自由」の精神に根ざし、喜んで互いに仕えあう生き方を学んでいきましょう。

4）教会実習
地域教会での実習を通し、教会生活全般に関する理解を深め、それぞれの賜物と習熟度に応じた実習を通して実践的な力を養っていくことを目指します。主日礼拝と祈祷会を含む教会活動を尊び、実習教会の牧師の指導のもと、積極的かつ忠実に委ねられた教会奉仕を行ってください。

5）TCUポートフォリオ
TCUポートフォリオとは、それぞれの学生の霊性、学習、寮生活を含む学生生活の成長の記録です。学期の区切り、年末にTCUポートフォリオの記入を行い、自らの将来像を見据えつつ、次年度の目標を立て、振り返りを行い、その目標を意識した取り組みを積み上げていきます。 TCUポートフォリオの目的は、一人一人の学生の成長を可視化（見える化）するサイクルを繰り返すことで、教員からのフィードバックを受けながら、神に召された働き人としての自己を主体的に形成していくことにあります。

＜到達目標＞

・チャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む)を通して、前年度よりも霊的/人格的に深められる。
・教会実習を通して、前年度よりも礼拝者また奉仕者としての姿勢と実践力を身につける。
・寮生活を含む学生生活全般を通し、前年度よりも学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きる実践者となる。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

＜授業方法＞

TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

「チャペルについて」『学生ハンドブック』（「第2章 大学生活」）東京基督教大学
「教会生活」『学生ハンドブック』（「第2章 大学生活」）東京基督教大学

＜成績評価の方法と基準＞

その他 100 %
クリスチャンライフ・フォーメションの成績評価は、担任による「パス・ノンパス方式」（P/N）で判定されます。年度末、学生が記入したTCUポートフォリオをもとに担任が個人面談もしくはグループ面談を行います。以下の項目が評価の対象です。
１）ポートフォリオの記入（霊性、学習、寮生活を含む学生生活の目標設定と振り返り）
２）担任教員との個人面談またはグループ面談
３）チャペル出席
４）コイノニア〔小グループチャペル〕出席
※コイノニア〔小グループチャペル〕では出席を確認します。諸事情により欠席する場合は事前に担任に連絡してください。
※特別な事情（通学生等）でコイノニア〔小グループチャペル〕の出席が難しい場合は、その旨を担任に伝えてください。

＜準備学習等に必要な時間＞

TCUポートフォリオは、年度の初めに霊性、学習、生活における目標を記入し、1年の終わりに振り返りを記入します。（原則はコイノニアの時間に記入します。）

また、学生自己評価書は、年度の振り返りとして1月頃にDP（ディプロマポリシー）の自己評価と寮生活/学生生活の自己評価をTCUポートフォリオに記入します。また、各教育活動において感じられた課題や改善点を記入します（例えば、寮生活、チャペル、コイノニア、委員会活動等）。

教会実習については、4月に実習目標を記入し、学生自己評価書と同じ時期に実習自己評価を記入します。実習教会の牧師（または該当の方）にも評価を記入していただきます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

担任教員がTCUポートフォリの内容を確認し、TCUポートフォリオのシステム上でコメントします。また、年度末に担任と面談を行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

全学生必修科目

担任教員

4 単位
指定なし
通年

＜授業の内容とねらい＞

本科目は通年の4年間（編入生は2年間）にわたる共通科目です。本学は実践的神学教育（「建学の精神」）を重要な教育の柱とし、TCU生活全体を教育の機会と捉え、それらを通して教会と社会に仕える姿勢と実践力を兼ね備えた福音を肌で感じさせるキリスト者の育成をめざしています。本科目は、霊性、学習、生活の総合的な涵養を目的とし、①大学におけるチャペル出席（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な取り組みと振り返り、③地域教会での主日礼拝と教会奉仕を通し、キリスト者として神と教会、そして人と社会に仕える姿勢と実践力を養うために設けられています。学生は上記の３つの取り組みに対する自己評価（「TCUポートフォリオ」）、および教員との面談等を通して自己理解を深め、自らの将来像を意識しつつ、総合的な自己形成を行います。

＜授業テーマと内容＞

１）チャペル

チャペルは、学びと生活の手を休めて、共に神を見上げ、意識的に霊的な養いを得るための時間です。TCUにおけるチャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）は、TCUでの学生生活の核であり、TCU信仰共同体の中心でもあります。TCUでの学びと生活を統合する中心軸として、チャペル出席を大切にしましょう。

２）コイノニア（小グループチャペル）

コイノニア（小グループチャペル）は、学生同士また学生と教員の霊的な交流と成長を促す分かち合いの場です。毎週金曜のチャペルの時間に、1年生、2年生、各専攻（3・4年）、大学院各学年、教会音楽専攻科の各グループに分かれて行います。TCUで共に学び生活する仲間との歩みを神様からの特別な恵みとして受け取り、御言葉を中心にしつつ、より意識的に味わっていくことを目指します。

３）寮生活を含む学生生活

寮生活や委員会活動等を含む学生生活を通して、学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きることの実践を目指します。「神を愛し、人を愛せよ」を学生生活全体の理念とし、宗教改革者マルティン・ルターの「キリスト者の自由」の精神に根ざし、喜んで互いに仕えあう生き方を学んでいきましょう。

4）教会実習

地域教会での実習を通し、教会生活全般に関する理解を深め、それぞれの賜物と習熟度に応じた実習を通して実践的な力を養っていくことを目指します。主日礼拝と祈祷会を含む教会活動を尊び、実習教会の牧師の指導のもと、積極的かつ忠実に委ねられた教会奉仕を行ってください。

5）TCUポートフォリオ

TCUポートフォリオとは、それぞれの学生の霊性、学習、寮生活を含む学生生活の成長の記録です。学期の区

切り、年末にTCUポートフォリオの記入を行い、自らの将来像を見据えつつ、次年度の目標を立て、振り返りを行い、その目標を意識した取り組みを積み上げていきます。 TCUポートフォリオの目的は、一人一人の学生の成長を可視化（見える化）するサイクルを繰り返すことで、教員からのフィードバックを受けながら、神に召された働き人としての自己を主体的に形成していくことにあります。

＜到達目標＞

・チャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む)を通して、前年度よりも霊的/人格的に深められる。
・教会実習を通して、前年度よりも礼拝者また奉仕者としての姿勢と実践力を身につける。
・寮生活を含む学生生活全般を通し、前年度よりも学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きる実践者となる。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

＜授業方法＞

TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
「チャペルについて」『学生ハンドブック』（「第２章大学生活」）東京基督教大学
「教会生活」『学生ハンドブック』（「第２章大学生活」）東京基督教大学

＜成績評価の方法と基準＞
その他 100 %
クリスチャンライフ・フォーメションの成績評価は、担任による「パス・ノンパス方式」（P/N）で判定されます。年度末、学生が記入したTCUポートフォリオをもとに担任が個人面談もしくはグループ面談を行います。以下の項目が評価の対象です。

１） ポートフォリオの記入（霊性、学習、寮生活を含む学生生活の目標設定と振り返り）

２） 担任教員との個人面談またはグループ面談

３） チャペル出席

４） コイノニア〔小グループチャペル〕出席

※コイノニア〔小グループチャペル〕では出席を確認します。諸事情により欠席する場合は事前に担任に連絡してください。

※特別な事情（通学生等）でコイノニア〔小グループチャペル〕の出席が難しい場合は、その旨を担任に伝えてください。

５） 教会実習関連書類の提出（「教会実習計画書」、「自己評価書」及び「実習教会牧師評価書」）

＜準備学習等に必要な時間＞
TCUポートフォリオ（学期）は、学期の初めに霊性、学習、生活における目標を記入し、学期の終わりに振り返りを記入します。（原則はコイノニアの時間に記入します。）

また、学生自己評価書は、年度の振り返りとして1月頃にDP（ディプロマポリシー）の自己評価と寮生活/学生生活の自己評価をTCUポートフォリオに記入します。また、各教育活動において感じられた課題や改善点を記入します（例えば、寮生活、チャペル、コイノニア、委員会活動等）。

TCUポートフォリオ（教会実習）については、4月に実習目標を記入し、学生自己評価書と同じ時期に実習自己評価を記入します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
担任教員がTCUポートフォリの内容を確認し、TCUポートフォリオのシステム上でコメントします。また、年度末に担任と面談を行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
全学生必修科目

各活動に参加することが重要です。欠席の場合はTeams、emailで連絡をお願いします。

担任教員

4 単位
指定なし
通年

＜授業の内容とねらい＞

本科目は通年の4年間（編入生は2年間）にわたる共通科目です。本学は実践的神学教育（「建学の精神」）を重要な教育の柱とし、TCU生活全体を教育の機会と捉え、それらを通して教会と社会に仕える姿勢と実践力を兼ね備えた福音を肌で感じさせるキリスト者の育成をめざしています。本科目は、霊性、学習、生活の総合的な涵養を目的とし、①大学におけるチャペル出席（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な取り組みと振り返り、③地域教会での主日礼拝と教会奉仕を通し、キリスト者として神と教会、そして人と社会に仕える姿勢と実践力を養うために設けられています。学生は上記の３つの取り組みに対する自己評価（「TCUポートフォリオ」）、および教員との面談等を通して自己理解を深め、自らの将来像を意識しつつ、総合的な自己形成を行います。クリスチャンライフ・フォーメションの成績評価は、担任による「パス・ノンパス方式」（P/N）で判定されます。年度末、学生が記入したTCUポートフォリオをもとに担任が個人面談もしくはグループ面談を行います。

＜授業テーマと内容＞

１）チャペル

チャペルは、学びと生活の手を休めて、共に神を見上げ、意識的に霊的な養いを得るための時間です。TCUにおけるチャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）は、TCUでの学生生活の核であり、TCU信仰共同体の中心でもあります。TCUでの学びと生活を統合する中心軸として、チャペル出席を大切にしましょう。

２）コイノニア（小グループチャペル）

コイノニア（小グループチャペル）は、学生同士また学生と教員の霊的な交流と成長を促す分かち合いの場です。毎週金曜のチャペルの時間に、1年生、2年生、各専攻（3・4年）、大学院各学年、教会音楽専攻科の各グループに分かれて行います。TCUで共に学び生活する仲間との歩みを神様からの特別な恵みとして受け取り、御言葉を中心にしつつ、より意識的に味わっていくことを目指します。

３）寮生活を含む学生生活

寮生活や委員会活動等を含む学生生活を通して、学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きることの実践を目指します。「神を愛し、人を愛せよ」を学生生活全体の理念とし、宗教改革者マルティン・ルターの「キリスト者の自由」の精神に根ざし、喜んで互いに仕えあう生き方を学んでいきましょう。

4）教会実習

地域教会での実習を通し、教会生活全般に関する理解を深め、それぞれの賜物と習熟度に応じた実習を通して実践的な力を養っていくことを目指します。主日礼拝と祈祷会を含む教会活動を尊び、実習教会の牧師の指導のもと、積極的かつ忠実に委ねられた教会奉仕を行ってください。

5）TCUポートフォリオ

TCUポートフォリオとは、それぞれの学生の霊性、学習、寮生活を含む学生生活の成長の記録です。学期の区

切り、年末にTCUポートフォリオの記入を行い、自らの将来像を見据えつつ、次年度の目標を立て、振り返りを行い、その目標を意識した取り組みを積み上げていきます。 TCUポートフォリオの目的は、一人一人の学生の成長を可視化（見える化）するサイクルを繰り返すことで、教員からのフィードバックを受けながら、神に召された働き人としての自己を主体的に形成していくことにあります。

＜到達目標＞

・チャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む)を通して、前年度よりも霊的/人格的に深められる。
・教会実習を通して、前年度よりも礼拝者また奉仕者としての姿勢と実践力を身につける。
・寮生活を含む学生生活全般を通し、前年度よりも学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きる実践者となる。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

＜授業方法＞

TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
「チャペルについて」『学生ハンドブック』（「第２章大学生活」）東京基督教大学
「教会生活」『学生ハンドブック』（「第２章大学生活」）東京基督教大学

＜成績評価の方法と基準＞
その他 100 %
クリスチャンライフ・フォーメションの成績評価は、担任による「パス・ノンパス方式」（P/N）で判定されます。年度末、学生が記入したTCUポートフォリオをもとに担任が個人面談もしくはグループ面談を行います。以下の項目が評価の対象です。

１） ポートフォリオの記入（霊性、学習、寮生活を含む学生生活の目標設定と振り返り）

２） 担任教員との個人面談またはグループ面談

３） チャペル出席

４） コイノニア〔小グループチャペル〕出席

※コイノニア〔小グループチャペル〕では出席を確認します。諸事情により欠席する場合は事前に担任に連絡してください。

※特別な事情（通学生等）でコイノニア〔小グループチャペル〕の出席が難しい場合は、その旨を担任に伝えてください。

５） 教会実習関連書類の提出（「教会実習計画書」、「自己評価書」及び「実習教会牧師評価書」）

＜準備学習等に必要な時間＞
TCUポートフォリオ（学期）は、学期の初めに霊性、学習、生活における目標を記入し、学期の終わりに振り返りを記入します。

また、学生自己評価書は、年度の振り返りとして1月頃にDP（ディプロマポリシー）の自己評価と寮生活/学生生活の自己評価をTCUポートフォリオに記入します。また、各教育活動において感じられた課題や改善点を記入します（例えば、寮生活、チャペル、コイノニア、委員会活動等）。

TCUポートフォリオ（教会実習）については、4月に実習目標を記入し、学生自己評価書と同じ時期に実習自己評価を記入します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
担任教員がTCUポートフォリの内容を確認し、TCUポートフォリオのシステム上でコメントします。また、年度末に担任と面談を行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
通学生等で定期的にコイノニアに参加できない学生は最初のコイノニアまでに担任に連絡してください。

担任教員

4 単位
指定なし
通年

＜授業の内容とねらい＞

本科目は通年の4年間（編入生は2年間）にわたる共通科目です。本学は実践的神学教育（「建学の精神」）を重要な教育の柱とし、TCU生活全体を教育の機会と捉え、それらを通して教会と社会に仕える姿勢と実践力を兼ね備えた福音を肌で感じさせるキリスト者の育成をめざしています。本科目は、霊性、学習、生活の総合的な涵養を目的とし、①大学におけるチャペル出席（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な取り組みと振り返り、③地域教会での主日礼拝と教会奉仕を通し、キリスト者として神と教会、そして人と社会に仕える姿勢と実践力を養うために設けられています。学生は上記の３つの取り組みに対する自己評価（「TCUポートフォリオ」）、および教員との面談等を通して自己理解を深め、自らの将来像を意識しつつ、総合的な自己形成を行います。クリスチャンライフ・フォーメションの成績評価は、担任による「パス・ノンパス方式」（P/N）で判定されます。年度末、学生が記入したTCUポートフォリオをもとに担任が個人面談もしくはグループ面談を行います。

＜授業テーマと内容＞

１）チャペル

チャペルは、学びと生活の手を休めて、共に神を見上げ、意識的に霊的な養いを得るための時間です。TCUにおけるチャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む）は、TCUでの学生生活の核であり、TCU信仰共同体の中心でもあります。TCUでの学びと生活を統合する中心軸として、チャペル出席を大切にしましょう。

２）コイノニア（小グループチャペル）

コイノニア（小グループチャペル）は、学生同士また学生と教員の霊的な交流と成長を促す分かち合いの場です。毎週金曜のチャペルの時間に、1年生、2年生、各専攻（3・4年）、大学院各学年、教会音楽専攻科の各グループに分かれて行います。TCUで共に学び生活する仲間との歩みを神様からの特別な恵みとして受け取り、御言葉を中心にしつつ、より意識的に味わっていくことを目指します。

３）寮生活を含む学生生活

寮生活や委員会活動等を含む学生生活を通して、学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きることの実践を目指します。「神を愛し、人を愛せよ」を学生生活全体の理念とし、宗教改革者マルティン・ルターの「キリスト者の自由」の精神に根ざし、喜んで互いに仕えあう生き方を学んでいきましょう。

4）教会実習

地域教会での実習を通し、教会生活全般に関する理解を深め、それぞれの賜物と習熟度に応じた実習を通して実践的な力を養っていくことを目指します。主日礼拝と祈祷会を含む教会活動を尊び、実習教会の牧師の指導のもと、積極的かつ忠実に委ねられた教会奉仕を行ってください。

5）TCUポートフォリオ

TCUポートフォリオとは、それぞれの学生の霊性、学習、寮生活を含む学生生活の成長の記録です。学期の区

切り、年末にTCUポートフォリオの記入を行い、自らの将来像を見据えつつ、次年度の目標を立て、振り返りを行い、その目標を意識した取り組みを積み上げていきます。 TCUポートフォリオの目的は、一人一人の学生の成長を可視化（見える化）するサイクルを繰り返すことで、教員からのフィードバックを受けながら、神に召された働き人としての自己を主体的に形成していくことにあります。

＜到達目標＞

・チャペル（コイノニア〔小グループチャペル〕を含む)を通して、前年度よりも霊的/人格的に深められる。
・教会実習を通して、前年度よりも礼拝者また奉仕者としての姿勢と実践力を身につける。
・寮生活を含む学生生活全般を通し、前年度よりも学びと生活を意識的に統合し、日常生活においてみことばに生きる実践者となる。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

＜授業方法＞

TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
「チャペルについて」『学生ハンドブック』（「第２章大学生活」）東京基督教大学
「教会生活」『学生ハンドブック』（「第２章大学生活」）東京基督教大学

＜成績評価の方法と基準＞
その他 100 %
クリスチャンライフ・フォーメションの成績評価は、担任による「パス・ノンパス方式」（P/N）で判定されます。年度末、学生が記入したTCUポートフォリオをもとに担任が個人面談もしくはグループ面談を行います。以下の項目が評価の対象です。

１） ポートフォリオの記入（霊性、学習、寮生活を含む学生生活の目標設定と振り返り）

２） 担任教員との個人面談またはグループ面談

３） チャペル出席

４） コイノニア〔小グループチャペル〕出席

※コイノニア〔小グループチャペル〕では出席を確認します。諸事情により欠席する場合は事前に担任に連絡してください。

※特別な事情（通学生等）でコイノニア〔小グループチャペル〕の出席が難しい場合は、その旨を担任に伝えてください。

５） 教会実習関連書類の提出（「教会実習計画書」、「自己評価書」及び「実習教会牧師評価書」）

＜準備学習等に必要な時間＞
TCUポートフォリオ（学期）は、学期の初めに霊性、学習、生活における目標を記入し、学期の終わりに振り返りを記入します。

また、学生自己評価書は、年度の振り返りとして1月頃にDP（ディプロマポリシー）の自己評価と寮生活/学生生活の自己評価をTCUポートフォリオに記入します。また、各教育活動において感じられた課題や改善点を記入します（例えば、寮生活、チャペル、コイノニア、委員会活動等）。

TCUポートフォリオ（教会実習）については、4月に実習目標を記入し、学生自己評価書と同じ時期に実習自己評価を記入します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
担任教員がTCUポートフォリの内容を確認し、TCUポートフォリオのシステム上でコメントします。また、年度末に担任と面談を行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
通学生等で定期的にコイノニアに参加できない学生は最初のコイノニアまでに担任に連絡してください。

CCW110J キリストと世界 I (神学)

岡村 直樹

2 単位
教研棟 1 F 大教室
冬 木曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

このクラスでは１６世紀の宗教改革に基づくプロテスタント神学の概要と意味を学びます。現代福音主義の立場から、神の一般啓示及び特別啓示、聖書の権威、霊感、無誤性、無謬性、外的及び内的証明等について学びつつ、加えて１９世紀以降の新しい神学の流れに注目し、現代のキリスト教会と神学に影響を及ぼした主な神学者の啓示論、聖書論をサーベイとして学びます。「主な宗教改革者達は、聖書の霊感についてどのように教えていたか。」「神の霊感は、聖書に具体的にどのように働いているのか。」「聖書は誤りの無い神の言葉とは、具体的にはどういうことか。」「新旧約聖書６６巻はどのようにして決まったのか。」「聖書を権威ある神の言葉とすることは、キリスト教会や個人の信仰にとってどのような意味を持つのか。」「聖書の原本と翻訳本にはどのような違いがあるのか。」「１９世紀から始まる聖書批判の背景には何があり、またそれは今日のキリスト教会にどのような影響を及ぼしているか。」といった質問について考察します。このクラスでは、筆記課題や小グループ・ディスカッション等を通して、聖書信仰の大切さを他者に伝える力、また共に働く力を養います。

＜授業テーマと内容＞

第1週 「神学とは？神学部とは？」
第2週 「神学の必要性とあるべき姿」
第3週 「教会史と聖書の霊感」
第4週 「聖書の内的証明と外的証明」
第5週 「聖書の霊感」
第6週 「一般啓示と特別啓示」
第7週 「聖書の正典性と無誤性」
第8週 「近現代神学の潮流と聖書観」
第9週 「まとめ授業」
第10週 「最終試験」

＜到達目標＞

1）神学を組織的に学ぶことの必要性をわかりやすく他者に伝えることができるようになること。
2）福音主義の立場から、聖書霊感、無誤性、聖典性をわかりやすく他者に伝えることができるようになること。
3）聖書の大切さを、わかりやすく他者に伝えることができるようになること。
4）自らの教会生活や信仰生活の意味について、わかりやすく他者に伝えることができるようになること。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊日常の神学、岡村直樹、いのちのことば社、2023年
キリスト教神学（第１巻）、ミラード・J・エリクソン、いのちのことば社、２００３.

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 10 %
発表 30 %
期末試験 50 %
リフレクションペーパーは、決められた教科書の箇所の内容に対して書いていただきます。授業内のスモールグループで発表し、相互に評価します。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約１．５倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は１４０分ですので、クラス外で毎週約２１０分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リアクションペーパーは、授業内のスモールグループにおいて発表し、相互に評価します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞
全学生必修科目

「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

本科目は担当教員の牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

CCW120J キリストと世界 II (旧約)

佐藤　潤

２単位
教研棟１Ｆ 中教室４
春 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

旧約聖書の入門的授業として、旧約聖書の基本を学びます。世界における旧約聖書の影響力、キリスト教における影響力の考察から始まり、どのようにして今私たちの手元にまで旧約聖書が届いているのか、旧約聖書の舞台である古代イスラエルとはどのような場所で、どのような歴史が書かれているのか、どのような書簡があって、何を伝えようとしているのかといった概論的な問題を扱います。また毎週ともに創世記を読み進めていきます。旧約聖書全体の流れと背景をつかみ、本授業の続きである「SBS210J 聖書学I：旧約通論」への備えをします。

This introductory course to the Old Testament covers its fundamental aspects. Beginning with an examination of the Old Testament’s influence on the world at large and within Christianity, the course explores how the Old Testament has been transmitted to us in its present form. It also addresses overview topics such as what kind of place ancient Israel—the setting of the Old Testament—was, what history is recorded there, and what messages the text seeks to convey.

＜授業テーマと内容＞

第1週 なぜ旧約聖書を読むのか：世界における旧約聖書の影響
第2週 旧約聖書概観①：旧約聖書の舞台
第3週 旧約聖書概観②：旧約時代の生活
第4週 旧約聖書概観③：旧約聖書の構成
第5週 旧約聖書概観④：旧約聖書の全体像
第6週 旧約聖書の書簡①：五書
第7週 旧約聖書の書簡②：歴史書
第8週 旧約聖書の書簡③：聖文書
第9週 旧約聖書の書簡④：預言書
第10週 旧約聖書と新約聖書

＜到達目標＞

1）旧約聖書が世界に与えてきた影響力の大きさと意義を把握すること
2）旧約聖書と新約聖書、教会の関連性を理解し、キリスト教における旧約聖書の意義を把握すること
3）旧約聖書への関心を深め、今後の聖書の学びの基礎を形成すること
4）旧約聖書を読むことを通して、自身の人生や教会の課題へのメッセージを読み取ること

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

＊聖書

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
課題 50 %
期末レポート 30 %
- 出席&授業参加：20%
- 聖書地図：25%
- 旧約年表：25%
- 期末エッセイ：30%

＜準備学習等に必要な時間＞

１時間程度

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題やレポートは、講師の採点・コメントともに随時返却します

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞
全学生必修科目

受講にあたって何か気がかりなことがある場合、例えば日本語での読み書きが困難である場合や身体的、精神的健康における懸念がある場合、レポートの書き方がわからない場合など、講師まで伝えてください。柔軟に対応します。

本科目は担当教員の牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

CCW130J キリストと世界 III (新約)

伊藤 明生

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
秋 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

神が天と地とそのうちのすべてのものを創造した当初、すべては「良かった」が、アダムとエバが神の戒めに逆らってエデンの園から追放された際に、被造世界全体が堕落した。キリストが十字架にかかってくださったのは、私たち罪人を罪から救い出すためだけではなく、堕落した被造世界を贖い出すためでもあった。キリストは私たち罪人の救い主であるだけではなく、私たちが生かされている被造世界を造り、今も生きてお働きになり、ご支配してくださっている方であり、堕落した被造世界を回復なさる方でもある。私たちは新約聖書を読んで学ぶことで、父なる神と御子なるキリストと聖霊なる神という三位一体の神や私たちがキリストにあって与えられている救いだけではなく、私たちが生かされている被造世界をよりよく知って理解することができる。本科目では、「そもそも新約聖書とはどのような書物なのか？」から始めてヨハネの福音書がどのような福音書か触れた上で、正義、愛、霊性、美、自由、真理、権力という七つの事柄をヨハネの福音書を中心にして見て行く。

＜授業テーマと内容＞

第1週 新約聖書とは？
第2週 福音書とは？ヨハネの福音書とは？
第3週 正義
第4週 愛
第5週 霊性
第6週 美
第7週 自由
第8週 真理
第9週 権力、力
第10週 キリストと世界

＜到達目標＞

基本的な新約聖書の読み方を習得して、世の中で生きて行く上で新約聖書を読みながら神学的な思索をしながら生きて行く初歩を習得する。現代世界の仕組みを常識的に理解しておくことは勿論のこと、キリスト者として聖書の知識と理解も常識として修得したい。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

新改訳聖書（2017版）
N.T. Wright, Broken Signposts: How Christianity Makes Sense of the World, HarperOne, 2020
『クリスチャンであるとはN・T・ライトによるキリスト教入門』N.T.ライト著、上沼昌雄訳（あめんどう）
『福音の再発見』スコット・マクナイト著、中村佐知訳（キリスト新聞社）
Truth is stranger than it used to be: Biblical Faith in s Postmodern Age, J. Richard Middleton and Briasn J. Walsh (SPCK)

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 10 %
期末レポート 40 %
期末試験 40 %
毎回の授業後にリフレクションペーパーを提出すること（10%）。期末レポートでは「世界をより良くするにはどうしたら良いか」を論じること（40%）。期末試験では、どの程度、ヨハネの福音書はじめ授業で取り扱ったことを理解したか問う（40%）。

＜準備学習等に必要な時間＞

ニコマー回の授業のために1時間の予習と1時間の複数を行うことが望ましい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

何らかのフィードバックを希望する場合には、個別にメールで問い合わせれば、対応いたします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

全学生必修科目

「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

CSD100J　霊的形成

齋藤　五十三

2 単位
教研棟１Ｆ 大教室
冬 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

この授業では、キリスト者として神の前に生きること、およびキリスト者の共同体の中に生きることの基礎を学びます。2026年度より齋藤が十週を担当し、D.ボンヘッファーの著書『共に生きる生活』を講読しながら、キリスト者として生きるとはどういうことかを神学的かつ実践的に学びます。具体的には、キリストを中心に置きながら1) 他者と関わること、2)
共同体の一員として生きること、3) 自立したひとりのキリスト者として生きること、4) 奉仕の生活、5) 罪の告白に生きる生活等を、教員や学生と対話しながら学び、その学んだ内容を大学生活の実践で生かすことを目指します。この授業を通して神学著作に親しむこともねらいの一つです。

　また同書講読の他に二回を特別回として「コラージュ」および「静まりの時」「レゴタイム」等を実施する機会もあります。多忙な生活の中で静かに立ち止まりながら自身を静かに振り返り、神の前に静まる中で、信仰者として神の前に生きることを深める時間を持ちます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 『共に生きる生活』Ⅰ交わり
第2週 『共に生きる生活』Ⅰ交わり（2）
第3週 『共に生きる生活』Ⅱ共にいる日
第4週 『共に生きる生活』Ⅱ共にいる日（2）
第5週 『共に生きる生活』Ⅲひとりでいる日Ⅴ罪の告白と主の晩餐
第6週 特別回「コラージュ」他
第7週 『共に生きる生活』Ⅳ仕えること
第8週 『共に生きる生活』Ⅳ仕えること（2）
第9週 『共に生きる生活』Ⅴ罪の告白と主の晩餐
第10週 特別回「静まりのとき」

＜到達目標＞

このクラスの到達目標は、神のために何かをする前に、神の前にあることの大切さに気付くことです。神との交わり、友との交わりの中に生かされていることの豊かさに気付くことです。そして、神の前で静まることを覚えることです。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊ディートリヒ・ボンヘッファー『共に生きる生活』（新教出版社）
＊ヘンリ・ナーウェン『いま、ここに生きる：生活の中の霊性』(あめんどう）
中村佐知『魂をもてなす一霊的同伴への招待ー』（あめんどう）
藤掛明『真実の自分と向き合う』（いのちのことば社）
H.J.M.ナウエン『傷ついた癒し人』（日本キリスト教団出版局）
水垣渉『初期キリスト教とその霊性』（聖恵授産所出版部）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
リフレクション 40 %
期末レポート 40 %
毎回の授業での小さな課題（読書課題からのリフレクション、授業後の適用等）を忠実に重ねることを特に評価します。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業の予習・復習や課題に取り組むために用いる毎週の学習時間は、授業（教室内）時間の2倍を目安としています。毎回必須なのは、『共に生きる生活』の割り当て箇所を読み、学んだことを書き、クラスで分かち合い、ディスカッションすることです。毎回の授業のために授業の倍の時間をかけて学んでください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回の「リフレクション」、「今週の適用」、期末レポートそれぞれに教員からのフィードバックを返します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞
全学生必修科目

本科目は担当教員の牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

岩田 三枝子
篠原 基章 / 山口 陽一

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
春 木曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞
本科目は、大学入学初年次に、３学期間にわたって開講される共通科目です。
東京基督教大学が土台とするキリスト教世界観に基づいた自校教育、霊的形成、自己理解、アカデミックスキル、ソーシャルスキル、キリスト教人格教育の土台を形成し、歴史、文化、社会の中にキリスト者としての自身を位置付ける視点を養うことを目的としています。グループワークを多く取り入れ、仲間と共に学ぶ楽しみと喜びを味わいながら、TCUとしての共同体形成を目指します。特に、1年生、2年次編入生、3年次編入生が年齢や経験を超えて共に学ぶ機会の中から、互いに尊敬を持って語り合い、多様な視点を学び合う喜び豊かな機会となることを期待します。
年間を通しての大きなテーマは、春学期は「アカデミック・スキル」をテーマに、「建学の精神」「教派の違い」「カルト」「ハラスメント」などを扱います。秋学期は「共生」をテーマに、キリスト教の視点から考える「福祉」や「グローバル」「臨床心理学」のトピック関する学びをします。冬学期は「キリスト教世界観」をテーマに、TCUの学びの土台となる世界観を学びます。

＜授業テーマと内容＞
第1週 クリスチャン・ライフ・フォーメーション（岩田）
第2週 ポートフォリオ（岩田）
第3週 建学の精神I（学長）
第4週 建学の精神II（学長）
第5週 教会実習（山口）
第6週 超教派に関する学び（山口）
第7週 カルトに関する学び（山口）
第8週 ハラスメント防止（岩田）
第9週 CLF(日英交流チャレンジ、オフィスアワーチャレンジ)(岩田)
第10週 春学期振り返り（岩田） スケジュールは変更される場合があります。

＜到達目標＞
1）霊的共同体としてのTCUの一員であることを認識し、信仰と学びの関係を深めることができる。
2）大学での学びに必要な他者と協働するためのソーシャルスキルを身につけることができる。
3）キリスト教世界観の基本的な概念を理解し、それが学問や日常生活にどのように適用されるかを論じることができる。

＜DPとの関連＞
DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
グループ学習(ワーク・ディスカッション), 課題解決型学習(PBL), TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 50 %
課題 50 %

＜準備学習等に必要な時間＞
クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安をとしてます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
課題については、授業の中やTeamsを通じてフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞
全学生必修科目

合理的配慮が必要な受講生は、個別にご相談ください。

CTS120J　TCUスタンダード 2

岩田 三枝子
森田 哲也 / 徐 有珍 / 井上 貴詞

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
秋 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

本科目は、大学入学初年次に、３学期間にわたって開講される共通科目です。
東京基督教大学が土台とするキリスト教世界観に基づいた自校教育、霊的形成、自己理解、アカデミックスキル、ソーシャルスキル、キリスト教人格教育の土台を形成し、歴史、文化、社会の中にキリスト者としての自身を位置付ける視点を養うことを目的としています。グループワークを多く取り入れ、仲間と共に学ぶ楽しみと喜びを味わいながら、TCUとしての共同体形成を目指します。特に、1年生、2年次編入生、3年次編入生が年齢や経験を超えて共に学ぶ機会の中から、互いに尊敬を持って語り合い、多様な視点を学び合う喜び豊かな機会となることを期待します。
年間を通しての大きなテーマは、春学期は「アカデミック・スキル」をテーマに、「建学の精神」「教派の違い」「カルト」「ハラスメント」などを扱います。秋学期は「共生」をテーマに、キリスト教の視点から考える「福祉」や「グローバル」「臨床心理学」のトピック関する学びをします。冬学期は「キリスト教世界観」をテーマに、TCUの学びの土台となる世界観を学びます。

＜授業テーマと内容＞

第1週　グローバル（森田）
第2週 グローバル（森田）
第3週 グローバル（森田）
第4週 福祉（井上）
第5週 福祉　(井上）
第6週 福祉　(井上）
第7週 臨床心理学（徐）
第8週 臨床心理学（徐）
第9週 臨床心理学（徐）
第10週 臨床心理学（徐） スケジュールは変更する場合があります。

＜到達目標＞

1）霊的共同体としてのTCUの一員であることを認識し、信仰と学びの関係を深めることができる。
2）大学での学びに必要な他者と協働するためのソーシャルスキルを身につけることができる。
3）キリスト教世界観の基本的な概念を理解し、それが学問や日常生活にどのように適用されるかを論じることができる。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 50 %
課題 50 %
「TCUスタンダード」では、全て授業内に行うワークやフィードバック作業等によって評価を行います。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安をとしてます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題等へのフィードバックは、授業内やTeamsにおいて行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

全学生必修科目

合理的配慮が必要な場合は、個別にご相談いたします。

岩田 三枝子
徐 有珍 / Mcdowell David

2 単位
教研棟 1 F 大教室
冬 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

本科目は、大学入学初年次に、３学期間にわたって開講される共通科目です。
東京基督教大学が土台とするキリスト教世界観に基づいた自校教育、霊的形成、自己理解、アカデミックスキル、ソーシャルスキル、キリスト教人格教育の土台を形成し、歴史、文化、社会の中にキリスト者としての自身を位置付ける視点を養うことを目的としています。グループワークを多く取り入れ、仲間と共に学ぶ楽しみと喜びを味わいながら、TCUとしての共同体形成を目指します。特に、1年生、2年次編入生、3年次編入生が年齢や経験を超えて共に学ぶ機会の中から、互いに尊敬を持って語り合い、多様な視点を学び合う喜び豊かな機会となることを期待します。
年間を通しての大きなテーマは、春学期は「アカデミック・スキル」をテーマに、「建学の精神」「教派の違い」「カルト」「ハラスメント」などを扱います。秋学期は「共生」をテーマに、キリスト教の視点から考える「福祉」や「グローバル」「臨床心理学」のトピック関する学びをします。冬学期は「キリスト教世界観」をテーマに、TCUの学びの土台となる世界観を学びます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 キリスト教世界観ー世界の創造I（岩田）
第2週 キリスト教世界観ー世界の創造II　御言葉を描くワークショップ（岩田）
第3週 キリスト教世界観ー世界の堕落（岩田）
第4週 キリスト教世界観ー世界の回復I（岩田）
第5週 キリスト教世界観ー世界の回復II（岩田）
第6週 キリスト教世界観ー新しい創造（岩田）
第7週 一年の振り返り（ポートフォリオ作成）（岩田）
第8週 キリスト教世界観ーキリスト者の生き方Iーキリスト者の性・恋愛・結婚（マクドエル）
第9週 キリスト教世界観ーキリスト者の生き方IIーLGBTを考える（徐）
第10週 キリスト教世界観ーまとめ　プロジェクト発表（岩田） スケジュールは変更する場合があります。

＜到達目標＞

１）霊的共同体としてのTCUの一員であることを知ること。
２）TCU生活に不可欠なアカデミックスキル・ソーシャルスキルを身につけること。
３）TCUの学びの土台であるキリスト教世界観について説明できるようになること。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見
BA 主要授業科目

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
課題 50 %
発表 30 %
「TCUスタンダード」では、授業内におけるワークやリフレクション作業を評価対象とします。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安をとしてます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題については、授業内やTeamsを通じてフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

全学生必修科目

合理的配慮が必要な受講生は、個別相談いたします。

IGP400J　卒業研究

齋藤　五十三

6 単位
指定なし
通年

＜授業の内容とねらい＞

４年生になると卒業研究を選択科目として履修する事が出来ます。これまでのような科目を履修して講義を受け、課題を提出する学びとは異なり、自らの関心に基づいてテーマを選び、学生が主体的に取り組んでいく卒業研究は、学習者としての自立を目指す大学教育のゴールに位置するものとも言えます。

卒業研究は通年６単位の科目です。指導教員ひとりに対して学生ひとりによる個人研究の方法と、グループによる協働研究があります。教員のアドバイスを受けながら、テーマ、問題の設定、研究方法等を決めてリサーチを行い、リサーチ結果をまとめながら執筆に取り組みます。12月中旬に初稿を仕上げ、１月後半（1月21日）に最終稿を提出するのが基本的な流れとなります。

卒業研究の基本は論論文式ですが、その他にも翻訳、作曲等にも取り組むことが出来ます（作曲の場合、楽譜と音源を提出）。論文形式の場合、分量は32,000字から40,000字が目安です。最低10冊程度の専門書を用いてください。優れた卒業研究は教員の審査を経て優秀研究賞として表彰されます。また卒業研究は、大学にとっても貴重な知的財産であり、図書館に所蔵され閲覧が可能となります。

＜授業テーマと内容＞

第1週 一回30分以上、年間10回以上の研究指導が目安となります。（春２回、秋４回、冬４回）
第2週 一回30分以上（春学期）
第3週 一回30分以上（秋学期）
第4週 一回30分以上（秋学期）
第5週 一回30分以上（秋学期）
第6週 一回30分以上（秋学期）
第7週 一回30分以上（冬学期）
第8週 一回30分以上（冬学期）
第9週 一回30分以上（冬学期）
第10週 一回30分以上（冬学期）

＜到達目標＞

１）選択した課題に対する研究のスキルを身につける。
２）１年を通して卒業研究担当の教員と定期的に会い、研究の進捗状況を報告しアドバイスを受ける。
３）選択した主題やプロジェクトについての理解を深める。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

最低１０冊以上、専門的文献・資料を用いること。

＜成績評価の方法と基準＞

その他 100 %
卒業研究の評価は、研究指導教員が行います。１年を通しての研究に対する姿勢を加味しつつ、総合的に判断されます。優秀論文に推薦された場合は、指導教員以外の数名の教員が評価し、その結果が教授会に提出されます。教授会での承認を経て、優秀卒業研究が決定します。

＜準備学習等に必要な時間＞

卒業研究に費やすべき時間の目安は、毎週２１０分、毎学期３５時間、１年で１０５時間以上です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

卒業研究の作成過程において、年間を通して受ける教員からの指導の中で随時取り組みに対するフィードバックを受ける。また初稿提出後に、教員からの総評を受ける。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

なるべく早期に興味ある分野の教員に相談し、科目履修上の指導を受けることが求められています。また研究の間、生成AIの使用に関しては大学のガイドラインに従いつつ、指導教員に適宜確認してください。

IIS210J　実習A (キャリア) 複数回履修可

森田　哲也

2 単位
学外
通年

＜授業の内容とねらい＞

本実習は、TCUにおける学びを基盤として、「働くこと」を神の召しと社会への奉仕の文脈で捉え直し、実践的に学ぶことを目的とする。学生は学外の実務現場において一定期間業務を経験し、組織や社会の中で人がどのように責任を担い、隣人に仕えているのかを体験的に理解する。実習を通して、職業を単なる生計手段としてではなく、神から与えられた賜物を用いて人と社会に仕える場として捉える視座を養うことを重視する。また、現場で働く社会人や専門職との関わりを通して、自身の価値観、適性、強み・弱みを省察し、卒業後にどのような形で神と教会、そして社会に仕えていくのかを具体的に考察する機会とする。

＜授業テーマと内容＞

※実習内容および期間は、各学生のインターンシップ先の特性や実施形態に応じて設定される。

＜到達目標＞

・明確な目的意識と祈りをもって実習に臨み、経験を神学的・倫理的視点から振り返ることができる。
・志望する職種や業界について、実体験を通して具体的かつ現実的な理解を深める。
・社会人として求められる基本的なマナー、責任感、誠実さを身につける。
・実習経験を、将来の進路選択や召命理解、就職活動へと主体的につなげることができる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

フィールドワーク

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

課題 10 %
期末レポート 80 %
その他 10 %
期末レポート (Final Report) ：実習レポート　80%
課題（Assignments）：実習日誌　10%
その他　（Other）：実習先評価　10%

＜準備学習等に必要な時間＞

以下の事項をすべて満たしていること。
① キャリア教育関連科目の単位を取得済み、またはアルバイトとは異なる就業体験を有していること。
② キャリアインターンシップ説明会に参加していること。
③ キャリア支援室が実施するマナー講座に出席していること（代替講座も可）。
④ 希望するインターンシップ先へのエントリーシートを提出していること。
⑤ キャリア支援室との事前打ち合わせを完了していること。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

実習期間中は実習ノートを活用し、現場担当者からのコメントや助言を受ける。
実習終了後には提出された課題に対して教員が講評を行い、学びを次の進路選択へとつなげるためのフィードバックを返却する。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

実習先での言動・行動は、東京基督教大学の学生としての証しを伴うものであることを自覚し、誠実かつ責任ある態度で臨むこと。また、守秘義務や実習先の規定を厳守すること。

IIS310J　実習A (グローバル) 複数回履修可

森田　哲也

2 単位
学外
通年

＜授業の内容とねらい＞

この授業は、異文化及びグローバルなテーマに関連する課題の現場に直接触れる体験を通して、学生自らが探求し学びを深めるプロジェクト型学習(Project-Based Learning)です。約1週間～2週間の期間で、各自関心があるテーマを探求できる国内外の現場で実習を行います。始めにテーマについての調査結果と実習企画を含めた計画書を提出します。その後、実習受け入れ先の許可を得た上で、希望する期間を実習します。実習の時期は、該当する期間を一時期に集中して行うか、１学期や年間を通してその期間実習することも可能です。また、同じテーマに関心を持つ学生、特に異文化背景を持つ学生と協働で取組むことを奨励します（しかし義務ではありません）。実習後には、自己評価と共に実習を通じての学びの総括をしたレポートを提出します。レポートを基にしたプレゼンテーションを学内及び学外の関係者を対象に行います。探求的な学びの計画、実践、振り返りまでの一連の学びを学生が主体的に取り組むことで、キリスト者として「破れ口」に立つことの意味を実践的に学ぶことを主なねらいとします。この実習は、主にグローバル・スタディーズ専攻及び副専攻学生対象の授業ですが、他専攻学生も歓迎します。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

・課題探求力：自らが選んだ研究課題について批判的思考の観点から理解を深め、その課題解決のための道筋を論理的に立てることができるようになる。
・企画運営力：　実習や協働作業の企画・運営を主体的に行うことができるようになる。
・コミュニケーション力：　企画の実施のために関係者と円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 課題解決型学習(PBL), フィールドワーク

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
発表 20 %
期末レポート 50 %
その他 20 %
・授業参加度 10%：
実習の計画・実施・最後のレポート提出に至るまでの間で、担当教員への報告、連絡、相談を定期的にしたかどうかで判断します）
・発表　20%：　実習プレゼンテーション　ー
実習後に学内外の関係者を対象として行うプレゼンテーションの内容、構成、伝達力、ビジュアル資料の活用などを評価します。
・期末レポート 50%：　実習レポート　ー
実習の内容、課題との関連、学びの成果、自身の成長についての振り返り等を含む包括的なレポートを評価します。
・その他 Other　20%：実習先からの評価

＜準備学習等に必要な時間＞

最初のオリエンテーションで説明します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

提出物には適宜教員からフィードバックをします。必要に応じて対面で面談の時間を持つ予定です。実習準備のプロセスで相談したいことがあれば、オフィスアワーやその他の時間帯に教員と時間を調整し、個人的なフィードバックを受けることをお勧めします。事前に一言Teamsのチャットでご連絡ください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

・秋・冬学期に開講される「専門演習 (グローバル)」（IMS320J: Major Seminar: Global Studies）の受講を奨励します。
・詳細は教員までお問い合わせください。
森田　morita@tci.ac.jp
Babirye babirye@tci.ac.jp

・海外実習に行く場合の注意事項
海外実習を計画する場合、計画書に加えて以下の書類を指定された時期に提出する必要があります。安全に実習が行えるか精査するために必要な事ですので、締め切りを厳守してください。

IIS320J　実習B (グローバル) 複数回履修可

森田　哲也

4 単位
学外
通年

＜授業の内容とねらい＞

この授業は、異文化及びグローバルなテーマに関連する課題の現場に直接触れる体験を通して、学生自らが探求し学びを深めるプロジェクト型学習(Project-Based Learning)です。約2週間～1か月の期間で、各自関心があるテーマを探求できる国内外の現場で実習を行います。始めにテーマについての調査結果と実習企画を含めた計画書を提出します。その後、実習受け入れ先の許可を得た上で、希望する期間を実習します。実習の時期は、該当する期間を一時期に集中して行うか、１学期や年間を通してその期間実習することも可能です。また、同じテーマに関心を持つ学生、特に異文化背景を持つ学生と協働で取組むことを奨励します（しかし義務ではありません）。実習後には、自己評価と共に実習を通じての学びの総括をしたレポートを提出します。レポートを基にしたプレゼンテーションを学内及び学外の関係者を対象に行います。探求的な学びの計画、実践、振り返りまでの一連の学びを学生が主体的に取り組むことで、キリスト者として「破れ口」に立つことの意味を実践的に学ぶことを主なねらいとします。この実習は、主にグローバル・スタディーズ専攻及び副専攻学生対象の授業ですが、他専攻学生も歓迎します。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

・課題探求力：自らが選んだ研究課題について批判的思考の観点から理解を深め、その課題解決のための道筋を論理的に立てることができるようになる。
・企画運営力：　実習や協働作業の企画・運営を主体的に行うことができるようになる。
・コミュニケーション力：　企画の実施のために関係者と円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 課題解決型学習(PBL), フィールドワーク

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
発表 20 %
期末レポート 50 %
その他 20 %
・授業参加度 10%：
実習の計画・実施・最後のレポート提出に至るまでの間で、担当教員への報告、連絡、相談を定期的にしたかどうかで判断します）
・発表　20%：　実習プレゼンテーション　ー
実習後に学内外の関係者を対象として行うプレゼンテーションの内容、構成、伝達力、ビジュアル資料の活用などを評価します。
・期末レポート 50%：　実習レポート　ー
実習の内容、課題との関連、学びの成果、自身の成長についての振り返り等を含む包括的なレポートを評価します。
・その他 Other　20%：実習先からの評価

＜準備学習等に必要な時間＞

最初のオリエンテーションで説明します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

提出物には適宜教員からフィードバックをします。必要に応じて対面で面談の時間を持つ予定です。実習準備のプロセスで相談したいことがあれば、オフィスアワーやその他の時間帯に教員と時間を調整し、個人的なフィードバックを受けることをお勧めします。事前に一言Teamsのチャットでご連絡ください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

・秋・冬学期に開講される「専門演習 (グローバル)」（IMS320J: Major Seminar: Global Studies）の受講を奨励します。
・詳細は教員までお問い合わせください。
森田　morita@tci.ac.jp
Babirye babirye@tci.ac.jp

・海外実習に行く場合の注意事項
海外実習を計画する場合、計画書に加えて以下の書類を指定された時期に提出する必要があります。安全に実習が行えるか精査するために必要な事ですので、締め切りを厳守してください。

IIS330J　実習C (グローバル) 複数回履修可

森田　哲也

6 単位
学外
通年

＜授業の内容とねらい＞

この授業は、異文化及びグローバルなテーマに関連する課題の現場に直接触れる体験を通して、学生自らが探求し学びを深めるプロジェクト型学習(Project-Based Learning)です。1学期以上の期間で、各自関心があるテーマを探求できる国内外の現場で実習を行います。始めにテーマについての調査結果と実習企画を含めた計画書を提出します。その後、実習受け入れ先の許可を得た上で、希望する期間を実習します。実習の時期は、該当する期間を一時期に集中して行うか、１学期や年間を通してその期間実習することも可能です。また、同じテーマに関心を持つ学生、特に異文化背景を持つ学生と協働で取組むことを奨励します（しかし義務ではありません）。実習後には、自己評価と共に実習を通じての学びの総括をしたレポートを提出します。レポートを基にしたプレゼンテーションを学内及び学外の関係者を対象に行います。探求的な学びの計画、実践、振り返りまでの一連の学びを学生が主体的に取り組むことで、キリスト者として「破れ口」に立つことの意味を実践的に学ぶことを主なねらいとします。この実習は、主にグローバル・スタディーズ専攻及び副専攻学生対象の授業ですが、他専攻学生も歓迎します。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

・課題探求力：自らが選んだ研究課題について批判的思考の観点から理解を深め、その課題解決のための道筋を論理的に立てることができるようになる。
・企画運営力：　実習や協働作業の企画・運営を主体的に行うことができるようになる。
・コミュニケーション力：　企画の実施のために関係者と円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, フィールドワーク, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
発表 20 %
期末レポート 50 %
その他 20 %
・授業参加度 10%：
実習の計画・実施・最後のレポート提出に至るまでの間で、担当教員への報告、連絡、相談を定期的にしたかどうかで判断します）
・発表　20%：　実習プレゼンテーション　ー
実習後に学内外の関係者を対象として行うプレゼンテーションの内容、構成、伝達力、ビジュアル資料の活用などを評価します。
・期末レポート 50%：　実習レポート　ー
実習の内容、課題との関連、学びの成果、自身の成長についての振り返り等を含む包括的なレポートを評価します。
・その他 Other　20%：実習先からの評価

＜準備学習等に必要な時間＞

最初のオリエンテーションで説明します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

提出物には適宜教員からフィードバックをします。必要に応じて対面で面談の時間を持つ予定です。実習準備のプロセスで相談したいことがあれば、オフィスアワーやその他の時間帯に教員と時間を調整し、個人的なフィードバックを受けることをお勧めします。事前に一言Teamsのチャットでご連絡ください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

・秋・冬学期に開講される「専門演習 (グローバル)」（IMS320J: Major Seminar: Global Studies）の受講を奨励します。
・詳細は教員までお問い合わせください。
森田　morita@tci.ac.jp
Babirye babirye@tci.ac.jp

・海外実習に行く場合の注意事項
海外実習を計画する場合、計画書に加えて以下の書類を指定された時期に提出する必要があります。安全に実習が行えるか精査するために必要な事ですので、締め切りを厳守してください。

IIS341J　実習C (グローバル-韓国)

徐　有珍
森田 哲也

6 単位
学外
集中

＜授業の内容とねらい＞

本科目は、韓国で実施する異文化実習を通して、異文化理解と国際的視野を深めることを目的とした実践的な科目です。実習は単なる短期訪問ではなく、韓国で一定期間生活しながら学ぶ滞在型のプログラムです。韓国語や韓国文化に関する先修科目で得た知識を土台に、現地での生活、学習、教会・教育機関・地域社会との交流などを通して、教室では得られない深い異文化体験を目指します。また、本実習では異文化を理解するだけでなく、自国や教会、社会、そして自分自身を新たな視点から見つめ直し、多様な価値観を尊重しながら主体的に考え、行動できる人材を育成することを目標としています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 現地実習
第2週 現地実習
第3週 現地実習
第4週 現地実習
第5週 現地実習
第6週 現地実習
第7週 現地実習
第8週 現地実習
第9週 現地実習
第10週 現地実習 本科目は韓国における現地実習を中心として実施します。

＜到達目標＞

本科目の修了時に、学生は次のことができるようになることを目標とします。
1. 韓国での異文化実習を最後まで主体的かつ責任を持って遂行し、安全に実習を修了することができる。
2. 韓国社会・文化・教会について理解を深めるとともに、日本や自らの価値観を客観的に捉え直すことができる。
3. 異文化体験を具体的な経験と結び付けながら分析・考察し、自らの学びを論理的に説明することができる。
4. 神・教会・社会・世界との関わりについて新たな問いを見いだし、今後の学びや働きへつなげることができる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

必要に応じて事前オリエンテーションにおいて指示します。

＜成績評価の方法と基準＞

発表 10 %
期末レポート 30 %
期末試験 60 %
以下を総合的に評価します。
・発表(10%):実習プレゼンテーション
・期末レポート(30%):実習レポート
・期末試験(60%):実習先での評価（実習への参加状況・成績)

＜準備学習等に必要な時間＞

本科目の履修にあたっては、以下の先修科目を履修していることを原則とします。
•「グローバル・スタディーズ I (異文化理解)」
•「グローバル・スタディーズXI (韓国文化論)」
•「韓国語1(基礎)」、「韓国語2(初級)」、「韓国語3(中級)」

「韓国語1(基礎)」、「韓国語2(初級)」、「韓国語3(中級)」はすべて必修科目です。ただし、すでに一定の韓国語能力を有する学生については、担当教員との相談の上でレベルチェックを実施し、その結果に基づく担当教員の判断により、「韓国語1(基礎)」または「韓国語1(基礎)」と「韓国語2(初級)」の履修を免除し、「韓国語2(初級)」または「韓国語3(中級)」から履修を開始することができます。

また、実習参加者には以下が求められます。
•実習前の危機管理オリエンテーション・各種準備
•実習期間中の積極的な学習・記録（担当教員への報告・連絡・相談）
•実習終了後のレポート作成
•教員との振り返り面談
•学内での実習プレゼンテーション

本科目は、実習前・実習中・実習後を一体化した学習プログラムであり、主体的な準備と振り返りが学習成果を大きく左右します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

実習先での成績と、学生から提出されたレポートおよび発表について、教員が適宜フィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

本実習への参加にあたっては、次の条件を満たしていることが必要です。
1.累積GPAが2.5以上であること（3年次参加の場合は2年次秋学期終了時点）。
2.指定された先修科目の出席率が80%以上であること。
3.実習に必要な事前研修・各種手続き・危機管理研修等に参加すること。
4.実習期間中は大学および受入機関の指示を遵守し、責任ある行動をとること。

(レポートや課題作成に関する生成AIの利用について)
生成AIは、情報収集、文章構成の検討、文章表現の改善などの補助的な目的で利用することができます。ただし、提出物は学生自身の体験と考察に基づいて作成することを原則とします。生成AIを利用した場合は、必要に応じて利用内容を明記してください。不適切な利用や、自らの学習成果とは認められない提出物は評価の対象外となる場合があります。

徐　有珍

2 単位
学外
通年

＜授業の内容とねらい＞

実習A（ユース）は、主にユース・スタディーズ副専攻の学生を対象とした実習科目です。学生はユースミニストリーの現場に赴き、実際にユースとコミュニケーションをとりながら、ミニストリーの計画や実施に関わる経験を通して実践的な学びを深めます。
実習の時期や場所はあらかじめ定められておらず、各自が計画を立ててアレンジします。松原湖バイブルキャンプや奥多摩バイブルキャンプの中学生・高校生を対象としたキャンプ、hi-b-aの集会やキャンプなどが一例ですが、各教団や教会が主催する集会やキャンプ、また教会におけるユースミニストリーの働きを実習の場として選ぶことも可能です。
学生は事前に担当教員へ実習計画書を提出し、キャンプや集会の主催者から許可を得る必要があります。計画書には、実習場所や期間、対象者、自ら設定するミニストリーの目標、およびその評価方法を記載し、責任をもって実習に取り組みます。
実習終了後には、実習を通して学んだこと、良かった点、難しかった点、課題などを振り返り、実習レポートとして提出します。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

① 祈りつつ実習計画案を作成し、自主的に取り組むことができるようになること。
② キャンプや集会においてユースと信頼関係を築けるようになること。
③ ユースの持つさまざまな必要やニーズに目を配ることができるようになること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

中間レポート/試験 30 %
発表 30 %
期末レポート 40 %
・中間レポート：事前に実習計画書を提出します。
・発表：実習結果をユースゼミで発表します。
・期末レポート：実習終了後、報告書を提出します。
＊実習に関する説明は学期初めの実習オリエンテーションで行われますので、必ず参加してください。なお、実習の具体的な内容はあらかじめ定められていません。

＜準備学習等に必要な時間＞

実習先からの指導を受けた上で、必要とされる準備を行う。メッセージ作りや教材の作成、賛美の練習といった内容が含まれる。少なくとも実習開始前１ヶ月から、担当教員と相談の上で、準備を始めること。目安は、全体で20時間ほどとする。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

年間を通した実習の取り組みについて、学生同士の相互評価、自己評価、および教員からの評価を、クラス内での発表や共有を通して行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞

・本科目はユーススタディーズ専攻・副専攻の必修科目です。
・実習期間の目安は2週間です。
・実習の成績評価は年度末に行われます。
・実習に関する説明は学期初めの実習オリエンテーションで行われますので、必ず参加してください。
・ユース・スタディーズ専攻・副専攻においては、実習Aを実施します。実習Bの履修を希望する場合は、事前に担当教員に相談してください。

IIS360J　実習A (福祉) 複数回履修可

井上 貴詞

2 単位
学外
通年

＜授業の内容とねらい＞

キリスト教福祉専攻は、国家資格の受験資格取得コースではない。そのことは、従来実習先として指定された高齢者や障がい者関連施設にしか実習に行けなかった縛りからの解放を意味する。キリスト教世界観との関係で実習を意味づけ、多様な実習先を選ぶことできる。大学近辺でなくてはいけないという縛りもない。

　実習A（福祉）においては、これらのメリットを活かし、信仰の実践として、また一般社会に仕えていくスピリットの醸成として、子どもから障がい者、高齢者または地域福祉やＮＧＯのような支援の働き、教会に密着した福祉ミニストリーまで幅広いジャンルから、自分の召命や事後の学習につながる実習先を選定できる。反面、個々に実習の意義と目標を十分に練り、構築していく努力が求められる。実習のどの段階に臨むかによって「体験学習の重視」か、「社会福祉の知識、技術の学びを深めるのか」など意義も変わる。前者の場合は、福祉の現場を体感し、自らの不足や現場の課題を肌で自覚し、自分の事後の学習の課題を明確化することになる。後者の場合は、学んだ知識や技術を実際の現場の支援の文脈に関連付け、理解を深めるということになる。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

①ケアワークやソーシャルワークの実習の意義について理解する。
②福祉現場で求められる役割、価値と倫理に基づく実践のあり様を洞察できる。
③福祉現場で、支援の対象者となるクライエント理解を深める。
④クライエントからも学び、人間として共生する関係性と態度と専門技術を体感する。
⑤授業で学んだ知識や技術を福祉現場のリアリティに照らし合わせて理解を深める。
⑥自らの福祉実践者としての課題は何かを自覚でき、事後学習の目標設定ができる。
⑦教会の在り方や宣教における福祉実践の関連性、位置付けについて考えることができる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

フィールドワーク

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 50 %
その他 50 %
参加度、事前の計画書、終了後の報告レポートと実習報告プレゼンテーション、実習指導者からフィードバックで評価します。原則実習12日間前後の時間も必須とします。

＜準備学習等に必要な時間＞

介護系かソーシャルワーク系か、いずれかに進むかによって、紹介した文献（もしくは自分で探索した類似の文献）を読破し、実習計画を立てること。また実習前に、ボランティア活動などによって実習に臨むにあたっての波長合わせや体験を積んでおくこと。介護系に実習する場合は、将来介護福祉士の資格取得も視野に入れて学んでいるという姿勢がないと実習受け入れが難しい場合もあります。また、そのためにもKJK（介護実務研修）を受講しておくことが鍵になります（していないと断られる可能性があります）。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

実習中に必要であれば、オンラインや対面でのサポート、相談、指導を行う。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

福祉関連の授業を少なくとも2科目以上履修してから実習に臨むことを推奨する。また、専門演習（キリスト教福祉）の授業でオリエンテーションも行うので、合わせて受講して下さい。

IIS420J　実習B (ユース) 複数回履修可

徐　有珍

4 単位
学外
通年

＜授業の内容とねらい＞

実習B（ユース）は、主にユース・スタディーズ副専攻の学生を対象とした実習科目です。学生はユースミニストリーの現場に赴き、実際にユースとコミュニケーションをとりながら、ミニストリーの計画や実施に関わる経験を通して実践的な学びを深めます。
実習の時期や場所はあらかじめ定められておらず、各自が計画を立ててアレンジします。松原湖バイブルキャンプや奥多摩バイブルキャンプの中学生・高校生を対象としたキャンプ、hi-b-aの集会やキャンプなどが一例ですが、各教団や教会が主催する集会やキャンプ、また教会におけるユースミニストリーの働きを実習の場として選ぶことも可能です。
学生は事前に担当教員へ実習計画書を提出し、キャンプや集会の主催者から許可を得る必要があります。計画書には、実習場所や期間、対象者、自ら設定するミニストリーの目標、およびその評価方法を記載し、責任をもって実習に取り組みます。
実習終了後には、実習を通して学んだこと、良かった点、難しかった点、課題などを振り返り、実習レポートとして提出します。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

① 祈りつつ実習計画案を作成し、自主的に取り組むことができるようになること。
② キャンプや集会においてユースと信頼関係を築けるようになること。
③ ユースの持つさまざまな必要やニーズに目を配ることができるようになること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

中間レポート/試験 30 %
発表 30 %
期末レポート 40 %
・中間レポート：事前に実習計画書を提出します。
・発表：実習結果をユースゼミで発表します。
・期末レポート：実習終了後、報告書を提出します。
＊実習に関する説明は学期初めの実習オリエンテーションで行われますので、必ず参加してください。なお、実習の具体的な内容はあらかじめ定められていません。

＜準備学習等に必要な時間＞

実習先からの指導を受けた上で、必要とされる準備を行う。メッセージ作りや教材の作成、賛美の練習といった内容が含まれる。少なくとも実習開始前１ヶ月から、担当教員と相談の上で、準備を始めること。目安は、全体で20時間ほどとする。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

年間を通した実習の取り組みについて、学生同士の相互評価、自己評価、教員からの評価を、クラス内での発表や共有を通して行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞

・ユース・スタディーズ専攻・副専攻においては、基本的に実習A（2週間）を実施します。実習Bの履修を希望する場合は、事前に担当教員に相談してください。
・実習の成績評価は年度末に行われます。
・実習に関する説明は学期初めの実習オリエンテーションで行われますので、必ず参加してください。

IMS310J　専門演習 (教会教職 1)

小山　望

２単位
教研棟１Ｆ 中教室６
通年 金曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

・牧師・牧師夫人・伝道師・宣教師・教会スタッフ等の「教会教職」を将来的に祈る学生を主とするゼミです。本演習は３年次（＋他専攻に属する希望者）を対象とします。通年で計１０回のセッションを持ちます。
・本ゼミの主目的は、本学での神学全般の学びが個々において実践的に統合されてバランスある教会形成の視野を持つこと、今から教会的・牧会的視点を培うこと、日本の教会や牧会者の課題を感じ取って備えとし、互いの召しと成長のために分かち合い祈りあうことです。特に本ゼミは、教会教職課程４年間のゼミの初年度の学びとして位置づけられています。その初年度は、「教会的・牧会視点への関心と気づき」を大切にします。
・実際のクラスの流れは、机を囲み、学生のプレゼンテーション、質疑、グループディス
カッション、発表、教員によるまとめとなります。
・場所と日程はポータルの時間割に記されています。
・本講教員は地域教会の牧師であり、本学で学んだ後9年間の牧会生活を送っています。主の教会に仕えることの喜びや課題を学生の皆さんと共に分かち合っていきたいと願っています。
・10回のうち2回は外部講師を招いての合同演習となります。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション・召命
第2週 日常の生活
第3週 牧師の常識
第4週 祈祷会、その他の会、訪問
第5週 教団教派の違い
第6週 合同演習
第7週 困難な問題への対応
第8週 伝道
第9週 教育
第10週 合同演習

＜到達目標＞

・（従来の信徒の立場から）牧師の視点によって牧会や教会形成、霊肉のマネージメントの必要を知り、祈り仕える者となること。
・自分の召しの吟味、人格的整え（バランス）の意識を明確にしていくこと。
・ゼミ仲間と、喜び、祈り、課題、痛みを共有する者となること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

*『牧師の仕事』鈴木崇巨著、教文館、2010年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
リフレクション 10 %
発表 40 %
期末レポート 30 %
・全10回であるので、出席（10%）、意欲的なクラスへの参画/参加（10%）を重視します。
・授業毎のリフレクション（10%）
・各自一度プレゼンテーションを行います（40%）。最初のクラスで提示するテーマのうちから一つ選択し、グループでインタビューも含めた発表を行います。
・年度末のレポート提出。（１０回を通して学んだこと。30%）

＜準備学習等に必要な時間＞

教会教職の演習であり、毎週の教会生活そのものが備えと思考の時間となります。またプレゼンの発表者の題目について教科書の当該箇所を事前に読むことを推奨します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

個々の課題（発表、レポート）に応じて評価を伝えます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

牧会者に求められる心構えや牧会の課題、教会に仕える喜びを率直に語り合う場としたいと願っています。授業で扱う内容だけに限らず、これまでの教会生活や実習・学びなどで感じた疑問や不安など、積極的に聞いてください。

IMS320J　専門演習 (グローバル)

森田　哲也

2 単位
教研棟２Ｆ 小教室４
秋冬 金曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

本演習では、国内外の社会的分断を引き起こす問題について深く理解し、和解と平和に向けた批判的思考力を養うことを目的とします。また、多様な文化的背景を持つ人々と協働するための実践的なスキルを身につけることも重要な学びの一環です。授業の中心となる学期プロジェクトでは、学生がチームを組み、関心のあるグローバルな課題を選定します。問題の背景を多角的に分析し、実行可能な解決策を提案するだけでなく、異なる視点からの反論も考慮しながら議論を深めます。このプロセスを通じて、批判的思考力やリサーチ能力を高めるとともに、論理的かつ説得力のあるプレゼンテーションスキルを磨くことができます。さらに、本演習にはグローバルスタディーズ専攻の日本語・英語両トラックの学生が参加するため、異なる言語・文化的背景を持つメンバーと協力しながら学ぶ機会が豊富にあります。多様な価値観や視点を尊重し、異文化理解を深めながらチームワークを実践することが求められます。本科目では高度な英語力は必須ではなく、異なる文化や言語を持つ仲間と協力しようとする意欲を重視します。また、本科目は副専攻生にも履修が推奨されており、幅広い学生が参加できる内容となっています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 導入、授業・実習の進め方、批判的思考、グローバルな課題
第2週 批判的思考の実践、ディスカッション
第3週 批判的思考の実践、ディスカッション
第4週 プレゼンテーション・ディスカッション
第5週 プレゼンテーション・ディスカッション
第6週 批判的思考の実践、ディスカッション
第7週 ゲストスピーカー
第8週 プレゼンテーション・ディスカッション
第9週 プレゼンテーション・ディスカッション
第10週 プレゼンテーション・ディスカッション

＜到達目標＞

・国内外で拡がるグローバルな課題の解決ついて議論する力をつける。
・グローバル社会で活躍するために必要な知識を身につけ、実践力を養う。
・地域社会におけるニーズを発見し、その解決に向けて批判的かつ創造的に思考する力を養う。
・適切な判断力と共感をもって地域社会で行動し、また他者をリードする能力を養う。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, 課題解決型学習(PBL)

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

課題 30 %
中間レポート/試験 30 %
期末レポート 40 %
本講義の成績は、以下の3つの要素に基づいて評価されます。まず、事前課題（30%） は、授業のディスカッションや活動に備えるための課題提出を求めるもので、全体の30%を占めます。次に、中間プレゼンテーション（30%） は、秋学期の終わりに実施され、選択したテーマについての分析力や発表スキルを評価します。最後に、最終プレゼンテーション（40%）
は、冬学期の終わりに行われ、コース全体を通じて培った批判的思考力、リサーチ力、発表スキルを総合的に評価するものです。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業リフレクションや授業の予習のために、授業時間（2時間20分）の約1.5倍（週に3時間半）か、それ以上の時間を確保できるよう心がけてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回の提出物やプレゼンテーション、また随時の質問に対して、教員がフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
秋学期日程：8月28日、9月11日、9月25日、10月9日、10月23日

冬学期日程：11月27日、12月11日、1月8日、1月22日、2月5日

・グローバルスタディーズ副専攻生の指定科目です。
・実習(グローバル)のA、B、Cのいずれかを履修すること奨励します。
・グローバルスタディーズ専攻以外の学生も歓迎します。
・詳細は教員までお問い合わせください。
・森田　morita@tci.ac.jp　Babirye babirye@tci.ac.jp
・この授業では、グループディスカッションの時には、パソコンやスマートフォンなどのデジタルデバイスを使用しないで授業を進めることがあります。これは、学生たちが自己表現やコミュニケーションを重視し、深く考える機会を提供するためです。授業ノートを取るためにパソコンやタブレットを使用することはできますが、それらのデバイス以外でメモを取るためのノートや紙、筆記用具を持参するようにしてください。授業中に必要な情報を取得するためにデジタルデバイスを使用する場合は、教員から適宜指示をします。その指示があった場合でも、授業の趣旨に沿った使用を心がけるようにしてください。

国際協力NGOである日本国際飢餓対策機構での実務経験を活かして講義を提供します。

IMS333J　専門演習 (ユース) 複数回履修可

岡村 直樹
徐 有珍

２単位
教研棟２Ｆ 小教室１
通年 金曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

ミニストリーとは、どのような意味を持つ言葉でしょうか。英語のＮＩＶ訳聖書では、ギリシャ語のdiakoniaという言葉が、ministry（ミニストリー）という言葉に訳されています。☒同じ言葉の動詞形、diakoneoが新改訳聖書では、「もてなす」（マルコ１：３１），そして「仕える」（マルコ１０：４５，ヨハネ１２：２６）という言葉に訳されています。つまりミニストリーとはある意味、「仕える者としてへりくだり、人々の必要を満たす働き」と言い変えることが出来るかもしれません。 このクラスでは、ユースを導く者、つまり彼らにとってのリーダーとはそのような存在で、どのような働きが求められているのかについて考えます。ゼミ形式の学生と教員とのインターアクションを通して、クラス形式では学ぶことが難しい、ユースミニストリーの様々な問題や課題についてフランクに話し合い、学びます。通年の開講で、ユースミニストリー副専攻の必修となっています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 クリスチャン・リーダーシップとユース①
第2週 クリスチャン・リーダーシップとユース②
第3週 クリスチャン・リーダーシップとユース③
第4週 クリスチャン・リーダーシップとユース④
第5週 クリスチャン・リーダーシップとユース⑤
第6週 クリスチャン・リーダーシップとユース⑥
第7週 クリスチャン・リーダーシップとユース⑦
第8週 クリスチャン・リーダーシップとユース⑧
第9週 クリスチャン・リーダーシップとユース⑨
第10週 クリスチャン・リーダーシップとユース⑩
演習についての説明が、オリエンテーションの時に話し合われますので、かならず「ユースミニストリー・オリエンテーション」に参加して下さい。具体的な内容は、参加者の必要や興味に合わせて共に選択しますので、あらかじめ定められる事はありません。

＜到達目標＞

①ユースミニストリーの様々な問題、特にリーダーシップに関する課題について把握し、それらに対する回答や対処法をそれぞれが身に付ける事。②それぞれのインターシップとリンクさせ、フィールドワークを用いた実践的な知識や技能を習得すること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

これからのリーダーが「志すべきこと」を教えよう、マクスウェル,ジョン・C.、三笠書房 (2012/8)
求心力一人を動かす10の鉄則、マクスウェル,ジョン・C.、三笠書房 (2007/07)

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 20 %
発表 40 %
期末レポート 30 %
レポートと学生の積極的な参加によって評価されます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約１．５倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は１４０分ですので、クラス外で毎週約２１０分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

年間を通した多様な取り組みに対して、学生同士の相互評価に加え、学生自身の自己評価、そして教員からの評価を、クラス内での課題発表時に受ける。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞
牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

IMS340J　専門演習 (キリスト教福祉)

井上 貴詞

２単位
福祉棟２Ｆ 教室４
春秋 火曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

本クラスは、社会福祉について身近な出来事から問題意識を持ち、ゼミ形式で学び、考える力を養っていきます。実習・実践現場に出ていくための動機付けを行い、準備をします。実習やボランティアを挟んで、春（6回）と秋（4回）にこのクラスは、実施します。春には主に調べ学習やプレゼンテーションと討議、コミュニケーション技術のロールプレイ、秋には実践現場のふりかえりの報告や討議を行ないます。副専攻の方でも福祉実習Aが指定になっていますので、実習とセットの演習（指定・必修）です。

　尚、本クラスでは援助関係における名著であるF・P・バイステックの『ケースワークの原則』を各自事前学習し、毎回担当を決めて発表と討議をします。準古典ともいえる書籍ですので、現代社会に照らし合わせて理解するために、多くの授業外時間が必要となります。バイステックの原則にあるキリスト教スピリットの真意は触れ、みなで励まし合って読むことの価値は、卒業後福祉に何らか携わるようになった時に財産になっていることに気づきます。春休み中にテキストを購入して読んでおく事をお勧めします。

＜授業テーマと内容＞

第1週 全体オリエンテーションと実習施設の選択、実習学習の心備え
第2週 援助の原則のポイント、コミュニケーション技術と演習①
第3週 コミュニケーション技術と演習②、援助の原則①個別化
第4週 援助の原則②意図的な感情表出、実習事前計画
第5週 実習施設事前訪問（オリエンテーション）、遠隔地の場合はオンライン活用
第6週 実習施設下調べ発表、援助の原則③統制された情緒的関与、
第7週 援助の原則④受容、実習のふりかえり①
第8週 援助の原則⑤非審判的態度、コミュニケーション技術と演習③
第9週 援助の原則⑥クライエントの自己決定、コミュニケーション技術と演習④
第10週 援助の原則⑦秘密保持、まとめ

＜到達目標＞

テキスト、ディスカッション、実践、ふりかえりの展開の中で、履修者は立体的で地に足のついた社会福祉の視点を理解します。
①いきづらさを抱える人に共感し、社会福祉の課題を考えることができる。
②一般の学びからキリスト教世界観からの問題の見方、考え方を身に着ける。
③現場のニーズと実際を知り、仕える働きの姿勢、情熱、知見と実践力を得る。
④具体的な実習への備えができる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, 課題解決型学習(PBL),
フィールドワーク, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

一瀬早百合『社会福祉とわたしたち』萌文書林、2022年
＊F・P・バイステック『ケースワークの原則』誠信書房、2006年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 50 %
発表 30 %
期末レポート 20 %
最初に毎回のプレゼンターを決める。初回からテキストを用意しておくこと。対人援助の原理の準古典ともいえるバイステックの原則を学び、今日の福祉実践への聖書的適用・応用を深めます。実習に行く前の準備学習も含みます。

＜準備学習等に必要な時間＞

ボランティア体験なども含み、授業外の学習時間は、授業時間の倍の280分です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクションペーパーでの疑問点や質問にはフィードバックします。レポートもコメントします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

実習に行く人は必ず履修して下さい。福祉の実習に行かない人が履修しても、対人支援のスキルや価値、原則を学習できる内容です。テキスト指定は、ケースワークの原則一択ですが、福祉の基礎学習を履修していない方はもう一つの参考文献も入手して自己学習をするようにして下さい（もちろん、主専攻の方にも有用な本ですので読まれることはお勧めします）。特に社会福祉主事資格を取りたい方は、卒業後も使える基本テキストです。

IMS410J　専門演習 (教会教職 2)

齋藤　五十三

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
通年 金曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

専門演習 (教会教職
2)では、一年間、書籍を用いて「教会」について考え、調べて発表し、話し合い、「教会論」に関する思索を重ねます。　使用する著書は、辻宣道著『教会生活の処方箋』（日本キリスト教団出版局、2016年）です。この書籍は、かつて日本基督教団議長も務めた辻宣道牧師の静岡県草深教会における豊富な牧会経験を土台にして書かれた著作です。教会の現場での実践に根差した内容でありつつも、神学的な基本を押さえている「教会論」の名著です。初版から年数が経過している書物ですが、普遍的かつ実践的な教会論上の論点を幅広く提供している良書だと思います。説教や聖礼典、役員会の形成や、献金のこと、牧師夫人の立場等など、毎回の話題を変えながら受講生の発表を通してグループによるディスカッションを行います。そのようにして受講生同士で学びつつ、将来の教会形成や教会での奉仕をイメージしつつ、教会教職者としての自分の在り方を探り 、祈り求める時としてください。

＜授業テーマと内容＞

第1週 １章　「教会形成への目覚め」／２ 「教会が教会になる時」
第2週 ３章「教会のいのちは説教」／４「聖餐における共同体」／５「冷たい教会だと言われ…」
第3週 ６章「聖日軽視は、、赤信号」／７「奏楽中に雑談するな」／８「見識豊かな礼拝当番」
第4週 ９章「祈祷会の教会論的、、」／10「祈りにうまいまずいはない」／11「献金は信仰の、、、」
第5週 12章「週報を泣かせるな」／15「教会の籍」／16「教会総会」
第6週 17章「役員の『つとめ』」／18「役員の資質」／19「牧師を育てる」
第7週 合同演習（講師：未定）
第8週 23章「牧師の招聘」／24「牧師の給料」／25「牧師の辞任」
第9週 26章「牧師夫人を噂に、、」／27「恋愛、結婚、家庭、熟年」／29「信徒による牧会」
第10週 合同演習：（講師：川島祥子先生「牧会カウンセリング」）

＜到達目標＞

実際の教会形成において重要となってくる諸課題や念頭に置く必要がある重要なテーマについて神学的（教会論的）視座をもって把握し、それを具体的にイメージできるようになること。また、自身が教職者として立った時に取り組むための具体的な準備となること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

＊辻宣道著『教会生活の処方箋』（日本キリスト教団出版局、2016年）
渡辺信夫著『教会論入門』（新教出版、1997年）
朝岡勝著『教会に生きる喜び』（教文館、2018年）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
リフレクション 30 %
発表 30 %
期末レポート 10 %
授業参加度（＝毎回の指定箇所の読書とリアクションの提出）、リフレクション（＝合同演習三回×毎回のリフレクションポイント10点）、発表（＝分担箇所からのプレゼンテーション）、期末レポート（＝年度末のリフレクション）

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回の演習でディスカッションして、各自が自分のものにすることを目指します。一回の準備に３～5時間をかけてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

最終レポートにコメントを書いて返却します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞
早めに指定教科書（『教会生活の処方箋』）を購入して、初回演習に備えてください。初回の読書箇所はTCUオンラインに提示します。初回からリアクション（400-500字）をご提出ください。

牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

LBG310J　ギリシア語１(文法1)

須藤　英幸

２単位
教研棟１Ｆ 中教室６
春 火曜-2限 金曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

「ギリシア語1」（文法1）は、春学期・秋学期・冬学期を通して学ぶギリシア語文法コースの第一部です。新約聖書を深く理解するためには原典で読解できることが望まれます。新約聖書は、古典ギリシア語がヘレニズム期に広くヘレニズム世界で使われるようになったコイネー・ギリシア語で書かれています。したがって、新約聖書を原典で読解できるようになるためには、コイネー・ギリシア語の文法的知識が欠かせません。

本授業では、ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』を用いて、アルファベットの習得から動詞の時制までの範囲を学びます。具体的には、毎回の授業でギリシア語単語の小テストを行い単語力の強化を図ると共に、毎回出される課題に取り組むことでギリシア語文法の定着を目指します。本コースのねらいは、新約聖書をギリシア語原典で読むことを前提にした、コイネー・ギリシア語文法の知識と技術を獲得することですが、同時に新約聖書のギリシア語テキストに徐々に馴染むことを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション
第2週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第1章（1）、（2）
第3週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第2章（1）、（2）
第4週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第2章（3）、第3章（1）
第5週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第3章（2）、（3）
第6週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第4章（1）、（2）
第7週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第4章（3）、第5章（1）
第8週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第5章（2）、（3）
第9週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第6章（1）、（2）
第10週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第6章（3）、（4）
（受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

・ギリシア語アルファベットを自由に書いて読むことができるようになる。
・ギリシア語テキストを正確に音読することができるようになる。
・ギリシア語の名詞・前置詞・形容詞・動詞の基本的な形態を理解する。
・約200のギリシア語単語の知識を獲得する。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

*『エレメンツ：新約聖書ギリシア語教本』、ジェレミー・ダフ著、浅野淳博訳、改訂第３版、新教出版社、2020年
『改訂新版 新約聖書ギリシア語独習』、玉川直重著、2013年

＜成績評価の方法と基準＞

小テスト 20 %
課題 50 %
期末試験 30 %
・単語テストは、ギリシア語単語の習得を確認するものです。毎回指定した箇所の単語について、授業中に行います。
・課題は、前回の講義の復習で、授業内容の理解を確認するものです。次の授業で提出してください。
・期末試験は、授業全体の理解度を確認するものです。試験期間中に行います。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週約300分の学習時間を確保してください。グループ学習も効果的ですが、課題の解答を写し取ることはできません。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題の提出後に解答例を提示しますので、各自で自分の誤りを訂正してください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞

LBG320J　ギリシア語 2 (文法2)

須藤　英幸

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
秋 火曜-2限 金曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

「ギリシア語２」（文法２）は、春学期・秋学期・冬学期を通して学ぶギリシア語文法コースの第二部です。新約聖書を深く理解するためには原典で読解できることが望まれます。新約聖書は、ヘレニズム期に古典ギリシア語が広くヘレニズム世界で使われるようになったコイネー・ギリシア語で書かれています。したがって、新約聖書を原典で読解できるようになるためには、コイネー・ギリシア語の文法的知識が欠かせません。

本授業では、ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』を用いて、動詞の法から名詞の第3変化までの範囲を学びます。具体的には、毎回の授業でギリシア語単語の小テストを行い単語力の強化を図ると共に、毎回出される課題に取り組むことでギリシア語文法の定着を目指します。本コースのねらいは、新約聖書をギリシア語原典で読むことを前提にした、コイネー・ギリシア語文法の知識と技術を獲得することですが、同時に新約聖書のギリシア語テキストに徐々に馴染むことを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第7章（1）、（2）
第2週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第7章（3）、（4）
第3週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第8章（1）、（2）
第4週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第8章（3）、第9章（1）
第5週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第9章（2）、（3）
第6週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第10章（1）、（2）
第7週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第10章（3）、第11章（1）
第8週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第11章（2）、（3）
第9週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第12章（3）、（4）
第10週 後半の復習・期末試験 （受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

・ギリシア語の単語と文章を自由に書いて読むことができるようになる。
・ギリシア語の単文構造を理解し、和訳することができるようになる。
・ギリシア語動詞の諸形態を理解し、実際に分析できるようになる。
・約200のギリシア語単語の知識を獲得する。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

*『エレメンツ：新約聖書ギリシア語教本』、ジェレミー・ダフ著、浅野淳博訳、改訂第３版、新教出版社、2020年
『改訂新版 新約聖書ギリシア語独習』、玉川直重著、2013年

＜成績評価の方法と基準＞

小テスト 20 %
課題 50 %
期末試験 30 %
・単語テストは、ギリシア語単語の習得を確認するものです。毎回指定した箇所の単語について、授業中に行います。
・課題は、前回の講義の復習で、授業内容の理解を確認するものです。次の授業で提出してください。
・期末試験は、授業全体の理解度を確認するものです。試験期間中に行います。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週約300分の学習時間を確保してください。グループ学習も効果的ですが、課題の解答を写し取ることはできません。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題の提出後に解答例を提示しますので、各自で自分の誤りを訂正してください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞

LBG330J　ギリシア語 3 (文法3)

須藤　英幸

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
冬 火曜-2限 金曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

「ギリシア語3」（文法3）は、春学期・秋学期・冬学期を通して学ぶギリシア語文法コースの第三部です。新約聖書を深く理解するためには原典で読解できることが望まれます。新約聖書は、ヘレニズム期に古典ギリシア語が広くヘレニズム世界で使われるようになったコイネー・ギリシア語で書かれています。したがって、新約聖書を原典で読解できるようになるためには、コイネー・ギリシア語の文法的知識が欠かせません。

本授業では、ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』を用いて、14章から20章までの範囲を学びます。具体的には、毎回の授業でギリシア語単語の小テストを行い単語力の強化を図ると共に、毎回出される課題に取り組むことでギリシア語文法の定着を目指します。本コースのねらいは、新約聖書をギリシア語原典で読むことを前提にした、コイネー・ギリシア語文法の知識と技術を獲得することですが、同時に新約聖書のギリシア語テキストに徐々に馴染むことを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第13章（1）、（2）
第2週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第13章（3）、第14章（1）
第3週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第14章（2）、（3）
第4週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第15章（1）、（2）
第5週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第15章（3）、第16章（1）
第6週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第16章（2）、（3）
第7週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第17章（1）、（2）
第8週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第17章（3）、第18章（1）
第9週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第18章（2）、（3）
第10週 『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』第20章（1）、（2）
（受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

・単語テストは、ギリシア語単語の習得を確認するものです。毎回指定した箇所の単語について、授業中に行います。
・課題は、前回の講義の復習で、授業内容の理解を確認するものです。次の授業で提出してください。
・期末試験は、授業全体の理解度を確認するものです。試験期間中に行います。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

*『エレメンツ：新約聖書ギリシア語教本』、ジェレミー・ダフ著、浅野淳博訳、改訂第３版、新教出版社、2020年
『改訂新版 新約聖書ギリシア語独習』、玉川直重著、2013年

＜成績評価の方法と基準＞

小テスト 20 %
課題 50 %
期末試験 30 %
・単語テストは、ギリシア語単語の習得を確認するものです。毎回指定した箇所の単語について、授業中に行います。
・課題は、前回の講義の復習で、授業内容の理解を確認するものです。次の授業で提出してください。
・期末試験は、授業全体の理解度を確認するものです。試験期間中に行います。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週約300分の学習時間を確保してください。グループ学習も効果的ですが、課題の解答を写し取ることはできません。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題の提出後に解答例を提示しますので、各自で自分の誤りを訂正してください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞

LBG440J　ギリシア語４(講読1)

鈴木　仰

1 単位
大学院棟 講義室B
秋 木曜-2限

＜授業の内容とねらい＞
「ギリシア語４」（講読１）は、二学期に渡るギリシア語講読コースの第一部です。新約聖書を原語で読み進めることで、新約学の要であるギリシア語テキストの釈義（exegesis）に必要な素養を身につけることが、この科目の目標です。

本授業では、比較的易しいギリシア語で書かれているヨハネの福音書を講読します。具体的には、「ギリシア語１～３」を通して培った知見をもとに、ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』を復習しつつ、ヨハネの福音書１～３章の釈義に取り組みます。単語・活用表の小テストを通して基礎力の強化を図るとともに、ヨハネの福音書１～３章の音読、翻訳、解釈に学期を通して取り組むことで、ギリシア語聖書の釈義に必要な知識および能力を身につけることを目標とします。加えて、ギリシア語テキストを読み解く際の手引きとなる『文法ノート』を毎週作成することで、本授業の学びを今後の釈義に生かせる形で整理し、定着させることを目指します。

＜授業テーマと内容＞
第1週 ヨハネの福音書1章（1）
第2週 ヨハネの福音書1章（2）
第3週 ヨハネの福音書1章（3）
第4週 ヨハネの福音書1章（4）
第5週 ヨハネの福音書2章（1）
第6週 ヨハネの福音書2章（2）
第7週 ヨハネの福音書3章（1）
第8週 ヨハネの福音書3章（2）
第9週 ヨハネの福音書3章（3）
第10週 復習

＜到達目標＞
・新約聖書ギリシア語釈義の基礎を学ぶこと。
・ヨハネの福音書１～３章（および同等レベルのギリシア語テキスト）の釈義ができるようになること。
・ギリシア語テキストを講読する基盤を形成すること。
・指定された単語および活用表を暗記すること。

＜DPとの関連＞
DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
グループ学習(ワーク・ディスカッション)

＜(*)教科書・参考書＞
* Nestle-Aland Greek New Testament, 28th Edition
* ジェレミー・ダフ著『エレメンツ・新約聖書ギリシア語教本』（浅野淳博訳）
Wallace, Daniel B. The Basics of New Testament Syntax: An Intermediate Greek Grammar.
Harris, Murray J. John. Exegetical Guide to the Greek New Testament.
Carson, D.A. The Gospel According To John. Pillar New Testament Commentary.
Klink, Edward W. John. Zondervan Exegetical Commentary on the New Testament.
Novakovic, Lidija. John 1–10. Baylor Handbook on the Greek New Testament.

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 10 %
小テスト 40 %
期末レポート 50 %
期末レポートの内訳（釈義ノート30%、文法ノート20%)
※ 成績・課題の詳細は、1回目のクラスで説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞
クラス外で毎週約１５０分の学習時間を確保し、釈義ノートの作成、文法ノートの整理、単語・活用表の暗記などに取り組んできてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
文法ノート、釈義ノートは、コメントと共に返却します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

本科目を履修するには、原則として「ギリシア語３」を終えている必要があります。
受講にあたって気がかりなこと（健康面や言語面の懸念など）がある場合は、講師まで個別にご相談ください。状況に応じて柔軟に対応します。

LBG450J　ギリシア語 5 (講読2)

鈴木　仰

1 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
冬 木曜-2限

＜授業の内容とねらい＞
「ギリシア語５」（講読２）は、二学期に渡るギリシア語講読コースの第二部です。ヨハネの福音書の釈義を中心とした「講読１」に続き、新約聖書を原語で読み進めることで、新約学の要であるギリシア語テキストの釈義（exegesis）に必要な素養を深めることが、このコースの目標です。

本授業では、コロサイ人への手紙を講読します。具体的には、「ギリシア語１～４」を通して培った知見をもとに、ヨハネの福音書と比べてより複雑なギリシア語文法の知識を要するコロサイ人への手紙１～２章の釈義に取り組みます。単語・活用表の小テストを通して基礎力の強化を図るとともに、コロサイ人への手紙１～２章の音読、翻訳、解釈に学期を通して取り組むことで、「講読１」で身につけたギリシア語釈義の知識および能力を深めることを目標とします。ギリシア語テキストを読み解く際の手引きとなる『文法ノート』を毎週作成することで、本授業の学びを今後の釈義に生かせる形で整理し、定着させることを目指します。

＜授業テーマと内容＞
第1週 講読１の復習
第2週 コロサイ人への手紙1章（1）
第3週 コロサイ人への手紙1章（2）
第4週 コロサイ人への手紙1章（3）
第5週 コロサイ人への手紙1章（4）
第6週 コロサイ人への手紙2章（1）
第7週 コロサイ人への手紙2章（2）
第8週 コロサイ人への手紙2章（3）
第9週 コロサイ人への手紙2章（4）
第10週 復習

＜到達目標＞
・新約聖書ギリシア語釈義の知識、能力を深めること。
・コロサイ人への手紙１～２章（および同等レベルのギリシア語テキスト）の釈義ができるようになること。
・ギリシア語テキストを講読する基盤を固めること。
・指定された単語および活用表を暗記すること。

＜DPとの関連＞
DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
グループ学習(ワーク・ディスカッション)

＜(*)教科書・参考書＞
Nestle-Aland Greek New Testament, 28th Edition
『エレメンツ』ダフ著、浅野淳博訳
Wallace, Daniel B. The Basics of New Testament Syntax: An Intermediate Greek Grammar.
Harris, Murray J. Colossians & Philemon. Exegetical Guide to the Greek New Testament.
Moo, Douglas J. The Letters to the Colossians and to Philemon. Pillar New Testament Commentary.
Pao, David W. Colossians and Philemon. Zondervan Exegetical Commentary on the New Testament.

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 10 %
小テスト 40 %
期末レポート 50 %
期末レポートの内訳（釈義ノート30%、文法ノート20%)
※ 成績・課題の詳細は、1回目のクラスで説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞
クラス外で毎週約１５０分の学習時間を確保し、釈義ノートの作成、文法ノートの整理、単語・活用表の暗記などに取り組んできてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
文法ノート、釈義ノートは、コメントと共に返却します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

本科目を履修するには、原則として「ギリシア語４」を終えている必要があります。
受講にあたって気がかりなこと（健康面や言語面の懸念など）がある場合は、講師まで個別にご相談ください。状況に応じて柔軟に対応します。

LBH310J　ヘブライ語１(文法1)

菊池　実

２単位
教研棟１Ｆ 大教室
春 火曜-2限 金曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

旧約聖書の原典言語であるヘブライ語文法の習得を目標とします。ヘブライ語は独特の形の子音文字があり右から左に記す言語です。さらに母音記号と組み合わせて読む必要があります。形態的には単純な言語ながら慣れに時間を要します。スタートに乗り遅れないことが大切です。

クラスはアルファベットから始まり、基礎文法を学ぶと同時に、ヘブライ語聖書の語例と文例を通して、ヘブライ語に慣れていきます。履修者は、各課ごとの新しい単語と各品詞における活用を記憶するだけでなく、その積み重ねと応用の力を養っていく必要があります。聖書原語への期待や喜びは一つ一つの忍耐を伴う積み重ねの結果得られるものです。

テキストは日本語で記された文法書を用います。分かりやすさがある半面、情報の整理が求められます。優先する基本を見落とさないようにしましょう。

クラスの進捗は無理はしません。ただ、意欲を持って学ぶ人たちのためにも、クラス全体一人一人の努力が求められます。ヘブライ語ⅡとⅢは、Ⅰの継続となります。評価、進め方はⅠと同様です。１年を終える時には馴染みのある旧約聖書の箇所をヘブライ語で読むことができるようになります。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション、第１課　文字
第2週 第１課　母音記号、読み、シェヴァ、ダゲシュ
第3週 第２課　音節とアクセント
第4週 第３－５課　冠詞、代名詞、疑問詞
第5週 第３－５課　冠詞、代名詞、疑問詞
第6週 第６課　前置詞と接続詞
第7週 第６課　前置詞と接続詞
第8週 第７課　名詞
第9週 第７課　名詞
第10週 第８課　形容詞

＜到達目標＞

①日々目標として、毎回の文法事項を理解する。次の課へ進む時はすでに学んだ原則を応用できるようになること。
②各課の目標として、聖書に用いられた言語としての文法的意味を語感とともに感じること。
③ヘブライ語の語感に慣れ、原典において感じ取る言葉の感覚の幸いを得ること。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション)

＜(*)教科書・参考書＞

＊聖書ヘブライ語、谷川政美監修、サンパウロ

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
小テスト 70 %
その他 10 %
日々の着実な学習が期待されています。各課終了毎に小テストを行います。小テスト（期末試験含む）は、テキストから出題されます。オンライン（ハイブリッド含む）授業の期間中は基本的に自宅で取り組む持ち帰りテスト（参照可）のテストです。各回の小テスト配分は70%と大きくなっていますので大事に考えてください。宿題、持ち帰り試験もそこに含まれます。また、出席20回がそのまま20%に反映され、欠席・遅刻・早退はそこから差し引かれます。また、積極的な参加を求めます（10%）。語学は極力向き合って表情、発音の口元が分かるようにして学ぶことが大事です。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回クラスで熱かった内容を当日中に復習し、次の授業までに習得するようなコツコツと学ぶ姿勢が極めて重要です。友達とグループで学ぶことを推奨します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

各回の小テスト、持ち帰り試験についてはTAが細かく採点し、担当教員が確認してフォローします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
毎回の積み重ねと真剣な取り組みがなければただの苦痛なクラスにしかなりません。しかししっかりと取り組むなからば喜びや発見や聖書そのものへの関心は深まります。欠席をしてしまうとあっという間に遅れてしまいます。20回のクラス出席が非常に大事になります。

本科目は「どこでもTCU」対象科目です。本科生以外の参加の可能性があります。

イスラエルでの実生活と牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

LBH320J　ヘブライ語 2 (文法2)

菊池　実

2 単位
教研棟 1 F 大教室
秋 火曜-2限 金曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

ヘブライ語 I の続きとして内容を深めていきます。本格的な文法の学修となりますので、夏休みの過ごし方が大変大きな意味を持ちます。単語帳を作り、音読しつつ反復してその感覚を深めましょう。コツコツと忍耐を持って積み重ねることが引き続き大切です。各品詞の特徴と用法を十分つかみつつ、ヘブライ語固有（セム語）の人称接尾辞を徹底して身につけ、また「動的言語」と言われるヘブライ語の動詞の変化や伝達の方法を身に着けます。それらの把握そのものが、神がこの言語を用いた理由の理解や、聖書の読み方に直結することとなります。今後の大学院での学び、牧会者としての説き明かしに向けて、また、ヘブライ語そのものを喜びとするために２学期は最も大事な毎回２０回のセッションとなります。古代のイスラエルにおける日常の言葉であったことも意識しましょう。ギリシア語に比べても読みづらさや発音の違いはあります。しかし日常の言葉としてあの信仰者たちが話し、祈り、賛美した時のオリジナルの言葉であると感じるならば、日常の言葉としての安堵、また私たちにも必ず届く言語である感覚も感じられて、聖書がより身近なものともなります。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

①日々目標として、毎回の文法事項を理解する。次の課へ進む時はすでに学んだ原則を応用できるようになること。
②各課の目標として、聖書に用いられた言語としての文法的意味を語感とともに感じること。
③ヘブライ語の語感に慣れ、原典において感じ取る言葉の感覚の幸いを得ること。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
小テスト 70 %
その他 10 %
単語等の小テスト、宿題、各課終了時の小テストを含めて70%とします。宿題も必ず提出するように努めましょう。仲間を持つことがとても大切です。その他はクラスへの積極的な参加を評価します。出席20回が20%、参加度を10%とします。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回のその日のうちの復習が肝要です。仲間とともに学び合い反復することが学び方として最善です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回TAがフィードバックをし、教員も確認します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

欠席をしてしまうとあっという間に遅れてしまいます。20回のクラス出席が非常に大事になります。
本科目は「どこでもTCU」対象科目です。本科生以外の参加の可能性があります。

イスラエルでの実生活と牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

LBH330J　ヘブライ語 3 (文法3)

菊池　実

2 単位
教研棟 1 F 大教室
冬 火曜-2限 金曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

ヘブライ語文法のいよいよ全体像に迫る仕上げの学びとなります。特に動詞における７つの語幹、各語根の把握、春秋と積み重ねてきた各品詞と単語数がこの学びの成否を決めることとなります。徹底して声に出して反復し、文字を実際に書き、仲間と文法の内容を学び確かめ合い、またマソラの本文そのものを親しみを持っている箇所から読んでいくことが喜びと実際の深まりに秘訣となります。暗唱聖句をし、またヘブライ語のフォークソング、現代ヘブライ語にも触れます。ヘブライ語３を終えるときにそれぞれがこの言語によって記された聖書理解の深まりを持ち、感動を得て次の学びに繋がるように積み重ねをしましょう。そのためにもこの学びのための仲間を持つことと、TAを十分に活用してください。また教員に対して積極的に質問を向ける姿勢を持ってください。進捗を優先しなければならず、受講生に読んでもらうことや練習問題をしてもらうことは多くありませんが、その分是非積極的な参加をしてください。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

初級文法の仕上げとして基本的な単語、構造、人称変化、シンタックス、語感を覚えます。また、ヘブライ語聖書本文の暗唱をし、この言語を体で覚えて、日本語訳の背後にある伝達の感覚を得ることを目標とします。そして次の釈義講読に繋がる学びとすることを目標とします。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
課題 70 %
その他 10 %
単語等の小テスト、宿題、各課終了時の小テストを含めて70%とします。宿題も必ず提出するように努めましょう。仲間を持つことがとても大切です。その他はクラスへの積極的な参加を評価します。出席20回が20%、参加度を10%とします。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回の積み重ねがいよいよ大事になります。寒い季節にどうか暑く仲間と学びあってください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

これまでと同様、TAと担任の教員が毎回の課題にリプライします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

試験の提出期限に遅れることがあっても必ず取り組んで提出してください。出席もまた非常に大事です。
本科目は「どこでもTCU」対象科目です。本科生以外の参加の可能性があります。
イスラエルでの実生活と牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

LBH440J　ヘブライ語 4 (講読1)

平塚　治樹

1 単位
教研棟２Ｆ 小教室１
春 木曜-2限

＜授業の内容とねらい＞
二学期に渡り、旧約聖書のヘブライ語原典を読解し、釈義するために必要な基礎知識、能力、そして、習慣を身につけることがこのクラスの目標です。授業では、テキストの朗読を通してヘブライ語そのものに慣れていくことを心がけます。春学期は特に、初級文法の知識を確実に身に付けること、英語で書かれた辞書を使いこなせるようになること、また、ヘブライ語の音に慣れることを目指します。
This two-semester course aims to provide students with the knowledge, skills, and habits necessary for reading and exegesis of the Old Testament / Hebrew Bible. They will be encouraged to enjoy the process of learning as they practice reading aloud Hebrew texts in class. In the spring term, students will be expected to master the knowledge of elementary Hebrew grammar, get accustomed to the use of a Hebrew lexicon, and familiarize themselves with the sound of the Hebrew language.

＜授業テーマと内容＞
第1週 創世記 1:1–10 ①
第2週 創世記 1:1–10 ②
第3週 申命記 24:14-22 ①
第4週 申命記 24:14-22 ②
第5週 列王記第二 5:1-14 ①
第6週 列王記第二 5:1-14 ②
第7週 エレミヤ書 13:1-11 ①
第8週 エレミヤ書 13:1-11 ②
第9週 エレミヤ書 13:1-11 ③
第10週 復習

＜到達目標＞
・初級文法、特に、基本的な活用形を確実に覚えること。
・英語で書かれた辞書を使いこなせるようになること。
・ヘブライ語の発音や朗読に慣れ親しむこと。
・ヘブライ語を継続的に学んでいくための習慣を身につけること。

＜DPとの関連＞
DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
* K. Elliger and W. Rudolph, eds., Biblia Hebraica Stuttgartensia, Deutsche Bibelgesellschaft（出版年不問）
David J. A. Clines, ed., The Concise Dictionary of Classical Hebrew, Sheffield Academic Press, 2009

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 10 %
小テスト 30 %
期末試験 40 %
その他 20 %
「その他」は、「学習記録ノート」に対する評価。

＜準備学習等に必要な時間＞
クラス外で毎週約１５０分の学習時間を確保し、学習記録ノートでパースなどの予習をしてきてください。詳しくは、初回の授業で説明します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
口頭や文面で適時、フィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

・ヘブル語文法のクラスを終えている、もしくは、同程度のヘブル語文法の知識があることを履修の条件とします。
・辞典など購入の必要があるものについては、初回の授業で説明します。
・学習障害のある方は、早めに教師と個別に相談してください。

LEN111J　Total English 1-A

Rebecca Babirye

4 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
春 火曜-1限,2限 金曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

This class will help you develop a lifestyle for learning English and for growing in knowledge and wisdom. (1) You will experience the value of extensive reading as a way to improve all your language skills and gain important knowledge for life. (2) You will grow your knowledge on various important topics in the liberal arts and sciences by working with digital and print-based stories from ReadOasis.com. (3) Working with these stories, you will improve your listening, reading, speaking, writing, grammar, and vocabulary skills. And
(4) you will improve your overall ability to communicate and think as you interact with your classmates and the big ideas of the arts and sciences.

＜授業テーマと内容＞

第1週　Course Introduction. Story #1: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第2週 Story #2: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第3週 Story #3: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第4週 Story #4: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第5週 Story #5: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第6週 Story #6: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第7週 Story #7: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第8週 Story #8: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第9週 Story #9: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第10週 Story #10: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation

＜到達目標＞

Read and track word counts for graded readers (from the library or the Tadoku room) and stories (from ReadOasis.com), and from other *approved materials.
Show improvement in vocabulary and grammar through online quizzes and tests.
Show improvement in communication skills (speaking, presenting, and writing) through four-skill group activities with evaluation.
*You should ask your teacher to know if other materials are appropriate.

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

Stories from ReadOasis.com

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
小テスト 20 %
課題 30 %
その他 30 %
Other= Tadoku

Class participation: Attend and participate in class communication activities

Quizzes: Remember important facts, words, and ideas from the stories

Word Count: Read big, count your words (TADOKU)

Assignments - Active/Output Task: Listening, Writing, Presentation, or Proficiency test. You will receive the tasks in class.

＜準備学習等に必要な時間＞

Based on your reading speed and your goals, you can estimate how much time to spend for each day of homework. 30 minutes per day is a good guideline.

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

teacher conferences, learning/vocabulary notebook comments, presentation grade sheets, quiz grading,

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

LEN112J　Total English 1-B

森　恵子

4 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
春 火曜-1限,2限 金曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

1. 幅広い教養：自ら言語的な目標を設定し、適切なレベルの多読、多聴または多視聴ができる
2. 幅広い教養：教科書「学び方の学び方」から得られたスタディスキルを、他の場面でも応用して学ぶことができる
3. コミュニケーションスキル：多様な背景や英語スキルを持つ他者を理解し、英語を使って意思疎通をはかることができる

Total English (以下TEと記載)で最重要なのは、多読とそれに関連する活動をあくまで続けることです。多読（平易な英語のテキスト・オーディオ・動画の多量のインプット）を自分にとって効果的な方法で行うことも重要です。また多読中の留学生との交流を持ち、お互いの多読を励まし助け合います。一方教科書である「学び方の学び方」から有効な学習法の理論を知り、各自の学習活動計画から評価までに生かします。「多読」と「学び方」の相互作用を基本とし、さらにプレゼンテーション、グループでの会話、TCU Onlineコースの課題などで、大学で学ぶ基盤となるスキルを身につけます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 第１回ー第2回　会話アクティビティ、コース内容説明、多読イントロダクション
第2週 第３回ー第１９回　多読活動および関連するスピーキング、ライティング
第3週 第３回ー第１９回　TCUオンライン上の活字・音声・動画コンテンツによる学習
第4週 第３回ー第１９回　「学び方の学び方」リーディングに基づくディスカッションと理解度テスト
第5週 第20回　学習の振り返りと評価、発表
第6週 20回の授業内容詳細はTCU Onlineに記載し、授業内で説明します。

＜到達目標＞

受講者は2つのクラスに分かれ、1年を通して同じクラスに在籍します。春学期・秋学期のTEは4単位ずつのクラスで、この期間に自律的に多読を行う習慣をつけ、必要な単語・文法を身に着ける必要があります。冬学期のTEは1単位で、クラス時間外で各自が毎日多読を行うことを前提にし、授業ではそこから学んだことを話し合います。なお、クラス分けは英語テストスコアに基づき、春学期授業開始前に掲示案内されます。1年間でどれだけ英語力をつけたかを客観的に見るために、年度の終わりには伸長度を測るテストがあります。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

* 学び方の学び方　バーバラ・オークレー＆オラフ・シーヴェ　アチーブメント出版　2021
ハートで感じる英文法決定版　大西泰斗・ポールマクベイ　2018　NHK出版

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 40 %
小テスト 20 %
発表 20 %
その他 20 %
授業への完全かつ積極的参加に対し、毎回2ポイントが加算されます。
教科書の理解度を問う小テストが複数回実施されます。
多読活動に基づく英語での発表を行います。
「その他」の主な内容は多読とその記録の共有です。

＜準備学習等に必要な時間＞

このクラスの毎週の授業時間は280分です。満足できる英語力の伸びを実感するためには、その倍の学習時間（授業外の多読や自己学習、教科書の予習・復習、発表の準備時間など）を取ることが求められます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題に対するフィードバックは、授業中の面談、TCU Online、Email、Teamsによって行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

●2026年4月に入学した新入生はTEを1年間履修する必要があります。希望者は2027年度選択科目としてTEを受講できますが、その場合2026年度より難易度の高いクラスのみ受講可能です。

●合理的配慮の例としては、課題内容や実施方法の変更、締切りの延長などがあります。グループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN124J　Total English 2 A-B

森　恵子

4 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
秋 火曜-1限,2限 金曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

1. 幅広い教養：自ら言語的な目標を設定し、適切なレベルの多読、多聴または多視聴ができる
2. 幅広い教養：教科書「学び方の学び方」から得られたスタディスキルを、他の場面でも応用して学ぶことができる
3. コミュニケーションスキル：多様な背景や英語スキルを持つ他者を理解し、英語を使って意思疎通をはかることができる

Total English (以下TEと記載)で最も重要なのは、多読とそれに関連する活動をあくまで続けることです。多読（平易な英語のテキスト・オーディオ・動画の多量のインプット）を自分にとって効果的な方法で行うことも重要です。また多読中の留学生との交流を持ち、お互いの多読を励まし助け合います。一方教科書である「学び方の学び方」から有効な学習法の理論を知り、各自の学習活動計画から評価までに生かします。「多読」と「学び方」の相互作用を基本とし、さらにプレゼンテーション、グループでの会話、TCU Onlineコースの課題などで、大学で学ぶ基盤となるスキルを身につけます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 第１回-第2回　会話アクティビティ、コース内容説明、多読イントロダクション
第2週 第３回-第１９回　多読活動および関連するスピーキング、ライティング
第3週 第３回-第１９回　TCU Online上の活字・音声・動画コンテンツによる学習
第4週 第３回-第１９回　「学び方の学び方」リーディングに基づくディスカッションと理解度テスト
第5週 第20回　学習の振り返りと評価、発表 20回の授業内容詳細はTCU Onlineに記載し、授業内で説明します。

＜到達目標＞

秋学期末までに自律的に多読を行う習慣をつけられるよう、授業内外で多読を行います。英語スキルの伸長については、各自がターゲットに向けた適切なゴール設定と実行のモニタリングを行い、関連するグループ活動をします。教科書(学び方の学び方)内容の理解と応用が、学びの習慣づけおよびゴール設定・モニタリングの基礎となるため、教科書の予習復習と理解度テストを十分に活用します。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊学び方の学び方　バーバラ・オークレー＆オラフ・シーヴェ　アチーブメント出版　2021

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 40 %
小テスト 20 %
発表 20 %
その他 20 %
授業参加度にはクラス出席、活動への積極的参加とオンラインタスクの実行が含まれます。小テストは教科書と文法事項の理解度テスト、発表は留学生との交流とプレゼンテーションを指します。その他は多読ログ、およびそのシェアリングと振り返りが該当します。

＜準備学習等に必要な時間＞

このクラスの毎週の授業時間は280分です。満足できる英語力の伸びを実感するためには、その倍の学習時間（授業外の多読や自己学習、教科書の予習・復習、発表の準備時間など）を取ることが求められます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題に対するフィードバックは、授業中の面談、TCU Online、Email、Teamsによって行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

●2026年4月に入学した新入生はTEを1年間履修する必要があります。希望者は2027年度選択科目としてTEを受講できますが、その場合2026年度より難易度の高いクラスのみ受講可能です。
●合理的配慮の例としては、課題内容や実施方法の変更、締切りの延長などがあります。グループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN124J　Total English 2 A-B

森　恵子

4 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
秋 火曜-1限,2限 金曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

1. 幅広い教養：自ら言語的な目標を設定し、適切なレベルの多読、多聴または多視聴ができる
2. 幅広い教養：教科書「学び方の学び方」から得られたスタディスキルを、他の場面でも応用して学ぶことができる
3. コミュニケーションスキル：多様な背景や英語スキルを持つ他者を理解し、英語を使って意思疎通をはかることができる

Total English (以下TEと記載)で最重要なのは、多読とそれに関連する活動をあくまで続けることです。多読（平易な英語のテキスト・オーディオ・動画の多量のインプット）を自分にとって効果的な方法で行うことも重要です。また多読中の留学生との交流を持ち、お互いの多読を励まし助け合います。一方教科書である「学び方の学び方」から有効な学習法の理論を知り、各自の学習活動計画から評価までに生かします。「多読」と「学び方」の相互作用を基本とし、さらにプレゼンテーション、グループでの会話、TCU Onlineコースの課題などで、大学で学ぶ基盤となるスキルを身につけます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 第１回ー第2回　会話アクティビティ、コース内容説明、多読イントロダクション
第2週 第３回ー第１９回　多読活動および関連するスピーキング、ライティング
第3週 第３回ー第１９回　TCU Online上の活字・音声・動画コンテンツによる学習
第4週 第３回ー第１９回　「学び方の学び方」リーディングに基づくディスカッションと理解度テスト
第5週 第20回　学習の振り返りと評価、発表
第6週 20回の授業内容詳細はTCU Onlineに記載し、授業内で説明します。

＜到達目標＞

受講者は2つのクラスに分かれ、1年を通して同じクラスに在籍します。春学期・秋学期のTEは4単位ずつのクラスで、この期間に自律的に多読を行う習慣をつけ、必要な単語・文法を身に着ける必要があります。冬学期のTEは1単位で、クラス時間外で各自が毎日多読を行うことを前提にし、授業ではそこから学んだことを話し合います。なお、クラス分けは英語テストスコアに基づき、春学期授業開始前に掲示案内されます。1年間でどれだけ英語力をつけたかを客観的に見るために、年度の終わりには伸長度を測るテストがあります。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊学び方の学び方　バーバラ・オークレー＆オラフ・シーヴェ　アチーブメント出版　2021
ハートで感じる英文法決定版　大西泰斗・ポールマクベイ　2018　NHK出版

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 40 %
小テスト 20 %
発表 20 %
その他 20 %
授業参加度にはクラス出席、活動への積極的参加とオンラインタスクの実行が含まれます。小テストは教科書と文法事項の理解度テスト、発表は留学生との交流とプレゼンテーションを指します。その他は多読ログ、およびそのシェアリングと振り返りが該当します。

＜準備学習等に必要な時間＞

このクラスの毎週の授業時間は280分です。満足できる英語力の伸びを実感するためには、その倍の学習時間（授業外の多読や自己学習、教科書の予習・復習、発表の準備時間など）を取ることが求められます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題に対するフィードバックは、授業中の面談、TCU Online、Email、Teamsによって行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

●2026年4月に入学した新入生はTEを1年間履修する必要があります。希望者は2027年度選択科目としてTEを受講できますが、その場合2026年度より難易度の高いクラスのみ受講可能です。
●合理的配慮の例としては、課題内容や実施方法の変更、締切りの延長などがあります。グループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN134J　Total English 3 A-B

森　恵子

1 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
冬 火曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

1. 幅広い教養：自ら言語的な目標を設定し、適切なレベルの多読、多聴または多視聴ができる
2. 幅広い教養：教科書「学び方の学び方」から得られたスタディスキルを、他の場面でも応用して学ぶことができる
3. コミュニケーションスキル：多様な背景や英語スキルを持つ他者を理解し、英語を使って意思疎通をはかることができる

Total English (以下TEと記載)で最も重要なのは、多読とそれに関連する活動をあくまで続けることです。多読（平易な英語のテキスト・オーディオ・動画の多量のインプット）を自分にとって効果的な方法で行うことも重要です。また教科書である「学び方の学び方」から有効な学習法の理論を知り、各自の学習活動計画から評価までに生かします。「多読」と「学び方」の相互作用を基本とし、さらにプレゼンテーション、グループでの会話、TCU Onlineコースの課題などで、大学で学ぶ基盤となるスキルを身につけます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 第１回　会話アクティビティ及びコース内容説明
第2週 第2回-第9回　多読関連のスピーキング、ライティング
第3週 第２回-第９回　4技能のスキルを磨く活動、テスト対策
第4週 第10回　学習の振り返りと評価、発表 10回の授業内容詳細はTCU Onlineに記載し、授業内で説明します。

＜到達目標＞

冬学期のTEは1単位で、クラス時間外で各自が毎日多読を行うことを前提にし、授業内で多読から学んだことを話し合います。秋学期と同様各自が英語学習計画と実行のモニタリングを行い、授業ではその振り返りと質疑応答の時間があります。年度末の伸長度を測るテストに向け、練習問題を解く課題によりテストスキルを高めます。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊学び方の学び方　バーバラ・オークレー＆オラフ・シーヴェ　アチーブメント出版　2021

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
小テスト 30 %
発表 20 %
その他 20 %

授業参加度はクラス出席とクラス内活動、小テストは英語学習とその達成度を測る指標、発表は授業内活動を基盤にしたプレゼンテーション、その他は多読ログ、そのシェアと振り返りを指します。詳細はTCU Onlineに記載し、授業内でも説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞

このクラスの毎週の授業時間は70分です。満足できる英語力の伸びを実感するためには、その倍以上の学習時間（授業外の多読や自己学習、教科書の予習・復習、発表の準備時間など）を取ることが求められます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題に対するフィードバックは、授業中の面談、TCU Online、Email、Teamsによって行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

●2026年4月に入学した新入生はTEを1年間履修する必要があります。希望者は2027年度選択科目としてTEを受講できますが、その場合2026年度より難易度の高いクラスのみ受講可能です。
●合理的配慮の例としては、課題内容や実施方法の変更、締切りの延長などがあります。グループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN134J　Total English 3 A-B

森　恵子

1 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
冬 火曜-2限

＜授業の内容とねらい＞
1. 幅広い教養：自ら言語的な目標を設定し、適切なレベルの多読、多聴または多視聴ができる
2. 幅広い教養：教科書「学び方の学び方」から得られたスタディスキルを、他の場面でも応用して学ぶことができる
3. コミュニケーションスキル：多様な背景や英語スキルを持つ他者を理解し、英語を使って意思疎通をはかることができる
Total English (以下TEと記載)で最重要なのは、多読とそれに関連する活動をあくまで続けることです。多読（平易な英語のテキスト・オーディオ・動画の多量のインプット）を自分にとって効果的な方法で行うことも重要です。また多読中の留学生との交流を持ち、お互いの多読を励まし助け合います。一方教科書である「学び方の学び方」から有効な学習法の理論を知り、各自の学習活動計画から評価までに生かします。「多読」と「学び方」の相互作用を基本とし、さらにプレゼンテーション、グループでの会話、TCU Onlineコースの課題などで、大学で学ぶ基盤となるスキルを身につけます。

＜授業テーマと内容＞
第1週 第１回　会話アクティビティ及びコース内容説明
第2週 第2回ー第9回　多読関連のスピーキング、ライティング
第3週 第２回ー第９回　4技能のスキルを磨く活動、テスト対策
第4週 第10回　学習の振り返りと評価、発表
第5週 10回の授業内容詳細はTCU Onlineに記載し、授業内で説明します。

＜到達目標＞
受講者は2つのクラスに分かれ、1年を通して同じクラスに在籍します。春学期・秋学期のTEは4単位ずつのクラスで、この期間に自律的に多読を行う習慣をつけ、必要な単語・文法を身に着ける必要があります。冬学期のTEは1単位で、クラス時間外で各自が毎日多読を行うことを前提にし、授業ではそこから学んだことを話し合います。なお、クラス分けは英語テストスコアに基づき、春学期授業開始前に掲示案内されます。1年間でどれだけ英語力をつけたかを客観的に見るために、年度の終わりには伸長度を測るテストがあります。

＜DPとの関連＞
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞
＊学び方の学び方　バーバラ・オークレー＆オラフ・シーヴェ　アチーブメント出版　2021
ハートで感じる英文法決定版　大西泰斗・ポールマクベイ　2018　NHK出版

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 30 %
小テスト 30 %
発表 20 %
その他 20 %
授業参加度はクラス出席とクラス内活動、小テストは英語学習とその達成度を測る指標、発表は学期末の英語によるプレゼンテーション、その他は多読ログ、およびそのシェアと振り返りを指します。詳細はTCU Onlineに記載し、授業内でも説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞
このクラスの毎週の授業時間は70分です。満足できる英語力の伸びを実感するためには、その倍以上の学習時間（授業外の多読や自己学習、教科書の予習・復習、発表の準備時間など）を取ることが求められます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
課題に対するフィードバックは、授業中の面談、TCU Online、Email、Teamsによって行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞
●2026年4月に入学した新入生はTEを1年間履修する必要があります。希望者は2027年度選択科目としてTEを受講できますが、その場合2026年度より難易度の高いクラスのみ受講可能です。
●合理的配慮の例としては、課題内容や実施方法の変更、締切りの延長などがあります。グループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN211J　Total English 4-A

Rebecca Babirye

4 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
春 火曜-1限,2限 金曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

This class will help you develop a lifestyle for learning English and for growing in knowledge and wisdom. (1) You will experience the value of extensive reading as a way to improve all your language skills and gain important knowledge for life. (2) You will grow your knowledge on various important topics in the liberal arts and sciences by working with digital and print-based stories from ReadOasis.com. (3) Working with these stories, you will improve your listening, reading, speaking, writing, grammar, and vocabulary skills. And
(4) you will improve your overall ability to communicate and think as you interact with your classmates and the big ideas of the arts and sciences.

＜授業テーマと内容＞

第1週 Course Introduction. Story #1: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第2週 Story #2: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第3週 Story #3: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第4週 Story #4: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第5週 Story #5: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第6週 Story #6: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第7週 Story #7: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第8週 Story #8: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第9週 Story #9: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation
第10週 Story #10: Listening, Vocabulary, Discussion, Grammar, Conversation

＜到達目標＞

Read and track word counts for graded readers (from the library or the Tadoku room) and stories (from ReadOasis.com), and from other *approved materials.
Show improvement in vocabulary and grammar through online quizzes and tests.
Show improvement in communication skills (speaking, presenting, and writing) through four-skill group activities with evaluation.
*You should ask your teacher to know if other materials are appropriate.

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

Stories from ReadOasis.com

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
小テスト 20 %
課題 30 %
その他 30 %
Other=extensive reading

＜準備学習等に必要な時間＞

Based on your reading speed and your goals, you can estimate how much time to spend for each day of homework. 30 minutes per day is a good guideline.

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

teacher conferences, learning/vocabulary notebook comments, presentation grade sheets, quiz grading,

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

LEN221J　Total English 5-A

森　恵子

4 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
秋 火曜-1限,2限 金曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞
1. 幅広い教養：自ら言語的な目標を設定し、適切なレベルの多読、多聴または多視聴ができる
2. 幅広い教養：教科書「学び方の学び方」から得られたスタディスキルを、他の場面でも応用して学ぶことができる
3. コミュニケーションスキル：多様な背景や英語スキルを持つ他者を理解し、英語を使って意思疎通をはかることができる
Total English (以下TEと記載)で最も重要なのは、多読とそれに関連する活動をあくまで続けることです。多読（平易な英語のテキスト・オーディオ・動画の多量のインプット）を自分にとって効果的な方法で行うことも重要です。また多読中の留学生との交流を持ち、お互いの多読を励まし助け合います。一方教科書である「学び方の学び方」から有効な学習法の理論を知り、各自の学習活動計画から評価までに生かします。「多読」と「学び方」の相互作用を基本とし、さらにプレゼンテーション、グループでの会話、TCU Onlineコースの課題などで、大学で学ぶ基盤となるスキルを身につけます。

＜授業テーマと内容＞
第1週 第１回-第2回　会話アクティビティ、コース内容説明、多読イントロダクション
第2週 第３回-第１９回　多読活動および関連するスピーキング、ライティング
第3週 第３回-第１９回　TCU Online上の活字・音声・動画コンテンツによる学習
第4週 第３回-第１９回　「学び方の学び方」リーディングに基づくディスカッションと理解度テスト
第5週 第20回　学習の振り返りと評価、発表 20回の授業内容詳細はTCU Onlineに記載し、授業内で説明します。

＜到達目標＞
秋学期末までに自律的に多読を行う習慣をつけられるよう、授業内外で多読を行います。英語スキルの伸長については、各自がターゲットに向けた適切なゴール設定と実行のモニタリングを行い、関連するグループ活動をします。教科書(学び方の学び方)内容の理解と応用が、学びの習慣づけおよびゴール設定・モニタリングの基礎となるため、教科書の予習復習と理解度テストを十分に活用します。

＜DPとの関連＞
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞
＊学び方の学び方　バーバラ・オークレー＆オラフ・シーヴェ　アチーブメント出版　2021

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 40 %
小テスト 20 %
発表 20 %
その他 20 %
授業参加度にはクラス出席、活動への積極的参加とオンラインタスクの実行が含まれます。小テストは教科書と文法事項の理解度テスト、発表は留学生との交流とプレゼンテーションを指します。その他は多読ログ、およびそのシェアリングと振り返りが該当します。

＜準備学習等に必要な時間＞
このクラスの毎週の授業時間は280分です。満足できる英語力の伸びを実感するためには、その倍の学習時間（授業外の多読や自己学習、教科書の予習・復習、発表の準備時間など）を取ることが求められます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
課題に対するフィードバックは、授業中の面談、TCU Online、Email、Teamsによって行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞
●2026年4月に入学した新入生はTEを1年間履修する必要があります。希望者は2027年度選択科目としてTEを受講できますが、その場合2026年度より難易度の高いクラスのみ受講可能です。
●合理的配慮の例としては、課題内容や実施方法の変更、締切りの延長などがあります。グループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN231J　Total English 6-A

森　恵子

1 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
冬 火曜-2限

＜授業の内容とねらい＞
1. 幅広い教養：自ら言語的な目標を設定し、適切なレベルの多読、多聴または多視聴ができる
2. 幅広い教養：教科書「学び方の学び方」から得られたスタディスキルを、他の場面でも応用して学ぶことができる
3. コミュニケーションスキル：多様な背景や英語スキルを持つ他者を理解し、英語を使って意思疎通をはかることができる
Total English (以下TEと記載)で最も重要なのは、多読とそれに関連する活動をあくまで続けることです。多読（平易な英語のテキスト・オーディオ・動画の多量のインプット）を自分にとって効果的な方法で行うことも重要です。また教科書である「学び方の学び方」から有効な学習法の理論を知り、各自の学習活動計画から評価までに生かします。「多読」と「学び方」の相互作用を基本とし、さらにプレゼンテーション、グループでの会話、TCU
Onlineコースの課題などで、大学で学ぶ基盤となるスキルを身につけます。

＜授業テーマと内容＞
第1週 第１回　会話アクティビティ及びコース内容説明
第2週 第2回-第9回　多読関連のスピーキング、ライティング
第3週 第２回-第９回　4技能のスキルを磨く活動、テスト対策
第4週 第10回　学習の振り返りと評価、発表 10回の授業内容詳細はTCU Onlineに記載し、授業内で説明します。

＜到達目標＞
冬学期のTEは1単位で、クラス時間外で各自が毎日多読を行うことを前提にし、授業内で多読から学んだことを話し合います。秋学期と同様各自が英語学習計画と実行のモニタリングを行い、授業ではその振り返りと質疑応答の時間があります。年度末の伸長度を測るテストに向け、練習問題を解く課題によりテストスキルを高めます。

＜DPとの関連＞
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞
＊学び方の学び方　バーバラ・オークレー＆オラフ・シーヴェ　アチーブメント出版　2021

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 30 %
小テスト 30 %
発表 20 %
その他 20 %
授業参加度はクラス出席とクラス内活動、小テストは英語学習とその達成度を測る指標、発表は授業内活動を基盤にしたプレゼンテーション、その他は多読ログ、そのシェアと振り返りを指します。詳細はTCU Onlineに記載し、授業内でも説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞
このクラスの毎週の授業時間は70分です。満足できる英語力の伸びを実感するためには、その倍以上の学習時間（授業外の多読や自己学習、教科書の予習・復習、発表の準備時間など）を取ることが求められます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
課題に対するフィードバックは、授業中の面談、TCU Online、Email、Teamsによって行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞
●2026年4月に入学した新入生はTEを1年間履修する必要があります。希望者は2027年度選択科目としてTEを受講できますが、その場合2026年度より難易度の高いクラスのみ受講可能です。
●合理的配慮の例としては、課題内容や実施方法の変更、締切りの延長などがあります。グループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN260J　English Intensive Study Abroad

森　恵子

4 単位
学外
集中

＜授業の内容とねらい＞

・1か月間集中して学ぶことで、英語で理解し、考え、発信する訓練を積む
・英語を使って異なる他者との相互理解をはかり、理解のために必要なスキルは何かを知る
・異文化で生活し適応するプロセスから、自己と他者について有益な気づきを得る
・学んだことを言葉やメディアを使って表現し、プレゼンテーションとして発表する
English Intensive Study Abroad (EISA)は語学教育の一環として行われ、世界の人々とコミュニケーションを取ることのできる英語力を身につけると同時に、研修を通じて異文化理解を深めることを目標としています。毎日たくさんのインプットとアウトプットを繰り返し、互いに理解できているかを確かめ合う経験から、自分の力を知り、必要なスキルは何かを知ります。またことばを使って相互理解をはかる中で異なる慣習、考え方、価値観に触れることで、自らの「当たり前」を相対化し、よりグローバルな視点で社会と人々を見ることを学びます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 現地渡航、オリエンテーション、クラス開始
第2週 研修先のプログラムに沿って学習、日常生活における仲間との相互理解
第3週 週末の地域探索、教会の礼拝参加、などの異文化体験
第4週 卒業式、帰国、プレゼンテーション準備

＜到達目標＞

スピーキング等英語アウトプットの力をつけるため、個人・グループで実践的な学びを集中的に行います。同時に異文化で生活することから得られる体験、発見を他者と分かち合います。また各プログラム終了後に、研修を通して何を得たかを振り返り、英語でプレゼンテーションを行います。（場合によっては英語で発表する動画を作り、アップロードすることも可能です。）

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

在籍するクラスごとに教科書が異なります。現地での説明を受けて対応してください。

＜成績評価の方法と基準＞

発表 20 %
その他 80 %
授業出席、課題の提出、英語力の伸びなどを見るために、現地からTCUへ送られる成績評価を利用します。それに加えて帰国後の振り返りと発表も評価します。

＜準備学習等に必要な時間＞

戦略的に予習復習の時間を取りましょう。研修先の決まりに沿って学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題に限らず様々な疑問や問題が生じた場合は、いつでも担当の教職員に連絡してください。電話、Email、Teamsなど事前のオリエンテーションで示された連絡先のうち、適切と思われるものを選択してください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

どなたでも参加できる選択科目です。夏休み期間に1か月行われる集中英語研修科目ですので、学納金とは別に研修費用がかかります。

LEN311J　Total English C (TOEIC対策 Spring) 1

森　恵子

２単位
教研棟１Ｆ 中教室５
春 木曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

TOEICテスト受検を考えている英語学習者が、テストの特徴を理解しながら学び続けるための準備コースです。就活のためにTOEIC受験を考える学生は多いですが、準備をせずに受けるとほとんどの場合失敗に終わります。準備をしても、回答時にスピードを求められる、社会人向けのトピックが多い、という理由で学習の意欲を失うことがあります。このコースでは毎回時間を測って各自予習課題を行い、授業時間には練習問題や模試を解いて疑問点を解消し、各自復習して知識の定着を図る学びのパターンを習慣化します。換言すると、必要な予習復習を継続しないならば、スコアが上がることもなく単位を得ることもできません。TOEICテストは一般社会で英語を使用する場面を想定した問題が出されるため、会社等での従業員同士の会話、デジタルベースの説明や案内などにも慣れる必要があります。例えば課題に含まれるリスニングスクリプトの音読は、慣れるまで難しく感じる可能性があります。社会に出て英語を使う（ほとんどの場合スピードが求められます）、英語で受信・発信するための準備と捉えるとよいでしょう。慣れないトピックの練習問題もよい挑戦の機会としてください。

＜授業テーマと内容＞

第1週 TOEIC模試１回目、スコア記録、ゴール設定と学習計画のログ
第2週 教科書第１-2章に関する共同学習、音読課題ガイダンス、自習ゴール設定の緻密化
第3週 教科書第3章に関する共同学習、練習問題、学習ログ記録方法と内容の確認
第4週 教科書第4章に関する共同学習、練習問題、予習復習内容の確認
第5週 TOEIC模試２回目、スコア記録＆リスニングに関する振り返り
第6週 教科書第5章に関する共同学習、練習問題、単語・文法学習の意義
第7週 教科書第6章に関する共同学習、練習問題、文章問題学習の意義
第8週 教科書第7章に関する共同学習、練習問題、多聴多読の意義
第9週 TOEIC模試３回目、スコア記録＆リーディングに関する振り返り
第10週 自習用アプリ・テキスト等の共有、学びの振り返りと今後の計画のプレゼン、コース評価

＜到達目標＞

まずはTOEIC模試を３回受け、テストのスピードと内容に慣れることです。次にテストの特徴を理解し、他者に説明できるようになることです。さらに自分の英語力と目標とするテストスコアの間のギャップを明確にし、具体的な学習計画と実行が習慣化されることです。　継続的な学びを通して英語の処理能力を上げ、日常的に英語を使う生活をイメージできるようになれば、テスト不安は軽減されていきます。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊TOEIC L&R TEST はじめから超特急金のパッケージ　TEX加藤著　朝日新聞出版

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
小テスト 30 %
課題 40 %
発表 10 %
成績評価の詳細は１回目のクラスで説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞

本コースで１学期間テストの傾向と準備学習の方法を学んだら、あとは自学によりテストスコアを上げる取り組みができる学習者となってください。TOEICテスト初心者が自学できるようになるためには、予習による知識の蓄積、復習による英語スキルの定着、そしてクラス内共同学習の全てに取り組み続け、予習復習の合計時間が授業時間の約２倍となることが目安です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

TCU Onlineを使った活動については、できる限り即時フィードバックを行います。授業内容、または予習復習時に生じる疑問は、メール・Teamsか対面で問い合わせをくだされば回答いたします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。

＜その他履修上の注意点＞

・クラス初回にTOEIC模試１回目を行うので、鉛筆またはシャープペンと消しゴムを持ってきてください。
・春学期開講コースと冬学期開講コースの内容は同じです。TOEIC受検を考える学生が、どちらか一方の学期に履修することを想定しています。
・合理的配慮の例として、代替課題の提案や課題提出期限の延長があります。授業ではグループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LEN331J　Total English C (TOEIC対策 Winter) 1

森　恵子

2 単位
大チャペル
冬 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

TOEICテスト受検を考えている英語学習者が、テストの特徴を理解しながら学び続けるための準備コースです。就活のためにTOEIC受験を考える学生は多いですが、準備をせずに受けるとほとんどの場合失敗に終わります。準備をしても、回答時にスピードを求められる、社会人向けのトピックが多い、という理由で学習の意欲を失うことがあります。このコースでは毎回時間を測って各自予習課題を行い、授業時間には練習問題や模試を解いて疑問点を解消し、各自復習して知識の定着を図る学びのパターンを習慣化します。換言すると、必要な予習復習を継続しないならば、スコアが上がることもなく単位を得ることもできません。TOEICテストは一般社会で英語を使用する場面を想定した問題が出されるため、会社等での従業員同士の会話、デジタルベースの説明や案内などにも慣れる必要があります。例えば課題に含まれるリスニングスクリプトの音読は、慣れるまで難しく感じる可能性があります。社会に出て英語を使う（ほとんどの場合スピードが求められます）、英語で受信・発信するための準備と捉えるとよいでしょう。慣れないトピックの練習問題もよい挑戦の機会としてください。

＜授業テーマと内容＞

第1週 TOEIC模試１回目、スコア記録、ゴール設定と学習計画のログ
第2週 教科書第１-2章に関する共同学習、音読課題ガイダンス、自習ゴール設定の緻密化
第3週 教科書第3章に関する共同学習、練習問題、学習ログ記録方法と内容の確認
第4週 教科書第4章に関する共同学習、練習問題、予習復習内容の確認
第5週 TOEIC模試２回目、スコア記録＆リスニングに関する振り返り
第6週 教科書第5章に関する共同学習、練習問題、単語・文法学習の意義
第7週 教科書第6章に関する共同学習、練習問題、文章問題学習の意義
第8週 教科書第7章に関する共同学習、練習問題、多聴多読の意義
第9週 TOEIC模試３回目、スコア記録＆リーディングに関する振り返り
第10週 自習用アプリ・テキスト等の共有、学びの振り返りと今後の計画のプレゼン、コース評価

＜到達目標＞

まずはTOEIC模試を３回受け、テストのスピードと内容に慣れることです。次にテストの特徴を理解し、他者に説明できるようになることです。さらに自分の英語力と目標とするテストスコアの間のギャップを明確にし、具体的な学習計画と実行が習慣化されることです。　継続的な学びを通して英語の処理能力を上げ、日常的に英語を使う生活をイメージできるようになれば、テスト不安は軽減されていきます。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊TOEIC L&R TEST はじめから超特急金のパッケージ　TEX加藤著　朝日新聞出版

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
小テスト 30 %
課題 40 %
発表 10 %
成績評価の詳細は１回目のクラスで説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞

本コースで１学期間テストの傾向と準備学習の方法を学んだら、あとは自学によりテストスコアを上げる取り組みができる学習者となってください。TOEICテスト初心者が自学できるようになるためには、予習による知識の蓄積、復習による英語スキルの定着、そしてクラス内共同学習の全てに取り組み続け、予習復習の合計時間が授業時間の約２倍となることが目安です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

TCU Onlineを使った活動については、できる限り即時フィードバックを行います。授業内容、または予習復習時に生じる疑問は、メール・Teamsか対面で問い合わせをくだされば回答いたします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。

＜その他履修上の注意点＞

・クラス初回にTOEIC模試１回目を行うので、鉛筆またはシャープペンと消しゴムを持ってきてください。
・春学期開講コースと冬学期開講コースの内容は同じです。TOEIC受検を考える学生が、どちらか一方の学期に履修することを想定しています。
・合理的配慮の例として、代替課題の提案や課題提出期限の延長があります。授業ではグループ活動や対話を重視するため、オンライン参加への切り替えは想定していません。

LKO210J　韓国語 1 (基礎)

徐　有珍

2 単位
教研棟２Ｆ 小教室４
秋 金曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞
ハングルとは、韓国および北朝鮮で使用されている文字の名称です。ハングルが創製される以前、朝鮮半島では言語として韓国語を話しながら、文字としては主に漢字を用いて表記していたため、話し言葉と書き言葉の間に大きな隔たりがありました。こうした状況の中で、1443年に朝鮮王朝第4代国王である世宗（セジョン、□□）は、漢字の読み書きができない一般庶民のために新しい文字を創製しました。
発音器官の構造をもとに体系的に作られたハングルは、1446年9月に「訓民正音（フンミンジョンウン、□□□□）」という名称で公布されました。ハングルは、創製の背景や目的、原理が歴史資料として明確に記録されている文字として国際的にも高く評価されています。1997年には『訓民正音解例本』がユネスコ世界記録遺産に登録されました。
本授業では、韓国語を母語とする教員と共に、初級文法を中心に韓国語の基礎を学びます。韓国語は日本語と語順が似ており、日本人にとって比較的習得しやすい言語の一つとされています。本授業を通して、韓国語の基礎的な読解力・表現力の習得を目指します。

＜授業テーマと内容＞
第1週 ハングルの構成要素と読み方・書き方①
第2週 ハングルの構成要素と読み方・書き方②
第3週 lesson1,2「です」「ですか？」
第4週 lesson3,4「ではありません」「ではありませんか？」
第5週 lesson5「います」＆会話練習①
第6週 lesson6,7「いません」「します」
第7週 lesson8,9「です、ます」「ですよ」
第8週 lesson10「数字と日付」＆会話練習②
第9週 中間試験＆韓国伝統ゲーム「ユンノリ」体験
第10週 期末試験

＜到達目標＞
① 韓国語の文字であるハングルを正確に読み書きできるようになること。
② 挨拶や自己紹介など、初級レベルの基本的な日常会話ができるようになること。
③ 数字、日付、曜日、時間などを韓国語で理解し、正しく表現できるようになること。
④ 日本語と韓国語の語順や表現の違いを理解し、初歩的な運用力を身につけること。

＜DPとの関連＞
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
＊ゼロからしっかり学べる！韓国語 [文法]トレーニング（木内明 著、高橋書店、2017年）

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 20 %
小テスト 10 %
中間レポート/試験 10 %
期末試験 40 %
その他 20 %
・小テスト：単語試験を行います。
・その他：期末試験の一部として会話試験を行います。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は１回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。欠席する場合は必ず事前に欠席届を提出してください。

＜準備学習等に必要な時間＞
クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
授業中に質疑応答の時間を持ちます。また、試験結果はクラスで共に確認します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞
・本科目は、グローバル・スタディーズ実習（韓国）に参加するための必須科目です。
・授業前に教科書を購入し、初回の授業から必ず持参してください。
・本科目ではオンライン授業は実施しません。原則として対面で授業に参加してください。
・授業内容の録音・録画および無断での共有はできませんのでご注意ください。
・本授業は外国語科目であるため、ハングル文字の読み書きの習得を前提として進めます。授業の初期段階ではハングル文字の読み書きを学びますので、学生にはその読み書きを確実に習得するための主体的な学習が求められます。

LKO220J　韓国語 2 (初級)

徐　有珍

2 単位
教研棟２Ｆ 小教室４
冬 木曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

このクラスでは、韓国語Ⅰで学んだ文法を基礎として、韓国語の表現力をさらに高めていきます。具体的には、漢数詞の数え方、日付や曜日の言い方、数を尋ねる疑問表現、「いくらですか」と金額を尋ねる表現、「何時何分」のような固有数詞の用い方など、日常生活でよく使われる基本的な表現を学びます。また、「～します」の丁寧な表現（☒体）への変化、用言の否定形（～しません、～ありません）、不可能表現（～できません）、過去形（～しました、～でした）およびその否定形（～しませんでした、～できませんでした）、さらに尊敬表現など、初級文法の重要な項目について理解を深めます。
あわせて、さまざまな状況を想定した日常会話の練習を行いながら、韓国語を母語とする教員とともに、教科書にない実際の会話表現や語彙にも触れます。また、朝鮮語の歴史を題材とした映画を鑑賞し、韓国語という言語の背景について理解を深めます。韓国語Ⅱは初級レベルの科目であるため、教科書を中心に基礎文法を確実に身につけることを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 韓国語Ⅰの復習＆lesson10「数字と日付」
第2週 lesson11,12「いくらですか？」「固有数詞と時刻」
第3週 lesson13,14「します（☒☒の☒体）」「します（☒体）」
第4週 lesson15「しません、ありません」＆会話練習③
第5週 lesson16,17「できない」「しました」
第6週 lesson18,19「でした」「しませんでした、できませんでした」
第7週 lesson20「されます」＆会話練習④
第8週 韓国映画「マルモイ」鑑賞
第9週 中間試験
第10週 期末試験

＜到達目標＞

①韓国語Ⅰで学んだ文法を会話で応用できること。
②初級Ⅱレベルの作文や会話ができるようになること。
③韓国語で否定形や過去形の表現を使えるようになること。
④韓国異文化実習に備えて自信を持って話せるようになること。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊ゼロからしっかり学べる！韓国語 [文法]トレーニング（木内明 著、高橋書店、2017年）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
中間レポート/試験 20 %
期末試験 40 %
その他 20 %
・その他：期末試験の一部として会話試験を行います。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は１回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業中に質疑応答の時間を持ちます。また、試験結果はクラスで共に確認します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

・本科目は、グローバル・スタディーズ実習（韓国）に参加するための必須科目です。
・本科目は韓国語Ⅰを履修し、その内容を修得していることを前提として進めます。
・本科目ではオンライン授業は実施しません。原則として対面で授業に参加してください。
・授業内容の録音・録画および無断での共有はできませんのでご注意ください。

LKO330J　韓国語 3 (中級)

徐　有珍

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
春 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞
このクラスでは、韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法を基礎として、さらに韓国語の理解と表現力を高めていきます。日常会話でよく使われる敬語をはじめ、「～することができる・できない」という可能・不可能の表現、「～してください」という丁寧な命令表現とカジュアルな命令表現、「～して、～くて」という順接の表現、「～して、～なので」という理由や根拠の表現、「～けれど」「～ですが」といった逆説の表現、「～している」という現在進行形の表現、「～なら」「～れば」などの仮定・条件表現、そして様々な変則活用について学びます。授業ではこれらの文法を実際の会話の中で使えるよう、簡単な会話練習や表現練習も行いながら、韓国語の運用力を高めていきます。
また、受講生自身が一つのテーマを選んで韓国を紹介する韓国語プレゼンテーションや、韓国映画の鑑賞を通して韓国文化に触れる時間も設けます。韓国語Ⅰ・Ⅱを経て、いよいよ中級レベルに入る段階となります。語学において努力はあなたを裏切りません。日常の中で韓国語を聞く、話すことを心がけましょう！

＜授業テーマと内容＞
第1週 韓国語Ⅱの復習＆lesson21「されました」
第2週 lesson22,23「できます」「変則活用①㉡変則」
第3週 lesson24,25「②㉡変則」「丁寧な命令」
第4週 lesson26「～して、～くて」＆会話練習⑤
第5週 lesson27,28「けれど」「している」
第6週 韓国語プレゼンテーション
第7週 lesson29,30「～なら、～れば」「変則活用 ③㉡変則」
第8週 韓国映画鑑賞
第9週 中間試験
第10週 期末試験

＜到達目標＞
① 韓国語Ⅱで学んだ文法を会話の中で応用し、変則活用にも慣れること。
② 中級レベルの韓国語で作文や会話ができ、簡単な発表ができるようになること。
③グローバル・スタディーズ実習に備えて文法や会話能力を高めること。

＜DPとの関連＞
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
＊ゼロからしっかり学べる！韓国語 [文法]トレーニング（木内明 著、高橋書店、2017年)
実用韓国語文法：初級（安辰明 外著、多楽院、2013年）
or (Eng ver.) Korean Grammar in Use: Beginning (Ahn Jean-myung, DARAKWON, 2013)

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 20 %
中間レポート/試験 10 %
発表 20 %
期末試験 40 %
その他 10 %
・発表：韓国に関する自由テーマを選んで、クラスで韓国語で紹介します。
・その他：期末試験の一部として会話試験を行います。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は１回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞
クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
授業中に質疑応答の時間を持ちます。また、試験結果はクラスで共に確認します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞

・本科目は、グローバル・スタディーズ実習（韓国）に参加するための必須科目です。
・本科目は韓国語Ⅱを履修し、その内容を修得していることを前提として進めます。
・本科目ではオンライン授業は実施しません。原則として対面で授業に参加してください。
・授業内容の録音・録画および無断での共有はできませんのでご注意ください。

RCM110J 教会音楽 I (ミュージックミニストリー)

ジョシュア 佐佐木

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
春 木曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

所属する地域教会の成長拡大に貢献する人財になるための学習。
ミニストリーの目的を明確にすること、具体的な目標を設定して目標達成のための綿密な計画を立案する方法を習得すること、そしてそれに向けて行動するための考え方と時間管理の技術を学ぶための授業。

＜授業テーマと内容＞

第1週 ミニストリーの目的を明確にする
第2週 具体的な目標を設定する
第3週 目標を達成するための計画を立案する
第4週 計画を遂行するための時間管理と自己管理
第5週 福音の価値
第6週 世界宣教と隣人への個人伝道
第7週 ミニストリーと経済
第8週 ミニストリーと現実社会
第9週 日本の教会が成長拡大していくために必要なこと
第10週 継続学習

＜到達目標＞

教会の成長拡大に貢献する人財になるための基礎を習得することと、継続学習を習慣化するための土台を構築すること。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション)

＜(*)教科書・参考書＞

* 聖書
* 教会の成長拡大に貢献する人財、ジョシュア佐佐木著、イーグレープ出版、2020年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 50 %
期末レポート 50 %
出席参加度と期末レポートの内容による成績評価

＜準備学習等に必要な時間＞

準備学習は必要ありません

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

フィードバックは都度させていただきます

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

RCM140J 教会音楽 IV (クワイア1)

宇内 千晴

2 単位
大チャペル
通年 火曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

神様は、私たち人間に「音楽」という素晴らしい賜物を与えてくださいました。クワイアでは、仲間と共に一つの曲を作り上げ、ハーモニーを生み出す喜びを通して、音楽の奥深さを体験します。そしてそれは多くの人と心を合わせて主を賛美する喜びを体感的に味わうことにもつながります。
美しいハーモニーを奏でるためには、まず一人ひとりが正しい音程で歌えることが大切です。しかしそれは同じパートの仲間と共に何度も練習を重ねる中で、自然と身についていきます。正しい音程で歌えるようになることは、自分自身への健やかな自信となるでしょう。また、こうした練習の積み重ねは忍耐力や協調性を育てます。これらは、牧師や教会に仕えることを目指す人にとって、大切な力となるに違いありません。
音楽は、歌詞や作品を理解する際に左脳を用いながらも、創造性や感性を司る右脳を豊かに働かせます。クワイアは、大学の中でも右脳を積極的に活性化できる数少ない貴重な学びの機会の一つと言えるでしょう。
また、声を使うことは喉の筋肉を鍛えることにもなります。これから長く付き合っていく大切な「身体」と「声」を是非クワイアで楽しみながら育てていきましょう。

＜授業テーマと内容＞

第1週 「天地たたえよ」天田繋
第2週 「鹿の谷川」G.P.da.パレストリーナ
第3週 「慈しみがありますように」J.ラッター
第4週 「みどりの風」天田繋
第5週 マリアの賛歌（マニフィカート）武義和
第6週 「羊飼いがいて」高田三郎
第7週 「さやかに星はきらめき」A.アダン
第8週 「ハレルヤ」G.F.ヘンデル
第9週 「主の祈り」A.H.マロッテ
第10週 その他 現在予定している本番は、以下のとおりです。
春学期　7/8　夏期卒業礼拝
冬学期　12/18 クリスマスコンサート
　　2/2 クワイアチャペル
　3/5　春期卒業礼拝
　　4　2027年度入学礼拝
上記の曲目は候補曲であり、メンバー（パート）の構成バランスによって曲目を変更・追加することがあります。

＜到達目標＞

①自分のパートの音を正しく歌えるようになること（メロディー、リズム）
②同じパートの人と同じ音程で歌えるようになること
③複数の声部の人と一緒に歌った時、他の声部の音を聴きながら自分のパートを正しく歌えるようになること（ハーモニー）
④メンバー全員で一つの音楽を奏でられるようになること

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

教員による配布

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 46 %
小テスト 10 %
発表 20 %
期末レポート 14 %
期末試験 10 %
授業参加度　出席（全23回×2=46% ）
夏の卒業礼拝奉仕 10%（小テストに該当)
クリスマスコンサート 20% （発表に該当）
クワイアチャペル 14%（期末レポートに該当）
春の卒業礼拝奉仕　10%　(期末試験に該当）

＜準備学習等に必要な時間＞
授業内でなるべく学習内容を習得できるようにしますが、足りないと感じる場合は、各自練習をしてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
授業内で行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
合唱・聖歌隊の経験者はもちろんのこと、未経験者も歓迎します。
授業には積極的に参加してください。
（聴講の場合も、欠席する際は必ず連絡してください。）
現時点での授業日程は、以下のとおりですが、特に秋・冬学期の日程は、変更の可能性があります。

春学期　4/21 28 5/12 19 26 6/2 9 16
秋学期 8/25 9/1 8 15 29 10/6 20 27
冬学期 11/24 12/1 8 15 1/12 19 26 2/2

本科目は、教会音楽副専攻（総合神学科カリキュラム）の対象科目です。
なお、2027年度の入学礼拝でも賛美の奉仕があります。

RCM150J 教会音楽 V (オルガンレッスン1)

宇内 千晴
内藤 真奈 / 山内 吏奈

2 単位
大チャペル
通年

＜授業の内容とねらい＞

オルガンとその音楽に親しむことを、本授業の目的とします。オルガンは紀元前に発明され、9世紀頃から修道院において教育楽器として用いられるようになりました。その後、教会の楽器として発展し、現代に至るまで礼拝を支え続けています。
本レッスンでは、まずオルガンの音の出る仕組みについて学び、その理解を踏まえて基本的な奏法を習得します。さらに、礼拝で奏楽する際の選曲の仕方や、賛美の歌を伴奏する際のテンポ設定、音色（ストップ）の選択など、奏楽の現場で求められる実践的なスキルを身につけることを目指します。
課題曲は、受講生一人ひとりのレベルに応じて無理のない作品を選び、楽譜の入手方法についても指導します。また、オルガン作品には教会や礼拝に直接結びつかないものも数多く存在します。技術の向上とオルガン音楽の豊かさを深く知るために、楽器の可能性を追求した多様な作品にも積極的に取り組みます。そして一年間を締め括る冬学期最後のレッスンでは、学びの成果を発表する場として、原則として受講生全員参加による公開試演会を行います。

＜授業テーマと内容＞

第1週 インストラクション
第2週 第2週目以降は、受講生各人のレベルに合わせた課題曲を出します。

＜到達目標＞

課題曲を人前で演奏できるレベルに仕上げることを到達目標とします。
そのためには、指使い、テンポ、アーティキュレーション、フレージング、レジストレーションなど、学ぶべきことがたくさんあります。毎回のレッスンを大切にしてください。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

J. S. Bach Orgelwerke Bärenrieter Verlag
Introduction to organ plaing in 17th and 18th century style
Achtzig Choralvorspiele Peters Verlag
* First organ book
* 讃美歌・新聖歌・教会福音讃美歌

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 48 %
中間レポート/試験 20 %
期末試験 20 %
その他 12 %
レッスンへの出席および課題への取り組む姿勢を重視します。同時に試演会や学年末の発表会など公の場での演奏も評価の対象にします。また、オルガンの仕組みやストップの名称などパイプオルガンについて最低限覚えて欲しい事項は、中間レポートや試験で学びを定着させます。同様にプログラムの書き方についても発表会など公の演奏の際に学びます。

＜準備学習等に必要な時間＞

約180分
初めて受講する人は、オルガンハウスで練習してください。
2学期目以降はチャペルでの練習が可能です。チャペルでは練習時間が割り当てられますので、必ずその時間に練習してください。
都合が悪い場合は、他の人がその時間に練習できるよう、オルガンの譜面台にある所定の用紙に記入してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題曲に対する演奏のフィードバックは、毎回のレッスンの中で行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

必ずパイプオルガンで練習してください。
毎回のレッスンでは、指摘された内容を自分で楽譜に書き込めるよう、鉛筆を持参してください。
なお、演奏台での消しゴムの使用は禁止です。

レッスン予定日
春学期
月曜日 4/20 27 5/11 25 6/1 8 15 22 (予定)

RCM160J 教会音楽 VI (ピアノレッスン1)

内藤 真奈
山内 吏奈

2 単位
アンサンブル室
通年

＜授業の内容とねらい＞
レッスンでは単に技術面の向上だけでなく、ピアノを通して神様を賛美するために必要な読譜力や表現力を身に付けられるよう指導します。演奏でのより豊かな表現力を養うとともに、礼拝や集会での会衆賛美の伴奏法や礼拝の前奏曲も学ぶことができます。(要望があれば、ワーシップソングのコード弾きも)

レッスンは練習の仕方、及び、より良い演奏のために間違いを正し、より良い感性と技術を身に付けていく為のチェック機関です。大切なのは、個人の地道な練習、向上心をもって努力していくという姿勢ですから、そのような心がけで履修してください。In the lesson, I will not only help you improve your technique, but also help you acquire the expressiveness necessary to praise God through the piano. Lessons are merely a way to teach you how to practice and guide you to better performances, and they act as a check-up mechanism to correct mistakes and to acquire better sensitivity and technique. What's important is your attitude of working hard and diligently to improve yourself, so please take the course with that mindset.

＜授業テーマと内容＞
個人のレベルや過去のレッスン受講歴などの差があるので、それぞれの必要や希望に合わせてレッスンを行います。従って、内容などの詳細は、各受講生によって違います。レッスンの基本のスタイルはクラシックの曲（その他）を学ぶにしても、並行して賛美の曲も学ぶというものですが、後者のみを学ぶこともできます。その際、指練習などのための練習曲を課題に含める場合もあります。

＜到達目標＞
1）音やリズムはもちろん、テンポや拍子感覚なども含めて、総合的に正確な読譜力を身に付ける。
2）演奏、奏楽の際に必要なテクニックや心構え、豊かな表現力を身に付ける。
3）奏楽を通して主を賛美することの素晴らしさを学び、体験する。

＜DPとの関連＞
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞
プレハノン、ハノンなど
ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ集など
バッハの作品集、ロマン派、近代の作品など
讃美歌、聖歌、その他の賛美歌集、ワーシップソング集など
讃美歌、聖歌、ワーシップソングのピアノ用アレンジの本や奏楽曲集、TCU教会音楽アカデミー発行の楽譜集Ⅰ～Ⅴなど

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 30 %
発表 30 %
その他 40 %
最終学期の最後に演奏試験（試演会）を行ないます。学年末発表会やシオン祭等での演奏も含めて評価します（30%）。出席状況（授業参加度30%）、レッスンに取り組む姿勢（その他40%）は重要な評価の対象とします。

There will be a performance trial by the class students at the end of the final semester of a year(evaluation including the concert at Zion festival and the recital by students taking music lessons in February (30%). Class Participation and attitude for each lesson will be 30% of the comprehensive evaluation. In addition, attitude towards each lesson is very important evaluation(40%).

＜準備学習等に必要な時間＞
曲のレベルや内容にもよりますが、初歩の人でも一日少なくとも20分から30分は練習して下さい。曲数の多い人、中級以上の人は一日 1 時間は練習するのが望ましいです。
It depends on the level and content of the music, but even beginners should practice for at least 20 to 30 minutes a day. For those who play a lot of songs or who are intermidiate or above, it is recommended that you practice for one hour or more a day.

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
個別に出した課題のレッスン期間内での達成度、また、試演会やコンサートにおける演奏についての具体的な評価やアドバイスを行います。

I will provide specific evaluations and advice on the level of achievement of individual assignments during the lesson period, as well as performances at performance trial and concerts.

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
本科目は、全学部生、院生が履修できる科目です。

レッスンには、別途レッスン料がかかります。
料金については学修の手引きを参照してください。

This course is open to students from all undergraduate and graduate scools.
Lessons are subject to a lesson fee. Please refer to the study guide for fees.

RCM170J 教会音楽 VII (声楽レッスン1)

西　由起子

2 単位
アンサンブル室
通年

＜授業の内容とねらい＞

声楽は礼拝において会衆賛美、聖歌隊、独唱・重唱など様々な形で大切な働きの一つとして用いられています。
声楽のスキルは会衆賛美のリード、聖歌隊指導などに役立つだけでなく、舞台語学修はメッセージや聖書朗読等の言葉を発する場面で聞き取りやすい発語の訓練になります。

この授業では開始時の到達度及び履修者の目的や必要に応じて、発声・音程の取り方・楽譜の読み解き方・言葉と音楽の表現・伴奏（奏楽）との共演スキルなどを総合的に学修して行きます。

声楽による賛美はグレゴリオ聖歌のように無伴奏のものからオーケストラと共演する宗教曲に至るまで多岐に渡ります。
課題曲は基本的には声域・声質・技術の習熟度・譜読みのスキルに合った曲を教員が指定しますが、学修希望の曲もご相談に応じます。

声は誰でも出せるものだけに自己流の発声になっていたり癖がついていたり、
自分の声は骨伝導の音が混じって聞こえるために客観的に判断が出来ない事例もしばしばあります。
修正点を直しつつ「自分の本当の声」を見つけ、課題曲の詩にこめられた祈り・信仰・思いが伝わる歌が歌えるように毎回のレッスンを積み重ねていきます。

＜授業テーマと内容＞

・到達度に応じた実技レッスン
・呼吸・共鳴を基本とした発声、「舞台語」言葉の表現、フレージングなどの音楽の組み立て方、ソルフェージュ（音程・リズムの正確性など）
・課題曲は卒業後の必要に応じて、賛美歌・聖歌・オラトリオのアリアなどクラシックの分野からプレイズ・ワーシップまで

＜到達目標＞

授業開始時の各々の到達度、必要に応じて決定した課題曲が独唱で歌えるようになる。
自身の声楽スキル向上とともに声楽指導の観点で声楽の技術を習得し、賛美リードや聖歌隊の指導などにも役立てられるようにする。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

＜授業方法＞

発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

聖楽独唱名曲集　1～3　聖歌の友社
コンコーネ50番　全音楽譜出版社
讃美歌、讃美歌第二編、讃美歌21、聖歌、新聖歌、教会福音讃美歌

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 80 %
リフレクション 20 %
授業参加度は出席のみではなく平常点に値します。
レッスンへの取り組みの姿勢（課題曲の練習、授業時の取り組み）を評価します。

中間レポートは課題曲学習の達成度を評価します。
期末レポートは授業内での試演によって評価します。

＜準備学習等に必要な時間＞

賛美歌の新譜が読める程度の基本的な読譜能力があることが望ましい。
課題曲の譜読み、レッスンで指摘された内容の復習をしてください。
日々短くても継続して歌う時間を作る努力を期待します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業内でおこないます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞
通年で2単位となります。1学期のみの履修では単位になりませんのでご注意ください。
1対1の授業になりますので無断欠席はしないように留意してください。
本科目は、教会音楽副専攻（総合神学科カリキュラム）の対象科目です。

レッスンは、別途レッスン料がかかります。
料金については学修の手引きを参照してください。

RCM330J 教会音楽 III (教会音楽の実際)

菊池　実
宇内 千晴 / 内藤 真奈

2 単位
教研棟 1 F 大教室
冬 月曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

このクラスは2022年度に新規に開講された実践神学の科目です。３人の教師によるオムニバスで８回、最後の２回に全員が発表を行う講座です。
福音派教会においてはここ１０年ほどで賛美の歌集が一気に種類を増してきました。一時は従来の賛美集と「ゴスペル」が対峙するような様相もありましたが、伝統的な賛美の歌にも一定の淘汰があり、またコンテンポラリー自体も交替は早いペースで進んでいます。また、コロナ禍による教会への影響も小さくありませんでした。
　本講では、改めて賛美の本質を問いつつ、また変化と多様性の時代の賛美、あるいは、通常の形態時における賛美の歌の選曲の仕方、歌い方、歌いやすい伴奏やアレンジなどについて、履修生が実際に音を出しながら体験的に学んでいきます。
また、古今東西の賛美の歌にも親しみ、レパートリーを広げます。さらにグループで翻訳作業をすることによって訳詞の問題や歌詞の問題にも着目します。これらの作業を通して賛美の歌について理解を深めることをこの科目の目的とします。

＜授業テーマと内容＞

第1週 教会の現場における賛美の課題（菊池）
第2週 教職者の心得と指導（菊池）
第3週 賛美歌と会衆賛美について
第4週 賛美歌の日本語における諸問題について
第5週 教職者と音楽奉仕者の関係　　ー賛美の歌の選曲の仕方ー　（宇内千晴）
第6週 古今東西の賛美曲の紹介　　ー賛美の歌の歌い方ー　（宇内千晴）
第7週 翻訳の試み　（宇内千晴）
第8週 日本における賛美曲（讃美歌集、聖歌集、ワーシップソングなど）（内藤真奈）
第9週 会衆賛美の伴奏を含む奏楽に関するアドバイスなど　（内藤真奈）
第10週 全体のまとめ（菊池）

＜到達目標＞

一般に礼拝における３割の時間あるいはプログラムは「賛美」で占められていると言われます。牧会者はその大事な部分を礼拝全体との関わり、み言葉との有機性、賛美の音楽としての意義、日本の文化との関わり、各世代との関わりでどのように捉えて教会形成の現場に臨むべきでしょうか。受講者がその関心と視野を持ち・深めることを大事な目標とします。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
発表 20 %
期末レポート 70 %
それぞれが今日の教会における教会音楽の課題を「見つけ」、それに関わる議論、聖書的視点、あなた自身の考えと提案を含めて全員が発表をします。

＜準備学習等に必要な時間＞

各回で扱われるテーマを自身の実習教会や在籍教会において考え、また自身の近い将来の実践においてどのような意味を持つか、十分考えてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

各自の発表の際は３人の教師がコメントをします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

本科目は、教会音楽副専攻の対象科目です。

RFY112J　基礎演習

森田　哲也

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
春 水曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

このクラスは新しく東京基督教大学の学生になった者が、大学で学ぶために必要な基礎的スキルを身につける授業です。小グループに分かれ、読解力、文章力、理解力、批判力、発言力、プレゼンテーションスキルを磨きます。教科書の章立てに沿って要約の方法や論理的な説明の方法、脚注や引用の書き方など、レポートの取り組みに必須のスキルを身につけます。また、実際のプレゼンテーションの訓練を通して、自身で課題を見つけて資料を収集し、情報をまとめ、分析する力を養います。また、プレゼンテーションは仲間からのピアレビューをうけることで、互いに切磋琢磨しながらアカデミックスキルを磨いていきます。さらに、個人での学びに加えて、グループで取り組む課題を通して、仲間と協働しながら学ぶ楽しさを体験することを目指します。このクラスは毎年新入生が春学期に受講します。クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 1. 授業内容のアウトラインと「ほうれんそう」の方法、2. TCUで課されるリーディング課題について（事例）
第2週 1. テキストの読解（主張の種類と根拠）、2. プレゼンテーションとは
第3週 1. テキストの読解（批判的分析、要約）、2. プレゼンテーションの構成と発表
第4週 1. レポート・論文の書き方（アウトライン、テーマ）、2. TCUで課されるプレゼンテーション課題について（事例）
第5週 1. レポート・論文の書き方（引用・脚注等の体裁）、2. TCUで課されるレポート課題について（事例）
第6週 学生によるプレゼンテーションIとピア評価
第7週 学生によるプレゼンテーションIIとピア評価
第8週 TCUで課されるリーディング、レポート、プレゼンテーション課題について（グループワーク）
第9週 1. メタ認知とは、2. コース内容の振り返り
第10週 1. 理解度テスト（読解、要約、パラグラフライティング）、2. 分かち合い

＜到達目標＞

このクラスの到達目標は以下の３つです。
１）東京基督教大学の学生として学ぶ事の意味を知り自覚を持って学ぶ決心をすること。
２）大学生として学ぶため必要な読解力、文章力、理解力等の力を身につける努力をすること。
３）ものごとを批判的に見聞きし、また自らの意見を的確に、説得力を持って述べるスキルを身につけること。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法　松本茂・河野哲也　玉川大学出版部　2024年（改訂第二版）

＜成績評価の方法と基準＞

課題 30 %
中間レポート/試験 20 %
発表 20 %
期末レポート 30 %

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約2倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約280分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題については、授業内、TCU Online、Teamsを通してフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

このクラスはコア科目です。
合理的配慮の必要な受講生は、個別相談によって具体的内容を検討します。
【重要】指定教科書は第2週目（4月15日）の授業前までに必ず購入しておいてください。

RFY120J　情報リテラシー

立山　剛

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
春 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

現代社会では、デジタル技術の進展により、私たちの日常生活は大きく変化しています。特に、生成AIの登場は情報の収集、分析、活用の方法に革新をもたらしています。本授業では、学生が情報リテラシー、メディアリテラシー、データリテラシー、情報倫理を総合的に身につけ、情報社会で主体的かつ適切に行動できる力を養うことを目的とします。

具体的には、以下の内容を取り扱います。

１．情報リテラシーとメディアリテラシーの習得: 生成AIの仕組み、プロンプトエンジニアリングを理解することで、情報の収集・評価・分析・活用等、実践的なスキルを習得します。また、メディアの歴史的変遷、ソーシャルメディアの特性について考察します。

２．情報社会におけるテクノロジーとAIの影響: テクノロジーが社会に与える影響や倫理的側面、AI時代の働き方や人間らしさについて議論し、テクノロジーと人間社会の関係を深く理解します。

３．データリテラシーの基礎と応用: 統計分析の基礎からデータ集計、相関分析、アンケート作成、クラスター分析、回帰分析、テキストマイニングまで、データの分析手法を学び、実際のデータを用いて分析を行います。

４．情報倫理の理解と実践: 著作権、クリエイティブ・コモンズ、個人情報保護、情報セキュリティなど、情報社会でのリスクを理解し、法を遵守した適切な行動と態度を身につけます。

クラスは少人数であることを活かし、講義形式だけでなく、対話やグループワーク、実践的な演習を通じて、学生一人ひとりの主体的な学びを促進します。これにより、情報社会で必要とされる多面的なリテラシーを総合的に習得することを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 情報リテラシー
第2週 プロンプトエンジニアリング
第3週 情報社会I：学び方・働き方の変化
第4週 情報社会II：テクノロジー
第5週 メディアリテラシー
第6週 データリテラシー
第7週 データ分析I
第8週 データ分析II
第9週 著作権
第10週 情報セキュリティと個人情報

＜到達目標＞

１．生成AIを含む多様な情報源から必要な情報を収集し、評価・分析・活用する能力を身につける。
２．統計学の基本的な概念を理解し、アンケートで収集したデータを適切に分析・解釈できる。
３．SNSや生成AIの活用、個人情報保護、著作権、情報セキュリティなど、情報社会における多様な課題を理解し、情報倫理に基づいて適切に行動できる。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業, ハイブリッド授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン, クリッカー(zoom投票,sli.do)

＜(*)教科書・参考書＞

プロンプトリテラシー　岡 瑞起、橋本 康弘　翔泳社　2024
著作権とは何か　福井健策　集英社新書　2005
生成AIと著作権の論点　福岡 真之介　商事法務　2025

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション 20 %
課題 50 %
期末試験 30 %
リフレクション20%は、授業の理解度を確認するためのワークシートを評価します。（1週目から5週目）期末試験30%は、情報倫理に関するテストを実施します。課題50%はプロンプト利用に関する自己評価の提出（20%）とアンケートで収集したデータの分析報告(30%)を提出します。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業の最後に、予習・復習として次回までに取り組むリフレクションおよびアプリ等の操作確認の内容をお知らせします。リフレクションへの応答は次回の授業で行います。また、次回の授業は、アプリ等の基本操作ができていることを前提に進めます。目安として、毎週4時間程度の予習・復習の学習時間が必要です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクションの内容について、授業の最初の時間にフィードバックを行います。質問やコメントは随時Teamsで受け付けます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

クリッカー（sli.do）を使ったリアルタイムアンケート、クイズ形式の授業を行う回があります。授業を受けるにあたりPCとスマホ両方用意してください。

RFY130J　キャリア教育

森田　哲也

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
通年 金曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

本授業では、クリスチャンとしての職業観を深め、信仰と働くことの関係を具体的に考察しながら、卒業後の進路について主体的に計画する力を養うことを目的とします。クリスチャンは社会の一員として積極的に生きることが求められますが、大学生活の中で将来のキャリアをどれほど意識しているでしょうか。本授業では、①聖書やキリスト教の文献を用いた職業観の探求、②クリスチャンとして社会で活躍するプロフェッショナルからの学び、③キャリア開発ツールを活用した自己分析とキャリアプランの設計、という三つの柱を軸に学びを進めます。まず、聖書を通じて「働くこと」の意義や目的を考え、信仰と職業の関係を探究します。次に、ビジネス、教育、医療、福祉など多様な分野で活躍するクリスチャンのゲストスピーカーを招き、具体的な経験を学ぶことで、職業選択の視野を広げます。さらに、キャリア開発ツールを用いて自己分析を行い、自身の適性や価値観を明確にしながら、具体的なキャリアプランを立てます。これらの学びを通じて、学生一人ひとりが自らの信仰と職業を結びつけながら社会での役割を見出し、充実したキャリアを築くための準備を進めることを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 4月10日「働くこととは？」①
第2週 4月24日 PROG（汎用的技能と職業志向を測定するツール）を活用した自己理解
第3週 5月15日 多様な働き方１ （翼学院グループ・芦澤唯志様ー発達障害・不登校の子ども支援）
第4週 6月12日 マナー講座 / 「働くこととは？」②
第5週 9月4日 多様な働き方2 （教会/社会福祉）林義亜様（NPO法人ホッとスペース中原、中原キリスト教会協力伝道師）
第6週 10月16日 就職活動講座（準備方法/就活エージェント/地方・地元での就職（Local＋就職）「働くこととは？」③
第7週 10月30日 「働くこととは？」④
第8週 12月18日　多様な働き方4 （ビジネス）
第9週 1月15日 or 29日　多様な働き方5 （公共セクター）
第10週 2月12日「働くこととは？」⑤

＜到達目標＞

1. 自身のキャリアに関する適性を理解し、強みや関心を明確にする。
2. 卒業後の進路を見据え、大学生活の中で身につけるべき指針や具体的な行動計画を考え始める。
3. 多様な職業領域で活躍するクリスチャンの働き方や課題を学び、社会における信仰の実践を理解する。
4. 「働くこと」に関する聖書的な視点と現実的な職業観を学び、概念的理解と実践的スキルの両面から職業観を形成する。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

山崎龍一『増補改訂版 クリスチャンの職業選択』いのちのことば社、 2012年

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション 90 %
期末レポート 10 %

＜準備学習等に必要な時間＞

リーディング（１時間/週）
レポート（１時間/週）

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクション、期末レポートはコメントを入れて返却。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

RHU110J 人文学 I (文学)

堀　いづみ

２単位
教研棟１Ｆ 中教室５
秋 木曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

この授業「文学」では、C・S・ルイス（1989-1963)作の物語、『ライオンと魔女』（『ライオンと魔女と衣装だんす』）を、キリスト教文学という観点から読んでいきます。これは子ども達のために作られた作品である一方で、大人の視点から読むこともできるからです。授業ではこれを分析的に捉え、（神学的想像力を用いて）思いを巡らし、それを持ち寄って話し合います。

しかし、この授業はみなさんの作品に対する個人的な第一印象に影響を与えるためのものではないので、もしこの本を読んだことがなければ、事前にまずは単純に楽しみのために一読しておいてください。そうすることによって後で行う分析や熟考がみなさんの楽しみをより深いものにし、ひいては神学的な真理へのヒントにつながりうるものとなります。

さらに、物語は必然的に読み手（聞き手）を必要としているため、みなさんが物語の受け取り手になることで、昔から読まれてきたこの作品もさらに生き続けられる、という貢献をすることになります。ルイス自身も多くの作品の受け取り手で、再話を試みることもありました。その例が『顔を持つまで』という作品です。機会があればこの作品も読んでいきます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 本の著者、C・Sルイスについて（導入）
第2週 物語のはじまり方（第1、2章を読む）
第3週 性格描写（第3、4章を読む）
第4週 どのような意味で物語が真実であるか（第5、6章を読む）
第5週 善のイメージ（第7、８章を読む）
第6週 邪悪さのイメージ（第９、１０章を読む）
第7週 プロットの力学（第１１、１２章を読む）
第8週 魔法の使用について（第１３、１４章を読む）
第9週 フェアリー・テイルというジャンル（第１５、１６章を読む）
第10週 ハッピー・エンドの意味（第１７、１８章を読む）

＜到達目標＞

このクラスの到達目標は以下のとおりです。
１．文学作品に触れることで（物語を経験することで）、想像力にうったえるアプローチの価値に対する理解を深めること
２．１のことから発展して、黙想力を高めるヒントを発見すること

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

*『ライオンと魔女』、C・S・ルイス（瀬田貞二訳）、岩波書店、2000年または2005年
『ライオンと魔女と衣装だんす』、C・S・ルイス（土屋京子訳）、光文社、2016年
The Lion, the Witch and the Wardrobe, C. S. Lewis, HarperCollins, 2008.
A Reader's Guide Through the Wardrobe, Leland Ryken and Marjorie Lamp Mead, InterVarsity Press, 2005
『C・S・ルイスの読み方ー物語で真実を伝える』、A・E・マクグラス（佐柳文男訳）、教文館、2018年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
小テスト 18 %
課題 18 %
期末レポート 34 %
・授業の最初に（２回目の授業から）、前回の授業の復習を兼ねた小テストを行います。（一回につき2点）
・課題は、毎回の授業で、作品に関するちょっとした質問をしますので、一週間それについて思いめぐらし、次回の授業でお互いに発表し合うといった形をとります。（一回につき２点）
・レポートは、最後の週までに提出になります。テーマ：『ライオンと魔女』で私が最も好きな箇所（予定）

＜準備学習等に必要な時間＞

・予習については、まずは、作品の２章分を丁寧に読み、それについて思いを巡らせることがひとつ。そして、気になったことがあったら、他の資料から調べることもよいでしょう。
・復習としては、次回の授業で発表する課題（作品に関すること）にとりくむことと、小テスト（文学理論的な内容を予定）のために授業を振り返ることです。
《時間としては280分が目安です。》

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回の課題は、次の週で口頭で分かち合う形をとりますので、フィードバックは毎回の授業の中であります。そして、小テストも授業中に答え合わせを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。

＜その他履修上の注意点＞
・もし『ライオンと魔女』読んだことがなければ（あるいは読んでからかなり時間が経ってどのような感じだったか忘れてしまったような場合）、全体を一読しておきましょう。
・合理的配慮が認められる場合には、期末レポートの締め切りの延長もあります。

RHU230J 人文学 III (東洋思想)

大和　昌平

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
冬 木曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

仏教はアジアにおけるギリシア哲学のような存在であり、キリスト者日本人が正面から向かい合うべき宗教です。その仏教の中で日本人に最も浸透してきたのは阿弥陀仏への信を説く浄土教でした。浄土真宗の開祖である親鸞（１１７３年～１２６２年）は、鎌倉時代の仏教僧ですが、現代日本人が最も尊敬する日本の思想家だと言われます。阿弥陀仏への信を中核とする親鸞の教えはキリスト教の救済論にあまりにもよく似ていることは知られています。この授業では、親鸞の生涯や浄土教の教えを学び、キリスト教に似ているけれども異なる点を理解し、そのことによって自らのキリスト教信仰の理解を深めることを目指します。親鸞の説教を記し、それに異なる教えに対する嘆きを述べた弟子唯円（１２２２～１２８９年）の『歎異抄』は、現代日本人の古典として親しまれています。「東洋思想」においても今年度からChatGPTを活用しての授業を行います。毎回授業の最後に考える課題を出しますので、各自がChatGPTと対話しながら考えたことを書きこみ、次の授業でディスカッションをして理解や思考を深めていきます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 仏教の開祖ゴータマ・ブッダの教えと浄土仏教
第2週 民俗宗教・仏教・儒教が混然一体となった日本の宗教
第3週 日本における浄土教：法然と親鸞
第4週 親鸞の弟子唯円による『歎異抄』
第5週 『歎異抄』講読①
第6週 『歎異抄』講読②
第7週 『歎異抄』講読③
第8週 『歎異抄』講読④
第9週 『歎異抄』講読⑤
第10週 『歎異抄』講読⑥

＜到達目標＞

この授業の到達目標は受講者が、日本人の心に浸透している浄土教の教えとキリスト教との類似点と相違点について考え、求める人に説明できるようになることです。さらに、他者をよく知ることによって自らのキリスト教信仰を深めることです。単に専門的な知識を得るのではなく、ChatGPTを活用しクラスでのディスカッションを繰り返しながら、みずから考える力をつけることを目標にします。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊阿満利麿『歎異抄』（筑摩書房）
末木文美士『日本仏教史ー思想史としてのアプローチ (新潮文庫)
佐古純一郎『パウロと親鸞』（朝出版社）
大和昌平『牧師の読み解く般若心経』（YOBEL新書）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
リフレクション 40 %
期末レポート 40 %
成績は授業参加が二割、リフレクションと期末試験がそれぞれに四割です。毎回の授業後に課題を出しますので、各自ChatGPTと対話しながら答えを考えて次の授業までに書き込んでください。期限内に書けば4点、期限を過ぎて書けば2点、書かなければ0点です。ここで差が出ます。期末試験はアナログに戻って短い文章題の試験を行います。留学生はネット使用禁止でパソコンでの解答を許可します。

＜準備学習等に必要な時間＞

講義と共に教科書『歎異抄』の講読を進めますので、予め教科書を読んで授業に出ること、そして授業後にChatGPTも活用しながらリフレションを毎回書くことを求めます。一回の授業の予習・復習に３～４時間が必要です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回のリフレクションに教員のコメントを返して各受講者との対話を続け、期末試験の答案にもフィードバックをします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞
現代日本人に大きな影響を与えている『歎異抄』に関心を持ち、新約聖書と読み比べる意欲を持ってほしいです。『歎異抄』を大切にする日本人に福音を弁明する備えとして実践的に学んでください。今年度からはChatGPTも活用しながら考えることに重きをおいた授業をしていきます。

＜教員の実務経験＞
仏教的慣習の多い京都での牧師としての経験と仏教学研究を活かして講義を行います。

RHU240J 人文学 IV (キリスト教倫理)

岩田 三枝子

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
秋 木曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

現代は、人々の価値基準が大きく揺れ動いている時代です。特に西洋では人の生きる善悪の基準、行為の基準がキリスト教の世俗化の波の中で崩れかかっています。一方日本では、世俗化に加え、異教的な文化・思想風土の中でキリスト者の価値基準が確立しにくいといえます。キリスト教の伝統を尊重しつつ、なお現代に適合するキリスト者の倫理はいかにあるべきかを問います。

本授業は、「いのち」をテーマとして、キリスト者といのちのかかわりを二つの視点から考えます。１）いのちをミクロの視点からとらえ、人間のいのち、特に中絶の課題を扱います。２）いのちをマクロの視点からとらえ、環境倫理の課題を扱います。また、命のあり方を問う生命倫理の回にはゲストスピーカーを招き、現場からの声に耳を傾けたいと思います。また、受講生は、「TCUエコ・チャレンジプロジェクト」として、個人、またはグループに分かれて学期を通じて環境倫理への課題に実践的に取り組み、最終授業でその成果を発表します。

現代世界においてのキリスト者の生き方を模索し、それぞれの回答の一歩を見つけることがこの授業の目的です。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション
第2週 生命倫理とキリスト教1
第3週 生命倫理とキリスト教2
第4週 生命倫理とキリスト教3
第5週 生命倫理とキリスト教4
第6週 環境倫理とキリスト教1
第7週 環境倫理とキリスト教2
第8週 環境倫理とキリスト教3
第9週 環境倫理とキリスト教4
第10週 総括

＜到達目標＞

1）キリスト教倫理の分野が扱っているテーマを広く知る。
2）生命倫理のトピックから、命の取り扱い、またジェンダーに関する課題について、キリスト者の視点に立ち、自らの考えを述べられるようになる。
3)環境倫理のトピックから、神の被造世界との関わり方について、リスト者の視点に立ち、自らの考えを述べられるようになる。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
課題 50 %
発表 30 %
積極的な授業参加を求めます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約２倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題については、授業内やTeamsを通じてフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

合理的配慮の必要な受講生については、個別相談によって具体的な配慮の内容を検討します。

RHU350J 人文学 V (キリスト教哲学)

須藤　英幸

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
春 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

「キリスト教哲学」（人文V）は、一般にキリスト教思想に分類される幅広い学問分野です。その主題には、「キリスト教とは何か」をはじめとして「キリスト者とは何者か」や「キリスト教的な愛とは何か」などの思想問題が含まれます。

歴史的に言えば、「キリスト教」と「哲学」は互いに源流が異なる思想体系に属します。一方のキリスト教はユダヤ・ヘブライズム源流で、他方の哲学はギリシア・ヘレニズム源流です。このように源流の異なる概念が組み合わされた「キリスト教哲学」には、キリスト教共同体と一般社会との間にある一種の緊張が含まれています。教会と緊張関係にある哲学的視点が、実はキリスト教信仰を健全に保つ上でとても有効になります。なぜなら、哲学的視点から自己を省察することによって、私たちの時として歪曲された先入観や偏見が矯正されうるからです。

本授業では、前半に『キリスト教講義』から「愛」「神秘」「言葉」「歴史」の各トピックを読み解いていき、後半では、『世界は善に満ちている』を用いて、思想的な感情論を読み解き、現代人の差し迫る課題ともいうべき感情のコントロールに対して、それを支え助けるような情報を提供します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション：キリスト教と哲学
第2週 『キリスト教講義』（1章）：「愛」
第3週 『キリスト教講義』（2章）：「神秘」
第4週 『キリスト教講義』（3章）：「言葉」
第5週 『キリスト教講義』（4章）：「歴史」
第6週 『世界は善に満ちている』（2章）：「〈愛〉はどのようにして生まれてくるか」
第7週 『世界は善に満ちている』（3章）：「感情の分類（一）―欲望的な感情」
第8週 『世界は善に満ちている』（4章）：「感情の分類（二）―気概的な感情」
第9週 『世界は善に満ちている』（6章）：「心の自己回復力―〈喜び〉と〈悲しみ〉の仕組み」
第10週 期末試験 （受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

・キリスト教と哲学との関係性を理解する。
・キリスト教哲学の基礎概念を学ぶことで、キリスト教の人間理解を深める。
・キリスト教哲学の視点から自己省察し、信仰の健全性を保つことができる可能性を深く考える。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

* 『世界は善に満ちている―トマス・アクィナス哲学講義』、山本芳久著、新潮社、2021年
* 『キリスト教講義』、若松英輔＋山本芳久著、文藝春秋、2018年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
課題 40 %
期末レポート 50 %
・読書課題は、教科書の指定範囲に対する簡単なリフレクションです。読んできたことが分かるように10行以上のリフレクションを作成し、授業中に提出します。
・期末レポートは、3,000字以上の文字数を予定しています。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週約300分の学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

読書課題の記入方法に問題があるときは、お知らせします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞
特にありません。

RSS120J　社会科学 II (女性と社会)

岩田 三枝子

2 単位
大学院棟 講義室B
冬 金曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

講義では初めに現代の女性を取り巻く状況を理解するため、各自に身近なライフプランを見つめなおすワークに取り組みます。その後、女性を取り巻く状況のこれまでの歴史を振り返る作業として、フェミニズム運動の発祥の地としての19世紀以降のヨーロッパ、その影響を受けたアメリカや日本の女性たちの第1波フェミニズムから第2波フェミニズムの歴史を学びます。また、「キリスト教とフェミニズム」として、フェミニズム神学史の外観や、議論となる聖書テキストの多様な聖書解釈などを扱います。

ロールモデルとなる女性へのインタビュー、ニュースのリサーチ、プレゼンテーション等からも多くを学ぶことを期待します。 また、映画鑑賞を通して、フェミニズムの歴史や世界における女性の置かれている立場などの理解にも努めます。授業では、課題の分かち合いやグループワークなど、受講生同士が互いに学び合う時間を大切にします。

本授業を通して、社会の中での女性の役割や女性の生き方を多角的に学ぶことにより、女子学生、男子学生の両方にとって、今後の家庭・教会・社会の中での歩みがより実り豊かなものとなることを願っています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション
第2週 私たちの社会と女性
第3週 女性史1
第4週 女性史2
第5週 女性史3
第6週 女性史4
第7週 女性史5
第8週 女性史6
第9週 受講生によるプレゼンテーション
第10週 受講生によるプレゼンテーション

＜到達目標＞

1）日本と世界における女性と社会の現代的課題を、歴史的背景や社会的要因と関連づけて説明できる。
2）19世紀以降の日本と世界のフェミニズム史について、主要な出来事や思想の流れを比較しながら論じることができる。
3）女性と社会を取り巻く課題について、多角的な視点から批判的に分析し、自らの意見を論理的に述べることができる。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
課題 50 %
発表 30 %
積極的な授業参加を求めます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題については、授業内やTeamsを通じてフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

合理的配慮の必要な受講生は、個別相談によって具体的な配慮の内容を検討します。

RSS230J　社会科学 III (心理学)

徐　有珍

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
秋 水曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

このクラスでは、神によって創造された人間の心について学びます。まず心理学という学問の歴史（ヴィルヘルム・ヴント、イヴァン・パブロフ、ジグムント・フロイト、カール・ユングなど）を取り上げ、心理学という学問がどのように成立し発展してきたのかを概観します。そのうえで、人間の心がどのように成長し、どのように変化していくのかについて、発達心理学の視点から学びます。ジャン・ピアジェ、エリク・エリクソン、ローレンス・コールバーグ、キャロル・ギリガンらの発達理論を参照しながら、人格的・霊的成長について考察します。
また、幼児期から老年期に至る発達の過程を概観しつつ、特に思春期と青年期の発達に注目し、同一性や同一性の拡散、反抗期、同輩圧力などの重要な概念について理解を深めます。さらに映画を通して人間の成長の過程を具体的に考察し、人格形成やアイデンティティの形成について理解を深めます。また堀越勝著『感情のみかた』を読みながら自己理解を深め、人間理解をユースミニストリーや日常生活の実践にどのように生かすことができるかについて考えます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 心理学の概観
第2週 発達心理学の概要
第3週 幼児期の発達
第4週 児童期の発達
第5週 思春期と青年期の発達
第6週 ＜特講＞中年期と老年期の発達
第7週 映画鑑賞「6才のボクが、大人になるまで」
第8週 ＜特講＞人格形成とアイデンティティ
第9週 グループ・プロジェクト
第10週 期末試験

＜到達目標＞

① キリスト教の世界観に立ちながら、心理学における人間理解について多角的に考察できるようになること。
② 自らの感情の動きや特徴に気づき、それを適切に理解し受けとめることができるようになること。
③ 発達心理学の基本的な理論と発達段階を理解し、それを他者に分かりやすく説明できるようになること。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

「感情のみかた」堀越勝著（2015年、いきいき株式会社出版局）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 30 %
課題 10 %
発表 20 %
期末試験 30 %
・リフレクション：各授業に関するリアクションペーパーを提出します。（400字程度、6回x5点）
・課題：授業で鑑賞した映画に対する感想文を提出します。
・発表：心理学の諸領域の基礎的内容をクラス全体に紹介することです。
・期末試験は授業資料の参照を認めるオープンブック形式で実施します。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクションペーパーは、授業内のスモールグループにおいて発表し、相互に評価します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞

・本科目はユーススタディーズ専攻・副専攻の必須科目です。
・本科目ではオンライン授業は実施しません。原則として対面で授業に参加してください。
・授業内容の録音・録画および無断での共有はできませんのでご注意ください。
・課題作成や発表準備において、生成AIの過度な使用は控え、学生自身の主体的な学習に基づいて取り組んでください。AIによって生成された内容を十分に確認せず、そのまま提出した場合は学習成果として認められないことがあります。

RSS340J　社会科学 IV (リーダーシップと組織マネジメント)

森田　哲也

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
秋 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

この授業は、社会学に基づく組織論の理論的枠組みを活用し、リーダーシップと組織マネジメントに関する実践的な理解を深めることを目的としています。授業の前半では、組織のミッション、顧客、価値提供、成果、計画に関連するテーマを扱い、具体的なケースを通じてディスカッションを行い、理論と実践を結びつける力を養います。経営学が主に営利企業を対象とするのに対し、組織論は政府自治体、病院、福祉施設、NPO、教会など、多様な組織を対象とします。本授業では、こうした多様な組織における協力体制の構築に焦点を当て、組織文化論や制度理論など「組織の社会学」の知見を用いて、個人、集団、組織、そして制度がどのように相互に影響し合い、持続的な成果を生み出す仕組みについて学びます。

また、授業中盤では、フィールドワークの一環としてお茶の水クリスチャンセンター（OCC）を訪問し、組織の実際の運営、制度への適応、ミッションの体現のあり方を現場で観察します。このフィールドワークを通じて、理論的な知識を現実の組織の中で検証し、より深い理解を得ることを目指します。

さらに、授業終盤では、戦略的な優先順位の決定、変化やイノベーションへの対応、組織変革に焦点を当て、リーダーシップの役割と、組織が持続可能であり続けるために必要な要素を探求します。講義、ケーススタディ、グループ・ディスカッションを通じ、理論と実践の両面から組織マネジメントの複雑性を総合的に理解することを目指します。最終段階では、学生がこれまでの学びを総括し、選択した組織事例に適用したケーススタディ・プレゼンテーションを行い、実践的な理解をさらに深めます。

この授業の終了時には、学生が組織を社会学的視点からより深く理解し、文化的に多様な環境で効果的なリーダーシップを発揮するための洞察力と戦略を身につけることが期待されます。そして、日本国内外の教会やさまざまな組織において、責任あるメンバーやリーダーとして適切な役割を果たせるようになることを目標としています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 導入：組織とは何か、なぜ「目的」から始めるのか
第2週 「われわれのミッションは何か？」
第3週 「われわれの顧客は誰か？」
第4週 「顧客にとっての価値は何か？」
第5週 「われわれにとっての成果は何か？」
第6週 フィールドワーク：お茶の水クリスチャン・センター（OCC）見学、講義
第7週 「われわれの計画は何か？」
第8週 制度理論の観察レンズ
第9週 成長のネットワークと組織の発展
第10週 ケーススタディ発表とフィードバック

＜到達目標＞

①社会学的視点から組織を分析する：　日本における組織について深く理解します。これには、組織における個人と集団の相互作用、個人の選択が組織に与える影響、組織文化が個人の価値観や慣習に与える影響、ローカルおよびグローバルな力（特に欧米諸国からの影響）が日本の組織にどのような変化をもたらすか、などが含まれます。フィールドワーク（OCC見学）を通じて、理論と現場の接続も意識しながら、社会学的観点から組織を分析する能力を養います。

②組織マネジメントにおける理論と実践の統合：　理論と実践の統合を通じて、組織マネジメントの複雑さを理解し、効果的なマネジメント戦略を立案する能力を身につけます。ケーススタディ、グループディスカッション、フィールドワークの実践的な事例を用いて、現実の組織運営の課題とその解決策を検討します。学生は、日本のみならず世界各地の組織において、責任あるメンバーやリーダーとして貢献できるビジョンと実践力を得ることができます。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, フィールドワーク,
TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊P.F.ドラッカー（上田惇生訳）『経営者に贈る5つの質問[第2版]』ダイヤモンド社、2017年
山崎龍一「教会実務を神学する: 事務・管理・運営の手引き」教文館、2021年
須田木綿子, 米澤旦, 大平剛士.『組織理論入門ー5つのパースペクティヴー』晃洋書房、2022年
P.F.ドラッカー『ドラッカー名著集 4 非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007年
山田真茂留『集団と組織の社会学ー集合的アイデンティティのダイナミクス』 世界思想社、2017年
P.F.ドラッカー『ポスト資本主義社会ー21世紀の組織と人間はどう変わるか』ダイヤモンド社、1993年

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション 50 %
発表 20 %
期末レポート 30 %

＜準備学習等に必要な時間＞
この授業は事前課題として出された文献資料を十分理解していることを前提として行います。また、扱うテーマに関連した情報を独自にインターネット上でリサーチすることも求められます。課題資料を理解する速度に個人差がありますが、毎週3-4時間が目安となります。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
毎回の授業中の発言・書き込みに対してフィードバックをメール、書き込み掲示板、及び個別面談を通して行います。

オフィスアワーやその他の時間帯に教員と時間を調整し、個人的なフィードバックを受けることをお勧めします。昼休み(12:20-12:50)はなるべく研究室（教研棟3階）にいるようにしますが、事前に一言Teamsのチャットでご連絡ください。歓迎します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞
・科目コードでは3-4年生向けとなっていますが、内容は2年次から履修可能の授業です。

・授業への出席と参加について
本授業は、毎週の事前リーディングを基にしたディスカッションやリフレクションを通して、継続的に学びを積み重ねていく形式です。学期末には比較的簡潔なリフレクション課題がありますが、最終試験や期末レポートのみで成績が決まる授業ではありません。したがって、欠席や遅刻が続くと、授業内容の理解だけでなく評価にも大きく影響しますので注意してください。

・デジタルデバイスの使用について
ノートPCやタブレットは、資料参照やメモのために使用することができます。ただし、授業の一部時間では対話に集中するため、画面を閉じてもらう場合があります。特にグループディスカッションの際には、パソコンやスマートフォンなどのデジタルデバイスを使用しないで授業を進めることがあります。これは、学生同士の対話や自己表現を重視し、深く考える機会を確保するためです。また、授業では手書きでメモやリフレクションを書く時間もあるため、ノートや紙、筆記用具も持参してください。授業中にデジタルデバイスの使用が必要な場合は、教員が指示しますので、その指示に従ってください。

・AIツールの使用について
AIツールの使用を全面的に禁止するわけではありません。本授業では、むしろAIの限界を理解し、批判的に活用する姿勢を学びます。ただし、討論ポイント、授業内リフレクション、最終レポートにおいて、本人の思考過程や授業での学びが確認できない場合は評価を下げることがあります。

・課題提出やテーマ設定についての相談
提出物について不安がある場合や、テーマ設定に迷う場合は、早めに教員に相談してください。

・評価について
成績評価の透明性を確保するため、評価ルーブリックを事前に提示します。

・授業計画の調整について
授業の進行状況や学生の学習状況に応じて、学期中に授業内容や方法を一部調整する場合があります。その際は事前に通知します。

・聴講生について
聴講生であっても、教員の授業方針を尊重し、継続的な出席と責任ある授業参加を求めます。

・オフィスアワー（相談時間）
オフィスアワーやその他の時間に個別相談を受けることができます。昼休み（12:20–12:50）はなるべく研究室（教研棟3階）にいるようにしますので、希望する場合は事前にTeamsのチャットで一言連絡してください。歓迎します。

・欠席について
当日になって病気やその他のやむを得ず急遽欠席する場合には、TCUオンライン上の欠席届を必ず出してください。

・本科目は、グローバル・スタディーズ副専攻の対象科目です。

・本科目は担当教員の国際協力NGOである日本国際飢餓対策機構での実務経験を活かして講義を提供しています。

SBS210J　聖書学 I (旧約通論)

佐藤　潤

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
秋 水曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

旧約聖書各書の基本的な内容理解を目指します。各書を歴史と聖書全体の中に位置づけ、文学類型と解釈の前提となる視点を捉え、各書の主題を明確にし、主要な登場人物、出来事の把握、神学的ポイントの把握に努めます。また、過去に記された旧約聖書から学び、現代に生きる私たちへの今日的メッセージを読み取ります。
限られた授業内で三十九巻にもわたる旧約聖書の全てを扱うことは不可能ですが、旧約聖書への関心を育み、今後の学びに有益な基礎理解、学びの方法論を養い、今後の学びに備えます。

This course is designed to provide students with a basic understanding of the content of each Old Testament book. We will place each book in the context of history and the Bible as a whole, capture the literary types and contexts for interpretation, and understand the major characters, events, and theological points of view. We will foster an interest in the Old Testament and develop a methodology of study that will be beneficial for future study.

＜授業テーマと内容＞

第1週 旧約聖書序論
第2週 創世記
第3週 出エジプト記
第4週 レビ記、民数記、申命記
第5週 ヨシュア記、士師記
第6週 サムエル記、列王記
第7週 イザヤ書
第8週 エレミヤ書
第9週 エゼキエル書
第10週 エズラ・ネヘミヤ記、歴代誌／ 総括

＜到達目標＞

1）旧約聖書全体の流れ、構成、主要テーマを把握すること
2) 旧約聖書への関心を深め、今後の聖書の学びの基礎を形成すること
3）各書簡同士、ならびに旧約聖書と新約聖書との関連性を理解すること
4）旧約聖書を読むことを通して、現代社会や教会の課題へのメッセージを読み取ること

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

聖書

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
発表 30 %
期末レポート 50 %
※ 授業参加度 = 出席/聖書クイズ
※ 発表 = 担当の聖書人物について発表
※ 期末レポート = 所定のテーマから一つ課題を選んで、レポートを作成

＜準備学習等に必要な時間＞

1時間程度

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題やレポートは、講師の採点・コメントともに随時返却します

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

受講にあたって何か気がかりなことがある場合、例えば日本語での読み書きが困難である場合や身体的、精神的健康における懸念がある場合、レポートの書き方がわからない場合など、講師まで伝えてください。柔軟に対応します。

SBS320J　聖書学 II (福音書)

須藤　英幸

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
冬 木曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

「福音書」（聖書学II）は、主イエスの言行録ともいうべき四つの福音書を取り扱います。現代神学の分野では、福音書を分析する様々な方法が論じられています。その中には、生半可な思いで近づくにはあまりにも学問的に過ぎる方法も多く存在します。幸運にも近年は、福音書が信仰共同体の中で書かれたテキストであるということが大前提にされつつ、福音書記者における旧約聖書の引用方法に注目した健全な方法が考えられるようになってきました。

本授業では、各福音書において、新約で「聖書」（☒ γ ρ α φ ☒）と呼ばれる旧約聖書の引用方法を分析することで、各記者が当時の世界の中で強調した福音内容を提示します。その結果、福音書の旧約聖書との連続性を理解するだけではなく、各記者が強調する内容の差異に注意を向けるようにもなります。本コースのねらいは、各福音書における旧約聖書の引用箇所を分析することで、福音書記者のダイナミックな旧約解釈の方法を学び、それによって見えてくる「イエスとは何者であるのか」という問いに対する彼らの応答を理解できるようになることです。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロ：正典福音書とは？
第2週 近代聖書学の福音書研究の歴史：二資料説、様式史、伝承史、編集史・・・
第3週 マタイの福音書：ユダヤ的な福音書
第4週 マルコの福音書：せっかちな福音書？
第5週 ルカの福音書：ルカ文書の一巻目
第6週 ヨハネの福音書：独特な象徴世界
第7週 紀元1世紀のパレスチナの文化と社会
第8週 イエスは宣教活動で何を成し遂げたか、成し遂げたかったか？
第9週 イエスの十字架：受難週
第10週 それでは、どのように読んで、どのように生きたら良いか？（受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

正典福音書がどのような目的で執筆された書物かおぼろげながら理解して、イエスが生きた社会と時代がどのようなものか理解して、私たちが生きている時代と社会との相違も踏まえてどのように福音書を読み解かなければならないか基礎的な知識と訓練を習得すること。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

新改訳聖書2017版

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
課題 40 %
期末レポート 50 %
・読書課題は、教科書の指定範囲に対する簡単なリフレクションです。読んできたことが分かるように10行以上のリフレクションを作成し、授業中に提出します。
・期末レポートは、3,000字以上の文字数を予定しています。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週約300分の学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

読書課題の記入方法に問題があるときは、お知らせします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞
特にありません。

SBS330J　聖書学 III (モーセ五書)

公文　光

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
冬 金曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

旧約聖書の最初の五冊の書は「みおしえ」であり、さまざまな意味において重要です。歴史的には、はじめから、神の民の形成までの経緯を追っています。テーマについては、人間の存在意義、堕落の現実、信仰のあり方、律法などのテーマを理解するためには不可欠です。

このコースはモーセ五書の様々なテーマについて考えを深めつつ、同時にそれがどのように旧約全体、新約、そして現代の生活と関連するのかを随所で説明することで、現代においてもモーセ五書は多くを学べる生き方についての「みおしえ」であり続けているという立場をとります。なかでも「創造」にみる人間の本来あるべきあり方、「堕落」に見るその後の人間の現実をしっかりと理解し、そこからモーセ五書、そして聖書全体がいう「たましいの救い」について考察していきます。また、聖書を一読者としても理解するためのスキル、とくにナラティブや律法を読むセンスを身につけるために、「内容」だけではなく「読み方」も教えていきます。モーセ五書が現代の我々に教えることは多くあります。学生には、個人的なチャレンジとしてモーセ五書を読むことが期待されます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 創世記①：天地の創造
第2週 創世記②：人間の創造
第3週 創世記③：堕落
第4週 創世記④：アブラハム
第5週 出エジプト記①：モーセと十の災い
第6週 出エジプト記②：十戒と契約の書
第7週 レビ記の特徴
第8週 民数記の特徴
第9週 申命記①：概要と特徴
第10週 申命記②：「愛」について

＜到達目標＞

この授業の目的はモーセ五書における救済史を理解することにあります。創世記３章にある「堕落」から始まり、人間の「罪」の正体を明らかにし、「信仰」や「律法」について理解を深めていきます。さらに、これらのテーマは聖書全体の語る救いとはどのように関わり、それがどのように新約と関連するかについて関心を高めることに目的はあります。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

Gordon J. Wenham, A Guide to the Pentateuch (Exploring the Old Testament; Downers Grove, Ill.: InterVarsity Press, 2003)
* 聖書 新改訳2017
その他については、授業中に提示し、お互いに役立つものを紹介する予定です。

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
期末レポート 50 %
期末試験 40 %
期末レポートは口頭での解説も含まれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎週約２８０分（最低）の学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

レポートについては、簡単に校閲し、また必要であれば、どのように議論をさらに深めることができるのかを書きます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞
学習障害のある方は、早めに教師と個別に相談してください。
聴講されたい方は、教師にご相談ください。

SBS340J　聖書学 IV (預言書・聖文書)

佐藤　潤

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
冬 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

ヘブライ語旧約聖書の第三区分「諸書」の書簡を通して古代イスラエルのヘブライ詩文に親しみます。並行法やメタファーなどヘブライ詩文特有の技巧や、各書の執筆目的や神学的意義、そして歴史上各書が教会にどのように解釈されてきたのかについての理解を深めます。受講者は、本授業で培ったスキルを用いて、現代の教会や社会が抱える諸課題への、聖書テキストの今日的な適応を提案することが期待されます。

We will become familiar with the Hebrew poetic text. Students are expected to learn about the techniques of Hebrew poetry, such as parallelism and metaphor, the purpose of each book, its theological significance, and how each book has been interpreted by the church throughout history. Students are also expected to propose today's application of biblical texts to the challenges of the contemporary church and society.

＜授業テーマと内容＞

第1週 序論／ 文学について
第2週 詩篇(1)
第3週 詩篇(2)
第4週 箴言
第5週 伝道者の書(1)
第6週 伝道者の書(2)
第7週 雅歌／雅歌
第8週 ヨブ記
第9週 ルツ記／エステル記
第10週 ダニエル書/ 総括

＜到達目標＞

1) 各書の内容や構成、テーマを把握すること
2) 各書の解釈の歴史、そして現代的な課題を理解すること
3) 二次資料を用いずに、聖書自体から各書の主要メッセージを聞き取る素養を育むこと
4) 各書から今日的な適応を提案し、聖書と現代の教会の課題を結びつける力を身につけること

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

* 聖書

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
発表 30 %
期末レポート 50 %
※ 課題：指定された詩篇のプレゼンテーション
※ 期末レポート:「雅歌」あるいは「哀歌」についてのレポートを予定

＜準備学習等に必要な時間＞

1時間程度

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題やレポートは、講師の採点・コメントともに随時返却します

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞

受講にあたって何か気がかりなことがある場合、例えば日本語での読み書きが困難である場合や身体的、精神的健康における懸念がある場合、レポートの書き方がわからない場合など、講師まで伝えてください。柔軟に対応します。

SBS350J　聖書学 V (書簡)

岩上　敬人

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
春 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞
このクラスではガラテヤ人の手紙を通してパウロの生涯と神学を探索する。また新約聖書の書簡を読み理解するために、ギリシアローマ時代の手紙形式や修辞学を学ぶ。ガラテヤ書はパウロが「福音の真理を守り、偽りの教えに惑わされない」ために書いた手紙である。初代教会のエルサレム会議にまつわる歴史的背景から手紙を理解し、特にパウロが強調した信仰によって義と認められるとは、当時の教会の人々にとってどのような意味だったのかを考える。
This class will explore Paul's life and theology through the Book of Galatians. Students will also study the letter forms and rhetoric of the Greco-Roman world in order to read and understand the New Testament epistles. Galatians is a letter Paul wrote to “defend the truth of the gospel and not be deceived by false teachings. We will understand the letter from the historical background of the Jerusalem Conference of the early church, and especially consider what Paul's emphasis on being justified by faith meant to the people of the church at that time.

＜授業テーマと内容＞
第1週 パウロの生涯と手紙の書き方・議論の方法
第2週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第１章：パウロの福音の起源について
第3週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第２章：アンテオケの危機
第4週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第２章：信仰義認とは
第5週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第３章：アブラハムの子とは
第6週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第３章：律法ののろいからの贖いとは
第7週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第４章：律法の限界
第8週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第５章：御霊によって歩みなさい
第9週 ガラテヤ諸教会宛の手紙第６章：キリストの律法とは
第10週 まとめと結論
ガラテヤ諸教会宛のパウロの手紙を通して、パウロの生涯、思想を探索する。またそれによって新約聖書内の書簡を読み、理解する方法論も学ぶ。書簡とは具体的な状況にいる具体的な読者が一義的読者として想定される文学類型である。またガラテヤ書はスピーチとしての要素もあり、古典修辞学からの分析も可能である。さらに神のみことばとしての聖書は、時間と空間という制約を超越する。神のみことばであることと書簡であることの間には緊張関係がある。このことを踏まえて、新約聖書の書簡のひとつであるパウロがガラテヤ諸教会宛に「福音の真理を固守する」ために書き送った手紙が現代の読者である私たち何を意味するのかを考えつつ、読み進める。「福音の真理」を説き明かす仕方にはいろいろあるが、ガラテヤ諸教会の具体的な状況の故に、内容的には神学的であるが、神学議論の展開の仕方が相当に論争的となっている。何が争点になっているのかを理解しつつ、読者を納得させ、福音の真理をもう一度回復しようとするパウロの「熱心」に焦点をあてて学ぶ。

＜到達目標＞
新約聖書の書簡を読み、理解するためにどうしたらよいか、基礎の基礎を習得した上で、ガラテヤ諸教会宛の手紙の概要を把握する。特に、ガラテヤ書は、具体的な状況と論敵が想定されているので、それを踏まえつつ、しかも私たち現代の読者にどういう意味があるか考えることができるようになる。

＜DPとの関連＞
DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞
対面授業

＜授業方法＞
グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
新改訳2017
伊藤明生『ガラテヤ人への手紙講解ーパウロが語る福音の真理』（いのちのことば社）2010/10/15
岩上敬人『パウロ　ギリシア・ローマ世界に生きた使徒』(いのちのことば社) 2014年12月
N･T･ライト『使徒パウロは何を語ったのか』 (いのちのことば社)
山口希生『ユダヤ人も異邦人もなく』（教文館）
J・D・G・ダン『使徒パウロの神学』（教文館）

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 20 %
課題 20 %
発表 10 %
期末試験 50 %
課題は①ガラテヤ人への手紙の章題をつけること、②ガラテヤ人への手紙の分解・分析をすること、の２つです。

＜準備学習等に必要な時間＞

各授業のために３０分程度の予習と３０分程度の復習

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

クラス内課題は講師がコメント（評価すべき点、改善すべき点）を付して返却します。期末テストは点数とともに、模範解答を示して返却します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

新約概論で書簡について学んだことを復習して思い起こしておいてください。書簡では、差出人と受取人との間にある共通認識が前提となっているので、手紙の時代背景などを十分に理解することが解釈の大前提となる。

SCH210J 組織神学 I (神論・人間論・キリスト論)

齋藤　五十三

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
秋 月曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

「神論」は、『聖書』を主要な根拠として用い、神ご自身について体系的に学ぶことを目的とします。加えて教会が神の啓示への応答としてまとめた信仰告白文書も資料として用います。有限な人間は神を完全に知ることはできませんので、「神論」には啓示された範囲内でしか論じることができないという限定がありますが、たとえ限定つきでも「神のかたち」に創造された人間にとって、神を知ることは生涯取り組むに値する課題です。「人間論」は神論と表裏一体の関係にあります。創造における人間の位置づけを確認した後、堕落における人間、原罪の問題の深刻さを学び、神を知ることと人間を知ることが不可分の関係にあることを理解します。「キリスト論」は三位一体の第二位格であるキリストのご人格と仲保者としての職務に関係するもので、「人格論」と「御わざ論」 から成ります。人格論としては、ニカイア信条からカルケドン信条に至る流れを見ながら、キリストの「二性一人格論」を理解することを目的とします。業論としては、仲保者としてのキリスト・イエスの二状態における三職論（王
、祭司、預言者）を中心に学びます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 神の属性
第2週 三位一体
第3週 永遠の聖定
第4週 創造と摂理
第5週 神のかたち
第6週 堕落と原罪
第7週 キリスト論、ニケア信条
第8週 二性一人格
第9週 キリストの三職
第10週 キリストの二状態

＜到達目標＞

二つの目標があります。まず最初に「神」「人間」「キリスト」についてそれぞれ、適切な聖書的根拠を把握しながら理解することが第一の目標です。第二の目標としては、理解したことを自らの言葉をもって証しし、語れるようにすることです。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊ハイデルベルク信仰問答
＊ニューシティカテキズム（CBI出版）*教員による配付

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
課題 20 %
期末試験 50 %
授業参加度は毎回提出を求める授業ノートでポイントをつけていきます。リフレクションは毎回の事前課題です。これらを毎回提出すれば、それなりの成績となりますので忘れないように取り組んでください。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回、ハイデルベルク信仰問答、ニューシティカテキズムの指定個所を精読して課題を準備してください。前回授業の復習、事前課題（リフレクション）のため、毎週280分を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

事前課題、復習課題、期末試験それぞれにフィードバックがあります。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

Note: 「キリストと世界Ⅰ（神学）」(岡村教授)を終えていることを履修の条件とします（三年次編入生を除く）。

SCH220J 組織神学 II (救済論・教会論・終末論)

齋藤　五十三

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
冬 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

「救済論」はキリスト・イエスにより完成された「贖罪の業」を基盤として、永遠の神の計画に基づく救いがどのように人・教会に適用されるかを学びます。救済の秩序（Ordo salutis）における聖霊の働きを理解し、救済論を聖霊の業として把握していきます。聖霊論との関わりも深いため、救済論は聖霊論とも呼べる内容となっています。「教会論」は、聖霊の働きにより神の子どもとされた者たちが、神の家族という共同体に集められたことの意味と目的を問う学びです。具体的内容としては、教会の本質を問う「教会のしるし論」、教会におけるキリストの主権を形にするための「教会政治」、聖霊の恵みを受ける「手段」としての「礼典論」がその主な内容となります。「終末論」は、集められた神の民としての教会が神の国の完成を迎える「終わりのとき」に起こる事柄を扱う学びです。具体的には個人の死と復活までの中間状態を扱う「個人的終末論」と、キリストの再臨を中心として世界が終わりを迎える「一般的終末論」が主な内容となります。

＜授業テーマと内容＞

第1週 贖罪論、救済論概要
第2週 召命、新生、信仰、回心
第3週 信仰義認
第4週 神の子どもとしての聖化
第5週 救いの確かさ、教会論概要
第6週 教会のしるし、教会政治
第7週 礼典論（洗礼、聖餐）
第8週 終末論概要
第9週 個人的終末論
第10週 一般的終末論

＜到達目標＞

二つの目標があります。まず最初に「救済」、「教会」、「終末」理解についてそれぞれ、適切な聖書的根拠を把握しながら理解することが第一の目標です。第二の目標としては、理解したことを自らの言葉をもって証しし、語れるようにすることです。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

* ハイデルベルク信仰問答
* ニューシティカテキズム（CBI出版）*教員による配付

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
課題 20 %
期末試験 50 %
授業参加度は毎回授業後に提出を求める授業ノートによってポイントをつけます。リフレクションは、毎回の事前課題です。これらを毎回期限通りに提出すれば、それなりの成績が残りますので忘れないように気を付けてください。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回、ハイデルベルク信仰問答、ニューシティカテキズムの指定個所を精読して課題を準備してください。前回授業の復習、事前課題（リフレクション）のため、毎週280分を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

事前課題、復習課題、プレゼンテーション、期末試験それぞれにフィードバックがあります。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞

Note: 「キリストと世界Ⅰ（神学）」(岡村教授)を終えていることを履修の条件とします（三年次編入生を除く）。

SCH230J　歴史神学Ⅰ(古代・中世)

青木　義紀

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
春 火曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

「歴史神学Ⅰ」（古代・中世）は、新約聖書の使徒の時代から始まり、古代、中世を経て、宗教改革の黎明期までを取り上げます。歴史を知るという作業は、私たちのルーツを知ることであり、過去を知ることによって現在をよりよく知ることでもあります。さらには過去と現在の延長線上にある将来を見通し、それに備えることにもつながっていきます。その意味で、歴史「を」学ぶこと、歴史「に」学ぶことは重要です。

本授業では、以下の3つのことを目指します。

第一に、序論としてキリスト教史とは何かを問い、キリスト教史を学ぶ意義を確認し、歴史から学ぶ姿勢の習得を目指します。

第二に、古代キリスト教の歴史を学ぶことにより、初期の教会や信仰者のたどった苦難と戦いを知り、キリスト教の基本教理の形成過程とその内容を把握し、ヨーロッパ世界におけるキリスト教の社会的位置づけの理解を目指します。

第三に、中世キリスト教の歴史を学ぶことによって、ヨーロッパ世界に広がっていくキリスト教の歴史をたどり、文化や社会に根ざしていくキリスト教の発展や貢献に目を向けるとともに、そこにある弊害や課題をも把握する視点を養うことを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 （序論）キリスト教史とは何か
第2週 （古代１）新約聖書の舞台
第3週 （古代２）使徒教父、護教家、2世紀の異端、教師たち
第4週 （古代３）迫害の時代、キリスト教公認、国家宗教へ
第5週 （古代４）基本教理の形成と教父の活躍
第6週 （古代５）アウグスティヌスの貢献
第7週 （中世１）西ローマ帝国の崩壊とビザンツ帝国
第8週 （中世２）神聖ローマ帝国と叙任権闘争
第9週 （中世３）シトー会、異端、12世紀ルネサンス
第10週 （中世４）教皇庁の絶頂、托鉢修道会、スコラ学の発展、教皇庁の分裂
（受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

・初期教会から宗教改革の夜明けに至るキリスト教の歴史的流れを理解する。
・キリスト教史における重要な人物やできごとについて説明できる。
・キリスト教とは何かを歴史的視点から自分なりに答えることができる。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

*『キリスト教史 上巻』フスト・ゴンサレス、石田学訳、新教出版社、2002年
『1冊でわかるキリスト教史：古代から現代まで』土井健司監修、日本キリスト教団出版局，2018年
『これだけは知っておきたいキリスト教史』フスト・ゴンサレス、金丸英子訳、教文館、2011年
『キリスト教史の学び（上）』越川弘英、キリスト新聞社、2020年
『総説 キリスト教史１原始・古代・中世篇』荒井献・出村彰監修、日本キリスト教団出版局、2007年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
リフレクション 30 %
期末レポート 50 %
・リフレクション・ペーパーは、授業で学んだこと、そこから考えたことを500字程度にまとめて毎回提出してもらいます。
・期末レポートは、古代・中世のキリスト教史の中で、関心のあるできごと、人物、トピックなどのいずれかを取り上げ、それについて自由に調べてレポートしてもらいます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週280分以上の学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題の記入方法に問題があるときは、お知らせします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

SCH240J 歴史神学 II (宗教改革・近現代)

青木　義紀

2 単位
教研棟２Ｆ 小教室１
秋 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

「歴史神学Ⅱ」（宗教改革・近現代）は、宗教改革の黎明期から始まり、近代の社会的・思想的変化を通じて、現代に至るまでのキリスト教の歴史を扱います。とくにこの時代のキリスト教の歴史を学ぶ意義は、私たちプロテスタント信仰に生きる者たちのルーツとアイデンティティを知り、現在の私たちの教会と信仰がどのようなものであるかを歴史的文脈とキリスト教界全体の枠組みの中で把握する点にあります。

本授業では、以下の3つのことを目指します。

第一に、宗教改革の契機と起源を知り、宗教改革全体を踏まえて、この時代の重要なできごと・人物・思想・神学を理解すること。さらにその後の時代の宗教改革的遺産の継承にも目を向けます。

第二に、近代に起こる社会的・思想的な変化を捉え、この時代のキリスト教の社会における位置づけや変化する思想・神学を捉えること。

第三に、現代のキリスト教史として20世紀のキリスト教、とくにカトリック、プロテスタント、そして福音派の動きと神学的動向を考察すること。

＜授業テーマと内容＞

第1週 （宗教改革１）宗教改革の黎明期
第2週 （宗教改革２）ルターの宗教改革、ツヴィングリの宗教改革
第3週 （宗教改革３）カルヴァンの宗教改革、急進派の宗教改革
第4週 （宗教改革４）英国の宗教改革、カトリックの宗教改革
第5週 （近　代　１）2つの戦争、正統主義、ピューリタニズム、敬虔主義
第6週 （近　代　２）近代科学と近代哲学、啓蒙主義、福音主義運動、信仰復興運動
第7週 （近　代　３）革命と帝国主義国家、ロマン主義、ドイツ観念論
第8週 （近　代　４）自由主義神学、オックスフォード運動
第9週 （現　代　１）20世紀のプロテスタント、カトリック、福音派
第10週 （現　代　２）20世紀神学の行方とプロテスタント神学者たち
（受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

・宗教改革から現代に至るまでのキリスト教の歴史的流れを把握する。
・宗教改革の契機と起源を知り、その多様性とそれぞれの特徴を知る。
・近代の社会的・思想的変化を把握し、その中に生きるキリスト教の実態を知る。
・現代のキリスト教、とくにプロテスタント、カトリック、福音派の現状を知る。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

『キリスト教史 下巻【増補新版】』、フスト・ゴンザレス著、石田学・岩橋常久訳、新教出版社、2020年
『1冊でわかるキリスト教史：古代から現代まで』土井健司監修、日本キリスト教団出版局，2018年
『これだけは知っておきたいキリスト教史』フスト・ゴンサレス、金丸英子訳、教文館、2011年
『キリスト教史の学び（下）』越川弘英、キリスト新聞社、2020年
『総説 キリスト教史２宗教改革篇』荒井献・出村彰監修、日本キリスト教団出版局、2006年
『総説 キリスト教史３近・現代篇』荒井献・出村彰監修、日本キリスト教団出版局、2007年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
リフレクション 30 %
期末レポート 50 %
・リフレクション・ペーパーは、授業で学んだこと、そこから考えたことを500字程度にまとめて毎回提出してもらいます。
・期末レポートは、宗教改革・近現代のキリスト教史の中で、関心のあるできごと、人物、トピックなどのいずれかを取り上げ、それについて自由に調べてレポートしてもらいます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週280分以上の学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

読書課題の記入方法に問題があるときは、お知らせします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

SCH350J　歴史神学 III (旧約聖書史/考古学)

菊池　実

2 単位
教研棟１Ｆ 大教室
春 金曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

聖書考古学１（旧約）に同時代史の要素を加えた講座となります。聖書の地の考古学の方法、歴史や文化を明らかにする遺物の紹介をして聖書のリアルな世界に触れ、教員自身の現地での発掘の経験と実際を紹介します。

各回、イスラエルの地の地政学、考古学の目的や方法、聖書の歴史に沿った考古学的成果の検討、遺物の紹介、歴史の流れに焦点を置き、各時代における発見と聖書との関わりを考えます。
聖書のそのままの世界を知り、聖書に神学の基礎を置く私たちがさらに聖書理解を深めるためのクラスとなることを願っています。
実際の遺物に触れ、また図版を多用し、年表と聖書の歴史を突き合わせて、聖書神学のひとつのアプローチを経験するクラスです。
　福音主義の神学とは聖書の言葉に信頼をもって私を読む実践神学の方法を持ちます。その土台となる聖書にどれだけの深みをもって読むことがなされているのか、その自覚もなかなか持てない昨今の多忙な信仰生活でしょう。そこにリアルな世界の回復と聖書の言葉の体験があることを願っています。
これまで見聞きしたことのない情報によって、聖書の言葉に光を当てて、思索し、新たな喜びの発見をしましょう。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション、聖書考古学とは
第2週 聖書の地の地理、気候、テル、発掘の実際
第3週 遺跡丘、土器編年、聖書時代の実際の土器、カナン人の宗教①
第4週 カナン人の宗教と文化②
第5週 考古学から見た出エジプト
第6週 ペリシテ人の文化
第7週 ダビデとエルサレム
第8週 ソロモンの時代
第9週 北イスラエル王国①
第10週 北イスラエル王国②

＜到達目標＞

旧約聖書の舞台（イスラエルの地）の実際をよく捉え、聖書中の言葉の実際の姿（土の器、偶像、初期のエルサレム、城壁、家、戦争、等々）を知り、碑文や聖書の歴史をこれまでなかった方法で見つめ直して、聖書のメッセージを文脈の中で味わうことを目標にします。　聖書を物質文化と歴史、あるいは当時の日常の言語という視点から光を当てて、読むという方法との出会いです。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

聖書考古学旧約篇　杉本智俊

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
発表 20 %
期末レポート 70 %
授業への積極的参加、発表（考古学的テーマを一つ選択してグループで発表）、期末の試験（持ち帰り）での評価となります。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業で扱う内容をさらにネット情報や考古学誌、歴史書、聖書において各自深めてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

発表や期末レポートにフィードバックします。TEAMSでの質問も受けます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞

内容的にアクティブラーニングには向かないクラスですが、図版を中心に多くの資料を提供します。聖書の世界がリアルになるクラスとなるように努めます。

SCH470J 歴史神学 V (信条学)

青木　義紀

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
春 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

本講義では神学諸科における信条学の位置づけと意味づけを考えることから始まり、次に「聖書と信仰告白」の関係、「教義と信仰告白」の関係、「教会と信仰告白」の関係を教義学的に整理し、その意義を考察します。
続いて古代教会における信条成立史を概観し、その代表的な信条である使徒信条、ニカイア信条、ニカイア・コンスタンティノポリス信条、カルケドン信条などを緒論的に考察します。
さらに、中世における信条にはどのようなものがあり、そこにある特徴を考察します。宗教改革期の信条を考察し、ルター派、改革派、急進派、カトリック、英国国教会のそれぞれの特徴を捉えます。また近代、における信仰告白をめぐる課題を考察します。20世紀の信仰告白を取り上げ、そこにある戦争・独裁・社会的不正義などの課題に対する教会の応答を見ていきます。また現代における信条の意義と私たちとの関わりについて考察していきます。
皆さんには単に信仰告白文書についての知識を得るのみならず、「信仰を告白する」という行為の持つ神学的・信仰的な意味を考えていただきたいと願っています。歴史神学、組織神学的な思考を養うことにも通じるクラスを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 信条学とは何か：信条学の位置づけ・定義・方法論・読み方
第2週 信仰を告白するということ
第3週 古代信条の成立と発展①：使徒信条、ニカイア信条
第4週 古代信条の成立と発展☒：ニカイア・コンスタンティノポリス信条、カルケドン信条
第5週 中世における信条
第6週 宗教改革期の信条①ルター派、改革派
第7週 宗教改革期の信条☒急進派、カトリック、英国国教会
第8週 近代における信仰告白と啓蒙主義の影響
第9週 20世紀の信仰告白
第10週 現代における信条の意義と私たちの信仰告白

＜到達目標＞

本講義の到達目標は以下の4点です。
①信仰告白成立の歴史的な経緯と歴史的背景を理解すること
②信仰告白文書の読解力を身につけること
③信仰告白の今日的意義、「信仰を告白する」という動的意義を神学的に考察する力を養うこと
④学んだ内容を理解し、的確に論述する力を養うこと

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

『使徒信条の歴史』、本城仰太、教文館、2023年
『初期キリスト教信条史』、Ｊ．Ｎ．Ｄ．ケリー、服部修訳、一麦出版社、2011年
『古代教会の信仰告白』、渡辺信夫、新教出版社、2002年
『ニカイア信条・使徒信条入門』F. ヤング、教文館、2009年
『福音と諸教会：信条学教本』、W. ニーゼル、渡辺信夫訳、教文館、2008年
『一致信条書：ルーテル教会信条集』、教文館、2006年
『改革教会信仰告白集』関川泰寛、袴田康裕、三好明編、教文館、2014年
『改革教会信仰告白の神学』ヤン・ロールス、芳賀力訳、一麦出版社、2000年
『改革主義信条の神学』、P. ヤコプス、池永倫明訳、新教出版社、1981年
『新教コイノーニア33日本キリスト教団戦争責任から50年』同人編、新教出版社、2017年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
リフレクション 20 %
期末レポート 50 %
毎回の授業後にリフレクションの提出を求めます。
学期末には期末レポートの提出を求めます。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業時間の2倍を目安とします。レジュメに目を通し、参考文献をできる限り読むよう心がけてください。とくに各信条そのものを実際に読んでみてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回のリフレクション、期末レポートにコメントを付けてフィードバックします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

レジュメを用意します。
疑問を持つことを大切にし、進んで質問等してください。積極的な授業参加を期待しています。教会書・参考書として挙げた本は、どれか一冊は必ず読むようにしてください。
合理的配慮が認められた場合には、課題の提出方法や期限延長をすることが可能ですので、個別に相談してください。

SCH480J 歴史神学 VI (日本キリスト教通史)

山口 陽一

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
冬 木曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

キリシタン史を前史として明治期以降のプロテスタント史を中心に概観します.景教伝来の可能性や明治以降のカトリック、ハリストス正教会にも目を配り講義を行います。キリシタン史は日本の宗教政策や日本人性を理解するためにも重要であるのでしっかりと扱います。これは近代のプロテスタント史を理解する上でも不可欠です。プロテスタント史においては、近現代のキリスト教史における「教会と国家」の課題を日本における特殊性をふまえて考察し、今日的課題をも探ります。キリスト教と文化・社会との係わり、具体的には聖書翻訳や讃美歌、文学、戦争、社会事業などにも言及しますが、主には日本における宣教や教会形成について扱います。日本のキリスト教史全体をとらえることをめざしますが、特に東京基督教大学と関係の深い福音派教会の特質についての理解を深めることを意識します。専門用語が多く、史料紹介も行なうため、日本語および日本史の知識が前提として必要とされます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 日本キリスト教史の視点、時代区分と文献紹介、景教伝来の可能性
第2週 キリシタンの世紀、布教の進展とキリシタンの教理
第3週 キリシタン禁制史、殉教と鎖国体制
第4週 プロテスタント宣教師と幕末明治の日本
第5週 プロテスタント受容の特質、横浜、熊本、札幌、静岡、松江
第6週 明治期の伝道の諸相、受容の特質
第7週「日本」とのキリスト教の衝突、戦争と教会
第8週 大正期のプロテスタントの「成長」、朝鮮のリバイバルとの比較
第9週 戦時下の教会の苦悩、神社参拝・教会の罪責
第10週 戦争責任の自覚、戦後プロテスタントの展開

＜到達目標＞

教会教職・信徒奉仕者を志す人には日本における教会形成の課題の理解、クリスチャンとして日本に生きる意味を考えることを期待します。留学生には、日本と日本の教会文化を理解することを期待します。日本キリスト教史研究への関心、歴史的意識を持つことを願うのみならず、卒業論文につながるテーマとの出会いも期待します。

＜DPとの関連＞

DP1 プロテスタント福音主義の意義把握
DP2 超教派理念の肯定的な理解
DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

中村　敏『日本キリスト教宣教史ーザビエル以前から今日まで』いのちのことば社
大村晴雄『日本プロテスタント小史』 いのちのことば社
中村　敏『日本における福音派の歴史』 いのちのことば社
鈴木範久『日本キリスト教史　年表で読む』　教文館
五野井隆史『日本キリシタン史の研究』吉川弘文館
『日本キリスト教歴史大事典』教文館
『日本キリスト教歴史人名事典』教文館

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
リフレクション 20 %
中間レポート/試験 20 %
期末レポート 40 %
レジュメの指定ページを読み、毎回、講義の感想･質問を書いてもらい、次回それに応答する時間を持ちます。欠席はもとより遅刻･早退についても連絡を怠らないことを含め平常点とします（30%）。中間レポートはブックレポートです。期末レポートは、各自がテーマを自由に設定します。教科書と講義の範囲内で、テーマを絞り込み、引用文献を用い、Ａ４の用紙に4000～6000字で書いてもらいます（50%）。

＜準備学習等に必要な時間＞

講義は2時間（20分は質疑応答形式）を目安に行ないます。毎回3時間程度の事前学習をしてください。期末のレポートには相当の時間が必要です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクション、レポートに対してコメントします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
日本史の知識が不十分な人は、その点での事前学習を行なってください。
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

SCW308J キリスト教福祉 VIII (社会福祉概論)

井上 貴詞

2 単位
教研棟２Ｆ 小教室４
冬 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

このクラスの内容の中核は「児童福祉」です。社会福祉の理念と概要、歴史、福祉行政の基本的なしくみと実施体系、マンパワーの現状と課題など原論・概論的な学びを基にしつつ、児童福祉の実務経験と知見の豊富な講師による児童福祉の内容を織り込んでいきます。児童福祉の概要としては、現代社会における子どもの現状を各種統計や近年の政策動向、歴史（ジュネーブ宣言から子どもの権利条約まで）などから概観し、子どもの権利や子ども観の変遷の理解を深めます。また子どもに発達（課題）について先行研究や理論、子どもの障害や支援策から考えを掘り下げていきます。さらに、児童福祉に最も喫緊の課題である「子どもの虐待」について、その定義、統計、子ども虐待に対応する法律と社会資源、地域での虐待防止策などからその視座を広げていきます。また近年のトピックスとして子どもの貧困、いじめ、自殺、小児逆境体験なども学びます。社会福祉専門職をめざす方だけでなく、クリスチャン市民ワーカーや牧師や宣教師などの教職者をめざす方、教会で福祉の理解を役立てたい方にも有用な教養、考え方も示していきます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 人間の尊厳と社会福祉の捉え方
第2週 社会福祉の理念と構造
第3週 社会福祉のあゆみ
第4週 少子高齢化と高齢者のこころとからだの理解
第5週 高齢者福祉の制度と方法
第6週 障がい者福祉の理念と考え方（ソーシャルインクルージョン・ICF)
第7週 地域共生社会と福祉のマンパワー
第8週 フィールドワーク学習（履修者数により変更あり）
第9週 生活困窮者支援と権利擁護のしくみ
第10週 プレゼンテーションと討議・まとめ

＜到達目標＞

①キリスト者の視点から社会福祉が現代社会に果たす役割や意義が説明できる。
②イギリスと日本の社会福祉の歴史から現代の社会福祉の原理を読み解く歴史的視座を身につける。。
③少子高齢化の諸問題についての理解を深める
④社会や講義の宣教の課題として市民社会形成の福祉を問う力をつける。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

井村圭壯・鎌田綱編著『社会福祉の内容と課題』勁草書房、2024年
一瀬早百合『社会福祉とわたしたち』萌文書林、2022年
圷洋一ほか『問いからはじめる社会福祉学』有斐閣、2016年
北川清一/川越雅弘『社会福祉への招待』ミネルヴァ書房、2017年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
リフレクション 20 %
発表 10 %
期末試験 40 %
授業中の居眠りや関係のないネットの視聴は、出席していても減点対象です。20分以上の遅刻は、出席半分とします。授業参加度は、建設的創造的な問い（質問）やディスカッションなどでの積極的参加度も含みます。リフレクションペーパーは、毎回Teamsで5日以内に提出です。最終回にどんなレポートを書きたいか青写真を描いてミニプレゼンテーションとディスカッションをします。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業出席だけで学びきることは不可能です。推奨する参考文献を最低一冊は入手して読み通す事を授業の倍の時間の授業外学習としてカウントします。ボランティア体験も推奨し、授業外学習時間にカウントします。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクションペーパーでの疑問点や質問にはフィードバックします。レポートもコメントします。不明な点や疑問点が出れば、Teamsに書き込んで下されば応答します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞

社会福祉主事任用資格取得に必要なクラスです。対面授業が基本です。やむを得ない事情で欠席の場合はできる限り事前に（急な場合は後日でも）必ず理由を添えて連絡してください。学びに大切な事は、自ら調べ考え、問い（リサーチクエスチョン）を持つ姿勢です。

SCW309J キリスト教福祉 IX (ソーシャルワーク)

井上 貴詞

2 単位
教研棟２Ｆ 小教室２
秋 火曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

ソーシャルワークは、人の生活の全体性や社会性に着目してクライエント（福祉の対象者）のwell－beingとエンパワーメント、社会的結束と社会の変革をも促進していくものです。ソーシャルワークは「社会福祉援助技術」とも訳されますが、今日のソーシャルワークは、単なる技術論にとどまらず、福祉の原理・価値・歴史もふまえ、人とその環境へミクロレベルからメゾ、マクロ・レベルまでの総合的なアプローチをめざします。神学的に言い換えるならば、「神のかたち」に創造された人間の尊厳を守り、人と人が真実に助け合って生きる社会の創造への参与です。社会福祉士は、ソーシャルワーカーの国家資格ですが、ソーシャルワークは国家資格の枠に規定・限定されるものではありません。そこには、差別や偏見、排除や分断を生み出すものへの対峙と活動（ソーシャルアクション）も含まれます。本クラスでは、牧会・宣教も含めた社会の多面的な領域でソーシャルワークの視座を身につけることができるように、自己理解や面接技術、事例検討などの演習も取り入れた実践的技術も学びます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 グループワークの原理と方法（学期をとおしての実践課題含む）
第2週 現代社会とソーシャルワーク
第3週 ソーシャルワークのグローバル定義と倫理綱領
第4週 ソーシャルワークの歴史とキリスト福祉実践
第5週 ソーシャルワークの方法（１）展開過程
第6週 ソーシャルワークの方法（２）基礎理論と技法
第7週 相談援助とケーススタディ
第8週 コミュニティソーシャルワークの視点と方法
第9週 面接技術の基本と技法
第10週 プレゼンテーションと討議　まとめ

＜到達目標＞

1.ソーシャルワークの視座と原理(価値・原則、歴史、機能)を理解し、相談援助や地域包括ケアシステム形成に参与できる幅広い実践の視座を培う。
2.ソーシャルワークのミクロ・メゾ(グループ)・マクロ（コミュニティ）毎の方法論を理解し、説明できる。
３.ソーシャルワークの源流となる聖書の視点を学び、今日のキリスト教福祉実践を探求できる視点をもてる。
4. 幅広い領域に応用できるグループワークの原理と方法を初回に学び、学期中にそれを意識したグループ活動に励み、まとめることで実践的解決力を身につける。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, フィールドワーク, TCUオンライン, Teams,
ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

＊小口将典・木村淳也『ソーシャルワーク論』中央法規、2021年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
リフレクション 20 %
発表 20 %
期末レポート 30 %
授業参加態度には出席率が含まれています。最終回に授業のまとめと理解度を確認するために、プレゼンテーション（レポート課題をふまえての、テキストのトピック要約発表やグループワーク実践のまとめ）を行い、ディスカッションします。

＜準備学習等に必要な時間＞

このクラスは140分ですので、授業外の学習時間は280分になります。授業外の学習として、指定テキストの入手と読破を履修の必須要件とします。授業外学習には、教会や社会での福祉的実践活動（ボランティアやバイト含む）も入ります。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回Teamsを使用して提出されたリフレクションペーパーにできる限りコメントして双方向参加型で学習の深化をめざします。質問や疑問には必ず応答します。レポートや最終的な得点配置の結果もオンラインを使ってフィードバックを心がけます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
ソーシャルワークは専門的実践の技術である共に日常の生活（キャンパス、寮、教会実習やインターン実習、介護等バイト、ボランティア）においても、学んだことの反復やセンスを磨くことができるものです。実生活で学んだ事をぜひ意識して下さい。
介護サービス事業所のスーパーバイザー並びに地域の職能団体の理事やワーカーズコープとの協働実務経験を活かして講義を提供します。

SCW310J キリスト教福祉 X (児童福祉論)

村田　紋子
井上 貴詞

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室３
春 水曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

本授業では、「子ども」と「おとな」を二項対立的にとらえずに、生涯にわたるウェルビーイングに深く関与するものとしての「児童福祉」について考えます。現代社会における「人権」「正義」「平等」「多様性の尊重」とは何かを確認しつつ、「社会福祉の原理・手法」の基本を理解し、その上で「児童福祉固有の原理・手法」を学びます。また児童福祉の歴史を概観し、今日の私達の子ども観を検証し深めます。「子どもの発達」については「愛着理論」等を踏まえて「養育者との関係性」を基盤に理解し、「子どもの虐待」については、定義や現状、対応する法律と社会資源等も学びます。併せて近年注目されている小児期逆境体験とその予後や外国にルーツを持つ子どもと家族の課題等についても取り上げます。最近のトピックスとしては、子どもの貧困、いじめ、自殺、非行、包括的性教育、修復的実践などについて触れる予定です。毎回グループワークを実施し、子どもと向き合うときに大切な「エモーショナルリテラシー」「アサーション」「バウンダリー」「同意」「傾聴」、さらに「感情労働におけるセルフケア」「自己覚知」などのテーマを扱います。

＜授業テーマと内容＞

第1週 児童福祉の基礎：社会福祉の原理と手法・関連する諸思想（ロールズ・ギリガン・ヌスバウム等）
第2週 「子ども」と「家族（家庭）」
第3週 児童福祉の先駆者石井十次の生涯（映画鑑賞予定）
第4週 子どもの権利：歴史的形成過程とその内容
第5週 子どもの発達：愛着を基盤とした人格形成の機序・子どもの障害
第6週 子どもの精神保健と対処スキル（バウンダリー・アサーション）
第7週 ゲストスピーカー（教会による地域の生活困窮者家庭へのアプローチ）
第8週 子どもの虐待・DV・小児期逆境体験（ACEs）と保護的体験（PACEs）
第9週 昨今の子どもをめぐるトピックス（外国人ルーツの子どもたち・ヤングケアラー等）
第10週 全体討議・まとめ・発表

＜到達目標＞

①キリスト者として社会福祉及び児童福祉が現代社会に果たす役割や意義を理解する。
②児童福祉の現状、発達機序の理解、国際的普遍的な子どもの権利概念を理解する。
③今日直面する児童福祉の課題への理解を深め、社会や教会でその知識や対応アプローチを応用できるようになる。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

子どもとあゆむ精神医学　滝川一廣　日本評論社　2024年
トラウマ　杉山登志郎　講談社　2024年
ケーキの切れない非行少年たち　宮口幸治　新潮社　2019年
子どもの人権をまもるために　木村草太　晶文社　2018年
『生きる』教育　西澤哲他　日本標準　2022年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
リフレクション 30 %
発表 10 %
期末レポート 30 %
グループワークの際は、お互いを尊重し合いながら取り組むことを心がけてみましょう。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業の予習・復習に取り組むために用いる毎週の学習時間は、授業時間の2倍を目安としています。事前に必要なデータをアップしますので目を通した上で授業に臨みましょう。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクションペーパーでの疑問点や質問にはフィードバックします。レポートにもコメントします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞

合理的配慮が認められた場合、レポートの提出期限を延長することが可能になります。その他個別相談によって具体的な配慮の内容を検討します。

SGS101J　グローバル・スタディーズ I (異文化理解)

篠原　基章

２単位
教研棟１Ｆ 中教室４
冬 水曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

グローバル化した現代において異文化理解は必須の学びです。また、広い意味において、自分以外の他者は異文化だともいえます。異文化理解は文化を超えたコミュニケーションに必要なだけでなく、自分以外の他者と健全な人間関係を築いていくために必要なスキルでもあるのです。このコースでは異文化理解に関する基本的な知識と姿勢について学んでいきます。また、神学的な視点から異文化理解（他者理解）の意義について考察していきます。

このコースの目的はキリスト教世界観に根差した「カルチュラル・インテリジェンス」（Cultural Intelligence）を身に着け、自分と異なる他者と共に生きるとること基礎を学ぶことにあります。TCUの学生の20%は留学生という環境において、文化の壁を越えた多文化共生の形を模索していきます。授業での学びとキャンパスでの実践的な取り組み（寮生活、委員会活動、教会実習）を通し、それぞれに「カルチュラル・インテリジェンス」を身に着けていくことを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション
第2週 「文化」とは何か？
第3週 異文化コミュニケーションの壁
第4週 文化の型
第5週 カルチャーストレスと異文化理解
第6週 学生発表（インタビューアサイメント）
第7週 コミュニケーションとは何か？
第8週 アサーションの理解と実践
第9週 映画
第10週 〔総括〕異文化理解の達人を目指して 授業内容、順序は変更する場合があります。

＜到達目標＞

①異なる他者・他文化に対するポジティブな姿勢を身につける。
②自己・自文化の文化的なパターンを客観化しつつ、他者・他文化をそれぞれの文化的文脈において捉えることができるようになる。
③神学的理解に基づいたカルチュラルインテリジェンスを身につけ、それらを生かして他者と多文化の人々と健全な人間関係を構築し、また協働できる基礎力を身につける。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

Duane Elmer. Cross-Cultural Connections. Downers Grove, Illinois: Inter Varsity Press, 2002.
塩原良知『共に生きる：多民族・多文化社会における対話』（弘文堂、2017年〔初版2012年〕）
リチャード・E・ニスベット『木を見る西洋人 森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）
エリン・メイヤー『異文化理解力：相手と自分の真意がわかる』（英治出版 、2015年）
G．ホフステード『多文化世界 -- 違いを学び未来への道を探る』（有斐閣、2013年）
古田暁編『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣双書キーワード、2001年）
平木典子『アサーション・トレーニング：さわやかな〈自己表現〉のために』（日本・精神技術研究所、2021年）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 30 %
中間レポート/試験 30 %
期末レポート 30 %

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約２倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

適宜、口頭または文面でフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。

＜その他履修上の注意点＞
合理的配慮が認められた場合、レポートの提出期限を延長することが可能となります。

国際協力NGOである日本国際飢餓対策機構での実務経験を活かして講義を提供しています。

SGS202J　グローバル・スタディーズ II
(グローバル・スタディーズ入門)

森田　哲也

２単位
教研棟２Ｆ 小教室４
春 月曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

核戦争、環境破壊、人権侵害、難民問題、格差、貧困など、人間の尊厳を脅かす諸問題は、国家の境界を越えて広がり、日本に生きる私たち一人ひとりの人生にも深く関わっています。このような時代においては、自国と他国、自分たちと他者を単純な対立関係として捉えるだけではなく、相互依存と関係性の中で世界を理解する視点が求められます。

グローバル・スタディーズは、国家や地域といった枠組みを超え、人類共通の課題を多面的に考察し、異なる文化・社会・政治・経済の相互作用を分析する学問領域です。本授業では、とりわけ国際関係論の視点から、国家、国際機関、非国家主体、経済、文化、規範などが複雑に絡み合う現代世界の構造を検討していきます。国家間の対立や戦争を理解し、それを回避し平和を構築する知恵を探るために発展してきた国際関係論は、今日では国家の安全保障だけでなく、その国家を構成する「人間」の安全、権利、尊厳といったテーマも重要な分析対象としています。

今や「国際」という言葉だけでは捉えきれないほど世界は相互に結びついており、政治・経済・文化・技術など多様な要素が複雑に影響し合っています。このような状況の中で本授業は、国際関係の基本概念と主要論点を学ぶとともに、現代世界の諸問題を「国家の視点」だけでなく「人間の視点」から捉え直し、一人のキリスト者として公共的責任をもって考える視点を養うことを目的とします。

同時に本授業は、単なる知識の習得にとどまらず、AI時代における「人間らしい学び」を重視します。情報検索や要約といった作業はAIによって効率化されつつありますが、他者の語りを注意深く受けとめ、与えられた情報や主張を鵜呑みにせず根拠や前提を吟味し、異なる立場を比較しながら自らの判断を形成していく営みは、人間同士の対話と熟考を通して培われるものです。本授業では、このような思考力をクリティカル・シンキング（critical thinking）と呼びます。ここでいうクリティカル・シンキングとは、単に批判することではなく、情報・主張・前提・価値観を注意深く検討し、複数の視点を踏まえて合理的かつ倫理的に判断しようとする思考態度と能力を指します。

そのため本授業では、講義による概念理解に加え、対話、共同討議、リフレクション、即興的応答などを通じて、自分の考えを言語化し、他者の意見と向き合いながら思考を深めていく学びを重視します。こうした実践を通して、教室という場において共に問い、考え、学び合う経験を積み重ねながら、現代世界の諸問題を理解するための知識と、それに向き合うための思考力と倫理的判断力を養うことを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 4/13 なぜ今、国際関係論を学ぶのか ― グローバル時代の倫理と世界の見方
第2週 4/20 国家はなぜ戦うのか ― 主権国家体制と戦争の論理：　「主権国家体制と平和①」
国家（理論）、戦争（歴史、原因、歴史観）、内戦（事例、要因）
第3週 4/27 「平和」とは何か ― 安全保障のジレンマと見えない暴力：　「主権国家体制と平和②」
構造的暴力、平和、国家安全保障（ジレンマと逆説）
第4週 5/11 国家を超えて平和はつくれるのか ― 国連と国際協力の可能性：　「非国家主体の役割①」
集団安全保障、国際連合、国連平和維持活動
第5週 5/18 国境を越える力 ― 地域統合・テロリズムと揺らぐ国家：　「非国家主体の役割②」
地域統合（欧州、アジア太平洋）、脱国家主体、国際テロリズム
第6週 5/25 グローバル経済は誰のためか ― 貿易・金融・移民の現実：　「政治と経済①」　貿易、金融、国際移民
第7週 6/1 なぜ貧困はなくならないのか ― 開発と援助の理想と限界：「政治と経済②」　貧困、開発と援助
第8週 6/8 科学技術は世界を救うのか、それとも壊すのか ― 軍拡とリスクの時代：　「環境と科学技術」
科学技術、大量破壊兵器拡散、核軍縮・軍備管理
第9週 6/15 価値は普遍か、それとも相対か ― 文化・人権・介入のジレンマ：「規範とアイデンティティ①」
文化と文明、人権、人道的介入、破綻国家の再建
第10週 6/22 平和はどのように築かれるのか ― 紛争後の社会と私たちの責任：　29章民主主義と民主化/「日本からみる世界」/
日本の外交と安全保障 / 私たちと国際関係論

＜到達目標＞

1.国際関係における「人間の視点」を磨く：
一国（国家）の利益や安全保障だけではなく、一人の人間の生命と安全のために必要な「公共的な」考え方・視点を習得する。
2.国際関係における「歴史の視点」を磨く：　現代の世界のシステムに至るまでの植民地支配・独立などの歴史的経緯を学び、世界的な経済格差を生み出した背景・影響力を問う力を養う。
3.国際関係における「平和の視点」を磨く：　国家同士が軍事・経済・政治力で互いに牽制しあい、自らの利益を保持する「パワーポリティクス」の国際関係の中で、戦争とその犠牲を減らし、平和構築の在り方を検証・分析する力を養う。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞
＊小田桐確、長谷川晋、岸野浩一 『ワークブック国際関係論 身近な視点から世界を学ぶ』 ナカニシヤ出版、2018年
栗林輝夫編 『「講座」現代キリスト教倫理〈4〉世界に生きる』 日本基督教団出版局、1999年

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 20 %
リフレクション 40 %
課題 30 %
期末レポート 10 %

＜準備学習等に必要な時間＞
授業の理解を深め、より効果的に参加するために、授業時間（2時間20分）の約1.5倍にあたる週3時間半以上の自主学習時間を確保することを推奨します。特に、授業前の予習として教科書の該当部分を読み、関連課題を事前に提出することで、議論に十分な準備を持って臨むことができます。また、授業後のリフレクションを通じて、自身の学びを振り返り、次回の学習に活かしてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
毎回の授業後のリフレクションペーパーや質問に対して、必要に応じて教員からフィードバックをします。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞
・授業への出席と参加について
本授業は、毎週の事前リーディングを基にしたディスカッションやリフレクションを通して、継続的に学びを積み重ねていく形式です。学期末には比較的簡潔なリフレクション課題がありますが、最終試験や期末レポートのみで成績が決まる授業ではありません。したがって、欠席や遅刻が続くと、授業内容の理解だけでなく評価にも大きく影響しますので注意してください。

・デジタルデバイスの使用について
ノートPCやタブレットは、資料参照やメモのために使用することができます。ただし、授業の一部時間では対話に集中するため、画面を閉じてもらう場合があります。特にグループディスカッションの際には、パソコンやスマートフォンなどのデジタルデバイスを使用しないで授業を進めることがあります。これは、学生同士の対話や自己表現を重視し、深く考える機会を確保するためです。また、授業では手書きでメモやリフレクションを書く時間もあるため、ノートや紙、筆記用具も持参してください。授業中にデジタルデバイスの使用が必要な場合は、教員が指示しますので、その指示に従ってください。

・AIツールの使用について
AIツールの使用を全面的に禁止するわけではありません。本授業では、むしろAIの限界を理解し、批判的に活用する姿勢を学びます。ただし、討論ポイント、授業内リフレクション、最終レポートにおいて、本人の思考過程や授業での学びが確認できない場合は評価を下げることがあります。

・課題提出やテーマ設定についての相談
提出物について不安がある場合や、テーマ設定に迷う場合は、早めに教員に相談してください。

・評価について
成績評価の透明性を確保するため、評価ルーブリックを事前に提示します。

・授業計画の調整について
授業の進行状況や学生の学習状況に応じて、学期中に授業内容や方法を一部調整する場合があります。その際は事前に通知します。

・聴講生について
聴講生であっても、教員の授業方針を尊重し、継続的な出席と責任ある授業参加を求めます。

・オフィスアワー（相談時間）
オフィスアワーやその他の時間に個別相談を受けることができます。昼休み（12:20–12:50）はなるべく研究室（教研棟3階）にいるようにしますので、希望する場合は事前にTeamsのチャットで一言連絡してください。歓迎します。

・欠席について
当日になって病気やその他のやむを得ず急遽欠席する場合には、TCUオンライン上の欠席届を必ず出してください。

・本科目は、グローバル・スタディーズ副専攻の対象科目です。

・国際協力NGOである日本国際飢餓対策機構での実務経験を活かして講義を提供しています。

SGS203J　グローバル・スタディーズ III (日本文化論)

森　恵子
Mcdowell David

3 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
秋 月曜-2限 木曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

日本の芸術と文化を知る入り口となるコースです。博物館の展示物から現代のデジタルアートまで、日本で生まれた芸術作品を見る機会は多くあります。しかし美術史・文化史の知識、そして作品が生まれた時代背景や作品に込められたメッセージを知ると、さらに深く芸術および個別の作品を理解できるようになります。特に映画や動画は多くの情報を含むため、本コースでは関連する課題図書の理解を経てから、日本文化の特徴が作品のどこに表れているかを議論します。また誰もがアーティスト・表現者になれる現代において、アートの鑑賞者であり実践者でもあるとはどういうことか、実例を基に議論を深めます。各自が学んだことを言語化し伝える機会が学びを深めるため、グループプレゼンテーションや期末レポートなどの課題が課されます。このコースは日英両トラックの学生に開講されているため、講義や課題は日英バイリンガル、そして一部のグループワークもバイリンガルで行います。

＜授業テーマと内容＞

第1週 授業概要と主なトピックの説明、選択必修課題図書２冊の紹介、「道」の精神、日英ミックスグループタスク１（書道）
第2週 茶道に見る「道」の精神とキリスト教、日英ミックスグループタスク２（茶道）、プレゼンテーショングループ構成
第3週 日本芸術の海外への影響（ゲストレクチャー）、言語別ディスカッション（日本のアートと文化の特徴）、漫画の原点
第4週　 芸術としてのアニメーション、映画鑑賞（ジブリフィルム）、映画内容に関する講義と日英言語別ディスカッション、教科書内容との関連づけ
第5週 映画の紹介と鑑賞（ジブリフィルム）、映画内容に関する講義と言語別ディスカッション、教科書内容との関連づけ
第6週 東京国立博物館所蔵作品（茶道・書道・漫画に関する展示の見どころを含む）、プレゼンテーション準備
第7週 映画鑑賞（ジブリフィルム）、映画内容に関する講義と言語別ディスカッション、教科書内容との関連づけ
第8週 信仰表現としての芸術（ゲストレクチャー）、プレゼンテーション準備
第9週 グループ発表と評価、言語別ディスカッション（信仰表現としてのアート）
第10週 ショート動画に見る日本文化、日英ミックスグループタスク３（日本のアート作品を二言語で紹介）

＜到達目標＞

日本の芸術作品を鑑賞し個人の自由な感想を述べるにとどまらず、その背景を含むより大きな視点から理解し批評します。また表現者の視点に立って芸術表現を鑑賞し議論することを学びます。日英両トラックの学生が履修するメリットを生かして、二言語の話者が協力するタスクでは、互いに学び合う積極性を身につけます。またオンラインリフレクション課題では、第二言語で書かれた投稿にレスポンスを送ることで、異言語・文化の学生間で時間差のあるディスカッションを成立させます。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

* 『ミヤザキワールドー宮崎駿の闇と光』スーザン・ネイピア著・仲達志訳（早川書房）
* 『「甘え」の構造　増補普及版』土居健郎著（弘文堂）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 30 %
課題 20 %
発表 20 %
期末レポート 30 %
成績評価基準の詳細は 1 回目の授業で説明します。

＜準備学習等に必要な時間＞

課題図書の主要なトピックと授業で扱う内容の関連性を理解するには、予習（主にリーディング課題）および復習（主にライティング課題）に十分な時間（およそ授業時間の倍）を取って学ぶ必要があります。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

TCU Online上のオンライン課題は、その課題内でフィードバックを行います。プレゼンテーションはルーブリック評価を出し本人に結果を伝えます。質問および連絡は、TCU Onlineコース、Teams、メールで受け付けます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

教科書２冊両方の購入は必須ではありません。どちらか１冊の購入は必須です。授業中の講義とディスカッションで言及され、プレゼンテーションと期末レポート作成に必要なので、購入した教科書を計画的に読み理解することが求められます。

合理的配慮の例としては課題の代替、締め切りの延長があります。オンライン授業参加はこの科目の到達目標に照らして適合しないため、基本的に対応しません。

SGS306J　グローバル・スタディーズ VI (キリスト教と文化)

森田　哲也

２単位
教研棟２Ｆ 小教室１
冬 金曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

本授業は、現代社会および教会に広く浸透している文化的価値や思考様式を横断的に取り上げ、キリスト教信仰がそれらとどのように関わり、影響を受け、また問い返されているのかを神学的に考察することを目的とします。消費主義、成果主義、テクノロジーの進展、個人主義、同調圧力、排除や差別の構造、宗教と公共性といったテーマを入り口としつつ、それらを個別の問題としてではなく、相互に連関する文化的力として理解していきます。

本授業の特徴は、文化を「教会の外にあるもの」や「単に批判すべき対象」として扱うのではなく、教会や信仰実践そのものもまた、同じ文化的環境の中で形成されているという前提に立つ点にあります。信仰が個人化・心理化されやすい現代において、成功や成長が祝福の指標として理解される傾向、感情的経験が信仰の中心に置かれる構造、政治的・社会的立場と信仰が短絡的に結びつく現象などを、神学的に吟味していきます。

また本授業では、創造、堕落、贖い、新しい創造という聖書の大きな物語の中で、人間が文化をつくり、支え、歪ませ、そして回復へと参与する存在であることを学びます。文化は単なる背景ではなく、人間の行為、制度、習慣、時間感覚、価値判断を通して具体的に形づくられており、信仰はそうした文化形成の只中で生きられるものです。この理解を通して、信仰と日常生活、教会と社会、ローカルな文脈とグローバルな潮流との分断そのものを問い直します。

授業では、講義による理論的理解に加え、学生自身の日常生活に根差した観察と省察を重ねる実践的学び（フィールドワーク）を重視します。大学生活、教会、家庭、アルバイト、メディア環境などに見られる文化的前提や価値観を言語化し、それらが信仰理解や行動選択にどのような影響を与えているのかを丁寧に考察していきます。重要なのは、文化を外側から評価する立場に立つことではなく、自らもまた文化を形づくり、支えている主体であることを自覚しながら省察する姿勢を養うことです。

さらに、本授業では日本社会というローカルな文脈に加え、アメリカやグローバルなキリスト教の文脈にも目を向けます。異なる社会条件のもとで信仰がどのように文化と関わってきたのかを比較的に学ぶことで、単一の正解やモデルに回収されない、文脈に根差した信仰理解を深めます。

最終的には、学生一人ひとりが、自分の置かれた具体的な生活世界の中で、どの価値観を引き受け、どの前提を問い直し、どのようなかたちで文化に関わっていくのかを、神学的に構想できるようになることを本授業の到達点とします。それは大きな社会変革を目指すものではなく、小さく具体的で、責任ある応答として文化形成に参与する姿勢を身につけることを目指すものです。

＜授業テーマと内容＞

第1週 文化とは何か一信仰と切り離せない日常世界を神学的に捉え直す
第2週 創造と文化形成一人が「つくる存在」として召されている意味を考える
第3週 堕落と文化の歪み一なぜ文化は人を生かしも縛りもするのか
第4週 歴史に学ぶ信仰と文化一初代教会の実践に見る生き方の知恵
第5週 キリスト教と文化の諸モデル一対立と同調を超える思考枠組み
第6週 批評から形成へ一文化を「論じる」から「担う」視点へ
第7週 仕事・経済・制度を文化として読む一成果と価値の再検討
第8週 ローカルとグローバルの交差点一文化と信仰の多様性を学ぶ
第9週 分断と公共性の時代に一排除・差別・同調圧力をどう読むか
第10週 自分の文脈への応答一小さく具体的な文化形成を構想する

＜到達目標＞

本授業を通して、学生は以下のことができるようになることを目標とします。

現代社会および教会に浸透する主要な文化的価値や構造を、神学的視点から説明できる。
自分自身の生活や所属する共同体に内在する文化的前提を言語化し、信仰との関係を省察できる。
ローカルおよびグローバルな文脈を踏まえ、信仰と文化の関係を多面的に理解できる。
自らの置かれた具体的文脈において、責任ある文化形成への応答を神学的に構想し、表現できる。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, フィールドワーク,
TCUオンライン, Teams, ルーブリック評価

＜(*)教科書・参考書＞

Crouch, A. (2023). Culture Making: Recovering Our Creative Calling. Intervarsity Press.
Hunter, J. D. (2010). To Change the World: The Irony, Tragedy, and Possibility of Christianity in the Late Modern World. Oxford Univ Press.
Carson, D. A. (2012). Christ and Culture Revisited (Reprint). Eerdmans.
ティモシー・ケラー『センターチャーチ』（いのちのことば社、2022年）

＜成績評価の方法と基準＞
授業参加度 20 %
リフレクション 40 %
課題 30 %
期末レポート 10 %

＜準備学習等に必要な時間＞
授業の予習のために、授業時間（2時間20分）の約1.5倍（週に3時間半）か、それ以上の時間を確保できるよう心がけてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞
適宜、口頭または文面でフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞
課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞
・授業への出席と参加について
本授業は、毎週の事前リーディングを基にしたディスカッションやリフレクションを通して、継続的に学びを積み重ねていく形式です。学期末には比較的簡潔なリフレクション課題がありますが、最終試験や期末レポートのみで成績が決まる授業ではありません。したがって、欠席や遅刻が続くと、授業内容の理解だけでなく評価にも大きく影響しますので注意してください。

・デジタルデバイスの使用について（対面授業の履修生のみ適用）
ノートPCやタブレットは、資料参照やメモのために使用することができます。ただし、授業の一部時間では対話に集中するため、画面を閉じてもらう場合があります。特にグループディスカッションの際には、パソコンやスマートフォンなどのデジタルデバイスを使用しないで授業を進めることがあります。これは、学生同士の対話や自己表現を重視し、深く考える機会を確保するためです。また、授業では手書きでメモやリフレクションを書く時間もあるため、ノートや紙、筆記用具も持参してください。授業中にデジタルデバイスの使用が必要な場合は、教員が指示しますので、その指示に従ってください。

・AIツールの使用について
AIツールの使用を全面的に禁止するわけではありません。本授業では、むしろAIの限界を理解し、批判的に活用する姿勢を学びます。ただし、討論ポイント、授業内リフレクション、最終レポートにおいて、本人の思考過程や授業での学びが確認できない場合は評価を下げることがあります。

・課題提出やテーマ設定についての相談
提出物について不安がある場合や、テーマ設定に迷う場合は、早めに教員に相談してください。

・評価について
成績評価の透明性を確保するため、評価ルーブリックを事前に提示します。

・授業計画の調整について
授業の進行状況や学生の学習状況に応じて、学期中に授業内容や方法を一部調整する場合があります。その際は事前に通知します。

・聴講生について
聴講生であっても、教員の授業方針を尊重し、継続的な出席と責任ある授業参加を求めます。

・オフィスアワー（相談時間）
オフィスアワーやその他の時間に個別相談を受けることができます。昼休み（12:20–12:50）はなるべく研究室（教研棟3階）にいるようにしますので、希望する場合は事前にTeamsのチャットで一言連絡してください。歓迎します。

・欠席について
当日になって病気やその他のやむを得ず急遽欠席する場合には、TCUオンライン上の欠席届を必ず出してください。

・本科目は、グローバル・スタディーズ副専攻（総合神学科カリキュラム）の対象科目です。

・国際協力NGOである日本国際飢餓対策機構での実務経験を活かして講義を提供しています。

SGS311J　グローバル・スタディーズ XI (韓国文化論)

徐　有珍

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室５
春 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

「文化（culture）」という言葉は、耕作や栽培を意味するラテン語 cultus に由来します。語源が示すように、文化とは自然の状態に人間の働きが加えられ、変化したり新しく生み出されたりするものを意味します。すなわち、歴史の中で形成されてきた政治や経済、法律と制度、文学や芸術、道徳や風習、宗教など、人間活動のすべての産物が「文化」に含まれ、それらはそれぞれの社会や集団の中で共有されます。したがって「韓国文化」とは、朝鮮半島を中心に韓民族が歴史の中で形成してきた生活様式や価値観、社会制度などを含む文化全般を意味します。また、こうした文化は歴史的・社会的背景の中で変化し続けており、現代の社会や人々の意識にも大きな影響を与えています。
本科目では、韓国の歴史、政治、北朝鮮との関係、宗教、大衆文化などを取り上げ、韓国社会への理解を深めます。また、各テーマに関連する韓国映画を鑑賞し、韓国戦争、民主化運動、宗教、歴史認識などの重要なテーマについて考察します。
本科目は、韓国でのグローバル・スタディーズ実習や日韓文化交流に主体的に参加するための基礎的理解を養い、国際的視野を持つ人材の育成を目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 韓国の歴史
第2週 韓国と北朝鮮
第3週 韓国映画「ブラザーフッド」鑑賞
第4週 韓国の政治
第5週 韓国映画「1987:ある闘いの真実」鑑賞
第6週 韓国の宗教
第7週 韓国映画「シークレット・サンシャイン」鑑賞
第8週 韓国の大衆文化
第9週 韓国映画「王になった男」鑑賞
第10週 最終課題発表

＜到達目標＞

① 日本文化との比較を通して韓国文化への理解を深め、より客観的な視点から自らの文化について考察できるようになること。
② グローバル・スタディーズ実習や海外研修において生じうる文化摩擦や異文化ショックについて理解し、異文化を受容し評価する際にバランスの取れた視点を持つことができるようになること。
③ 急速に変化する世界の中で、信仰者として異文化をどのように理解し向き合うべきかについて神学的視点から考察できるようになること。

＜DPとの関連＞

DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし、加藤圭木(監修)、大月書店、2021
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編＜上、下＞』歴史教育者協議会(日)・全国歴史教師の会(韓)、青木書店、2006
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 近現代編』歴史教育者協議会(日)・全国歴史教師の会(韓)、青木書店、2015
『日韓の言語文化の理解』ホンミンピョ、風間書房、2007
『韓国映画から見る、激動の韓国近現代史　歴史のダイナミズム、その光と影』崔盛旭、書肆侃侃房、2024

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション 20 %
課題 20 %
発表 30 %
期末レポート 30 %
・リフレクション：各授業に関するリアクションペーパーを提出します。（400字程度、5回x4点）
・課題：授業で鑑賞した映画に対する感想文を提出します。（4回x5点）
・発表：韓国に関する自由テーマを決めて、10回目の授業で発表を行います。
・期末レポート：教科書『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』を読んでブックレポートを提出します。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業内の発表やディスカッションを通して、学生同士の意見交換を行いながら相互にフィードバックを得ます。また、質問や相談はTeamsやメール等を通して行うことも可能です。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してくだ

＜その他履修上の注意点＞
・本科目は、グローバル・スタディーズ実習（韓国）に参加するための必須科目です。
・本科目ではオンライン授業は実施しません。原則として対面で授業に参加してください。
・授業内容の録音・録画および無断での共有はできませんのでご注意ください。
・課題作成や発表準備において、生成AIの過度な使用は控え、学生自身の主体的な学習に基づいて取り組んでください。AIによって生成された内容を十分に確認せず、そのまま提出した場合は学習成果として認められないことがあります。

SPT210J　実践神学 I (宣教学)

篠原　基章

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
春 金曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

宣教学（Missiology）は、教会の宣教的な使命について考える神学領域です。宣教と教会は一体をなしており、宣教を問うことは、教会の使命そのものを問うことでもあります。この授業では、特に近代における宣教的な文脈の変遷に軸を置きつつ、現代におけるキリスト教宣教の意義と使命についての理解を深めていきます。基本となる宣教理論を学びつつ、実際の宣教のあり方について共に考えていきます。
宣教学は「聖書」と「世界」の狭間にある学問領域です。それゆえ、神学的な学びと共に、現代の教会が遣わされている社会や文化について学んでいく必要があります。この授業では、日本文化における宣教的課題（日本人の宗教性、教会の戦争責任、国家とキリスト教の問題など）についても掘り下げていきます。
今年度は渡部聡著『宗教と社会』（いのちのことば社、2022年）を教科書します。牧師であり宗教と社会学者である渡部聡氏の書物を通し、現代社会と現代日本におけるキリスト教の役割について学んでいきたいと思います。

＜授業テーマと内容＞

第1週 宣教学とは何かー日本のコンテキストにおいて考える宣教ー
第2週 宣教とは何かー20世紀における宣教思想史ー＋第1章「価値自由の不自由」（渡部聡『宗教と社会』）
第3週 教会とは何かー宣教の民としての教会ー（パート①）＋第2章「鉄の檻とマクドナリゼーション」（渡部聡『宗教と社会』）
第4週 信徒とは何かー信徒の神学ー＋第3章「世界の宗教ー規範預言と使命預言」（渡部聡『宗教と社会』）
第5週 働くことの意味ー仕事の神学ー＋第4章「古代ユダヤの社会倫理」（渡部聡『宗教と社会』）
第6週 福音宣教の使命と文化的使命＋第5章「キリスト教の教義」（渡部聡『宗教と社会』）
第7週 教会と社会（パート①）ードイツの教会闘争の歴史に学ぶー＋第6章「社会派と福音派」（渡部聡『宗教と社会』）
第8週
教会と社会（パート②）ー内村鑑三の非戦論に学ぶー＋第7章「管理社会・ナショナリズム・戦争」（渡部聡『宗教と社会』）
第9週 日本文化とキリスト教（パート①）ー日本における先祖供養とキリスト教信仰ー
第10週 日本文化とキリスト教（パート②）ー日本における先祖供養とキリスト教信仰ー

＜到達目標＞

・教会の宣教的使命について、整理して論じられるようになる。
・現代社会のコンテキスト（文脈）を理解した上で、教会の使命について論じられるようになる。
・日本文化におけるキリスト教宣教の課題について説明することができる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

＊渡部聡『宗教と社会』（いのちのことば社、2022年）
ジョン・ストット、クリストファー・J・H・ライト共著『今日におけるキリスト者の宣教』（いのちのことば社、2016年）
デイヴィッド・ボッシュ『宣教のパラダイム転換
下巻ー啓蒙主義から21世紀に向けて』（東京ミッション研究所選書シリーズ４、東京ミッション研究所訳、新教出版社、2002年）
丸山忠孝『日本人キリスト者からキリスト者日本人へ』（いのちのことば社、1997年）
ティモシー・ケラー『センターチャーチ』（いのちのことば社、2022年）
ローザンヌ運動『ケープタウン決意表明』（いのちのことば社、2012年）
※オンラインでも閲覧可能。リンク：ケープタウン決意表明
ヘンドリック・クレーマー『信徒の神学』（現代神学双書2）小林信雄訳（信教出版社、1987年〔初版：1960年〕）
O. ブルーダー『嵐の中の教会』（新教出版社、1989年）
シェンキェーヴィチ『クオ・ワディス』〈上・中・下〉（岩波文庫、1995年）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 30 %
中間レポート/試験 30 %
期末レポート 30 %

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約2倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約280分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

適宜、口頭又は文面でのフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。

＜その他履修上の注意点＞

合理的配慮が認められた場合、レポートの提出期限を延長することが可能となります。

SPT220J　実践神学 II (メッセージの方法と実践)

菊池　実

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
秋 金曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

本講は2019年度の科目再編に伴い説教学演習Ｉを統合して提供される科目となりました。説教演習とともに、それに留まらない様々な場面におけるスピーチ、アドレス（聴く者への言葉の発信）の力を磨くことを主眼としています。　キリスト者が明確に持つ動機・コンテンツ・対象を意識した伝達力の向上を目指すクラスであり、建学の精神「実践的神学教育」の大事な部分を担います。

演習者は事前に指定された場面に応じて備え、プレゼンテーション（説教/スピーチ）を行い、全員で評価を行います。講解/主題説教、証し、結婚式祝辞・披露宴司会、葬儀司式やお悔やみの言葉、礼拝司会等、基本と効果的な方法と実践を学びます。キリスト者としての所作・伝え方、一般常識にかなった言葉遣い、互いの良き点と改善点をディスカッションします。聞き上手になり、対象の心を感じる事、伝える喜びを持つこと、主への応答を引き出す話法の研鑽を積みましょう。
担当教員の教会と関連の各種集会、幼稚園、小中高校、大学、国会職員、ホームレス、婦人大会、修養会、キャンプ、冠婚葬祭等、＋ZOOMで語る機会を持ってきた小さな経験から、皆さんと分かち合えれば幸いです。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロ。私たちは何を伝えるか。
第2週 「証しを依頼される時に」
第3週 「子供たちの心に届けるメッセージ」
第4週 「中高生の必要と心に触れる」「主題を明確に語る説教」「み言葉を届ける講解説教」
第5週 「ユースの心に触れる」「主題を明確に語る説教」「み言葉を届ける講解説教」
第6週 「ユースの心に触れる」「主題を明確に語る説教」「み言葉を届ける講解説教」
第7週 「結婚式祝辞」、「披露宴司会とその心得」
第8週 「礼拝司会・奨励」、「自由設定」、「会社の朝礼」
第9週 「葬儀の司式」、「お悔やみの言葉（友人代表）」
第10週 「ＴＣＵの学びと生活」

＜到達目標＞

・様々な状況を想定したスピーチに慣れ、効果的な伝え方を習得する。
・状況にふさわしい言葉、日本の社会で大切な事、キリスト者としての表現の習得。
・説教/奨励の奉仕に向けての基礎作り。
・自分の持ち味の発見と、それを生かしたスピーチを深める。
・良き聞き手になる。
・アイディア、方法を共有する。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
発表 60 %
期末レポート 20 %
期末レポート
・エッセイ（10%）
・クラスノート（10%）

＜準備学習等に必要な時間＞

本講においては通常の「準備学習」はほぼありません。ただ、自身の発表（プレゼン）のためには相当の準備が必要です。それぞれのスピーチに相応しい所作、内容、礼儀、言葉遣いなど、ネット上にも公開されていると思います。ただ、キリスト者としての内容や方法はそれに加えるべきこと、控えることも多々あります。事前に教員にTEAMSなどで声をかけてください。ヒント、実際の原稿、アドバイスなど（惜しみなく）提供しますので活用してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

発表（演習）にはクラスにおいて評価をします。また各レポートについては、基本評価を記して返却します。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
発表者以外は「聴衆」となります。しかし、全員でクラスを作り上げることが大事です。全員が最善の聴き手として積極的にクラスに参加することが求められます。

牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

SPT330J　実践神学 III (説教学)

齋藤　五十三

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
秋 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

本講義は、説教とは何かを学ぶことを最重要の内容としています。
第一週から第三週は、自分の説教体験を分かち合いつつ「説教することの意味」を聖書的に掘り下げて理解し、説教の歴史と理論を学びます。
第四週から第六週には、聖書を読んで解釈することの意味を学び、説教者として聖書を読むこと、聴衆の文脈を読むことを知り、その上で説教の類型と構造を深めていきます。そしていよいよ自分で説教を準備するための内容に入っていきます。
第七週から第八週は、説教を準備するための具体的な手順を学びます。聖書の釈義や解釈を経て、どのように説教が構成されるかを学びますが、単に技術的なことに留まらず、説教者として必要な霊性、姿勢、生き方をも深めつつ、神の言葉を語るための準備をしていきます。第九週、十週は、抽選により演習者を数名立てて、説教を聴き、批評することを体験していきます。
本講義は、将来、説教者として立つ人々を直接の対象としていますが、たとえそうでなくとも、神の言葉を聴き続ける礼拝者としての歩みにおいて有益かつ必要な内容を深めていきます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 説教学への導入
第2週 新約聖書における説教
第3週 教会史における説教
第4週 聖書解釈と説教
第5週 説教における三要素
第6週 説教の種類と構造
第7週 説教準備の流れ
第8週 説教の構成、準備
第9週 説教演習・批評・分かち合い (1)
第10週 説教演習・批評・分かち合い (2)

＜到達目標＞

到達目標は以下の三点です。
①「説教」とは何か、その目指すところを理解すること。
② 説教者となるために必要な「理論」を習得すること。
③ 説教を準備するための実際的な手順を学び、説教を準備できるようになること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

* 『キリスト教説教入門～その本質と実際』、藤原導夫、いのちのことば社
『説教の聴き方 一語られ、聴かれ、生きられるみことばー』、朝岡勝、教文館
『説教批判 説教分析』、加藤常昭、 教文館
『説教学入門』、C.H.スポルジョン、いのちのことば社、2010年
『キリスト中心の講解説教』、トム・ウィルキンソン、 一麦出版社
『心に触れる説教とは』、羽鳥明、いのちのことば社

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
課題 30 %
発表 30 %
期末レポート 20 %
毎回の授業前に読書課題へのリアクションを求めます。
授業後にはリフレクションの提出を求めます。
最終週には説教原稿の提出と演習を行います。
学期末には期末レポートの提出を求めます。

＜準備学習等に必要な時間＞

前回授業の予習（教科書精読）復習、事前課題（リフレクション）のため、毎週280分を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回のリフレクション、説教原稿、期末レポートにフィードバックがあります。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞
教科書の『キリスト教説教入門～その本質と実際』は早めにご購入ください。教員の手元に旧価格のテキスト残部があります。旧価格をご希望の方は齋藤までご連絡ください。先着順で５名までです。
クラスでは毎週アウトラインを配付します。ディスカッションを多く取り入れて、双方向で対話しながら授業を進めます。将来説教者を目指す方はもちろんですが、礼拝者として説教を聴く上でも有益な学びとなるはずです。

牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

SPT440J　実践神学 IV (説教演習)

青木　義紀

２単位
教研棟１Ｆ 中教室６
冬 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

説教においては、神のことばを正しく受け止めると同時に、それを聴衆にふさわしく提示する必要があります。この授業は、そのための基本的な訓練を内容とします。具体的には、一回目の導入の後は、毎回数名の学生が説教をし、それに対して学生と教員が批評をします。授業を通じて、一人２回ほど説教をしていただきます。説教には、場と対象などによりさまざまな形態がありますが、このコースでは１５～２０分程度の講解説教を基本とします。ただし、想定される聴衆については、個々の学生に委ねます。テキストは、前の週から全員が読み、毎日黙想して授業に臨むこととします。新約聖書の書簡をテキストとします。

授業のねらいは、主に以下の２点です。

（１）みことばへの取り組みと釈義が適切であり、構成がきちんとなされているかどうか。聴衆に対する効果はどうか。ことばの選択は適切か。聞きやすく、初めて教会に来た人にも理解しやすいか。これらの観点から説教を評価します。

（２）以上の点において、自分の弱さ・強さを認識し、弱さを強さに変える方策を見いだすことを期待しています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション
第2週 新約書簡からの説教演習
第3週 新約書簡からの説教演習
第4週 新約書簡からの説教演習
第5週 新約書簡からの説教演習
第6週 新約書簡からの説教演習
第7週 新約書簡からの説教演習
第8週 新約書簡からの説教演習
第9週 新約書簡からの説教演習
第10週 新約書簡からの説教演習 ・初回は、説教についてのオリエンテーション
・二回目以降は、毎回２－３人が１５分～２０程度の説教を行い、互いに批評します。
・各人２回説教をしてもらいます。１回目は指定されたテキストからの説教。２回目は新約書簡の中から各自が聖書箇所も選択して説教します。

＜到達目標＞

この授業の到達目標は、説教をするために毎日みことばを黙想する習慣をつけ、説教批評をすることに取り組むことです。そして、聖書テキストからメッセージを的確に聴き取り、一つの説教として語る基本的な力をつけることです。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

Ｃ．Ｈ．スポルジョン『説教学入門』ヨルダン社、1975年
R.ボーレン『説教学Ⅰ・Ⅱ』日本基督教団出版局、1977-78年
R.リシャー『説教の神学』教文館、2004年
R.リシャー編『古代から現代まで説教をめぐる知恵の言葉 上・下』キリスト新聞社、2010年
加藤常昭『説教への道：牧師と信徒のための説教学』日本キリスト教団出版局、2016年
W. H. ウィリモン・R. リシャー編『世界説教・説教学事典』日本基督教団出版局、1999年
H. J. クラウス『力ある説教とは何か』日本基督教団出版局、1982年
加藤常昭『説教塾ブックレット１説教者を問う』キリスト新聞社、2004年
マーティン・ロイドジョンズ『説教と説教者』いのちのことば社、1992年
平野克己監修『聖書を伝える極意：説教はこうして語られる』キリスト新聞社、2016年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 20 %
発表 50 %
その他 20 %
出席と授業への積極的な参加（10%）、２回の説教（50%）と他の学生への批評（20%）、そして演習をふり返ってのリフレクション（20%）。

＜準備学習等に必要な時間＞

受講者全員が次週のテキストを毎日黙想して演習に臨み、説教批評に取り組みます。毎日みことばを黙想する説教者の生活習慣を身につけましょう。

説教の担当者は毎日準備の時間を設け、当日の説教に臨みます。これも毎日みことばを中心に生活し、みことばを思い巡らしながら生きる説教者の生活習慣を身につけたいためです。演習の準備としては説教の完全原稿を用意し、演習にあたっては聴衆に語りかけること、この二点に取り組みます。また、説教演習とともに説教批評の力を養うことに取り組みます。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクションペーパーにコメントして返却

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞

演習後に、受けた批評を思い起こしながら、改めて自分の説教原稿を読み返し、毎回短い自己批評（Ａ４用紙一枚）を翌週までに提出してもらいます。それに教員からコメントを入れて返し、一回の演習が終わります。
合理的配慮が必要な学生は、必要に応じて対応しますので個別に相談してください。

本科目は担当教員の牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

SPT450J　実践神学 V (礼拝学)

大和　昌平
宇内 千晴

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
秋 火曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

「礼拝学」においても今年度からChatGPTを活用しての授業を行います。キリスト教礼拝とは何なのか、その原型から現代までの展開について学んでいきますが、授業後のリフレクションにおいて各自がChatGPTと対話しながら考えたことを書きこみ、次の授業でディスカッションをして理解や思考を深めます。礼拝の歴史は旧約・新約聖書にさかのぼり、古代キリスト教から中世を経て、宗教改革時代での礼拝の変遷を辿り、現代の礼拝がどのように形成されてきたのかを学びます。正教会やローマ・カトリック教会の礼拝との違い、宗教改革における礼拝および典礼改革とは何であったかに注目します。その上で、礼拝の要素や順序の持つ意味について、またプロテスタントの聖礼典としての洗礼と聖餐については重点をおいて学びます。福音主義教会においては留意されることが少ない教会暦についても、その本来的な意味を考えます。礼拝音楽についてはパイプオルガン奏者の宇内千晴先生の講義があります。特別講義として礼拝における日本語の発音・発声の基礎訓練を、フジテレビの新人アナウンサーを訓練されている鈴木和子先生にお願いしています。

＜授業テーマと内容＞

第1週 礼拝とは・聖書時代の礼拝（大和）
第2週 礼拝の歴史的展開（大和）
第3週 礼拝の要素と順序（大和）
第4週 聖礼典・洗礼（大和）
第5週 聖礼典・聖餐（大和）
第6週 安息日と教会暦（大和）
第7週 宗教改革における礼拝（大和）
第8週 近現代における礼拝の様相（大和）
第9週 礼拝における賛美（宇内）
第10週 礼拝音楽をめぐる諸問題（宇内）

＜到達目標＞

このクラスの到達目標は、キリスト教の礼拝の歴史をふりかえりながら、礼拝の本質は何なのかを考え、これからのあるべき礼拝のありようを構想することです。それを単にキリスト教礼拝についての専門知識を得ることだけでなく、ChatGPTも活用しながら、みずから考えることに重点を置きます。それによって、本学のディプロマポリシーに示された「神学的視点、または専門分野の視点から、諸課題を批判的・建設的に分析･統合し、他者に説得力をもって提示することができる」ことを到達目標とします。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊由木康『礼拝学概論』（新教出版社）
今橋朗『礼拝を豊かにー対話と参与ー』（日本キリスト教団出版局
W.ナーゲル『キリスト教礼拝史』（教文館）
宮越俊光『シンボルで味わう典礼・礼拝』
J.F.ホワイト『キリスト教の礼拝」』（日本キリスト教団出版局）

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 20 %
リフレクション 40 %
期末レポート 40 %
成績は授業参加が二割、リフレクションと期末試験がそれぞれに四割です。毎回の授業後に課題を出しますので、各自ChatGPTと対話しながら答えを考えて次の授業までに書き込んでください。期限内に書けば4点、期限を過ぎて書けば2点、書かなければ0点です。ここで差が出ます。期末試験はアナログに戻って短い文章題の試験を行います。留学生はネット使用禁止でパソコンでの解答を許可します。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業後に出された問いに答えるためにChatGPTを個人の家庭教師として使いながら、示された本を図書館で読んだり、自分で考える学びの時間を授業時間の倍かけてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回のリフレクションと試験の答案にはフィードバックは必ず行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

＜その他履修上の注意点＞
無断欠席３回で失格します。
このクラスは牧師として、奏楽者として長年教会に仕えてきた教員の実践と経験を踏まえて授業をします。また、ゲスト講師としてフジテレビ・アナウンサーのトレーナーを招き、礼拝における日本語の発音・発声のエクササイズも特別に行います。

牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

SPT460J　実践神学 VI (牧会学)

松本　雅弘

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室６
春 木曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

牧会学では、牧会という視点から福音書に記されている主イエスの人との関わりに焦点を当てて学びます。牧会者の原点は、自らがどのように牧会されてきたかにあり、これまで主イエスからどのように愛され、赦され、導かれてきたかに行きつくことだと考えます。したがって授業では、人間として生きるうえで経験する様々な出来事と向き合いつつ歩まれた主イエス（ヘブル4・15）の在り方、また罪を犯した人、障がいを負った人、当時のユダヤ社会から疎外されていた人など、そうした私たちとの関わり方、さらに主イエスの十字架と復活の出来事による恵みが、私たち信仰者にもたらす圧倒的な力を味わうことで、主ご自身が、私たち一人ひとりをそのように愛し、牧会してくださるお方であるかを深く味わいたいと願っています。授業では、毎回の「ふり返り」に加え、その日の授業で取り扱う福音書の箇所を黙想する修練（エクササイズ）と取りくみながら、履修後も日常生活で、具体的にどのように主イエスに関わっていただくのか、そのお方から牧会を受け続けるためにどうしたらよいのかなど、「恵みの具体的な受け取り方」も経験しながら牧会者としての土台作りを目指していきます

＜授業テーマと内容＞

第1週 牧会とは何か―主イエスから牧会され、主イエスの牧会に倣う
第2週 主イエスの優しさ―誕生と成長
第3週 アイデンティティの危機と確立
第4週 誘惑―神の愛による勝利
第5週 多忙さのなかで使命に生きるイエス―「固有の召命」
第6週 赦されることから来る力
第7週 わたしの弱さは何のため
第8週 喜んで負けるイエス
第9週 「渇き」と十字架
第10週 復活の希望に支えられて―これからの牧会と宣教

＜到達目標＞

将来、牧会の現場に出る学生たちが、日々の生活において、具体的に、どのように主イエスの牧会を受けながら奉仕者としての生活を送っていくのか、みことばの黙想と「ふり返り」を通して、牧会者の生活の土台を築くことを目標とします。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業, 講義

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊「『日常』という典礼」、T.H.ウォレン、いのちのことば社、2026年
＊「自分自身と群れ全体とに気を配りながら」、松本雅弘、新教出版社、2025年
「主イエスを見つめながら」、カンバーランド長老キリスト教会高座教会編、新教出版社、2020年
「牧師―その神学と実践」、ウィリアム・ウィリモン、新教出版社、2008
「牧会者の神学」、ユージン・ピーターソン、日本基督教団出版局,2016
「エクササイズ―生活の中で神を知る」、J．B．スミス、いのちのことば社、2016
「エクササイズⅡ―神の国の生き方を身につける」、J．B．スミス、いのちのことば社、2017
「エクササイズⅢ―ともに神の愛に生きる」、J．B．スミス、いのちのことば社、2018
「神のことばによって形造られる」、M.R.マルホーランド、地引網出版、2023
「静まりと魂のセルフケア」、太田和功一、あめんどう、2024年

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 60 %
リフレクション 20 %
期末レポート 20 %
授業参加度は出席にて判断します。リフレクションは授業感想レポートで判断します。期末レポートは第1回目の授業時にテーマを発表し、レポートを書いていただきます。

＜準備学習等に必要な時間＞

基本的に授業準備は、前回の講義の復習をしてください。リフレクション提出がその役割を担ってくれると思います。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

講義への質問や提案は、クラスで、もしくはリフレクションペーパーを用いてください。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。
利用範囲は担当教員に確認してください。

＜その他履修上の注意点＞
基本的に講義の出席、そして参加を重要視します。

SPT470J　実践神学 VII (牧会カウンセリング)

レオン　香

2 単位
教研棟１Ｆ 大教室
冬 水曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

教会の歴史を通し、信仰者の歩みを支え、未信者の魂の必要に応える霊的ケアの働きが教会に委ねられてきました。これは牧師の働きの中心であるとともに、信徒同士が互いの歩みに配慮し合う相互牧会も、教会の日常として実践されてきました。現代は多元化が進み、家族の崩壊、社会の歪みが深刻化する中、人々の課題は複雑化しています。現代社会に生きるストレスの中、様々なメンタルヘルス問題も増加し、牧会ケアの必要性がますます高まっています。このクラスでは、みことばに土台をおき、教会におけるケアの伝統と現代心理学から学びつつ、現代における教会のわざとしてのケアと牧会的なカウンセリングのあり方を考えます。また、実践的な練習と振り返りを通し、実際に人の心に寄り添い、ケアを行うために必要となる姿勢と基本手法を理解し、身につけていくことを目指します。さらに、現代社会で多くの人々が抱える諸課題を理解し、信仰者としていかに対応すればよいかを考え、学びます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 牧会ケアの聖書的土台
第2週 教会史から学ぶケア
第3週 心理学をどう捉えるか
第4週 牧会カウンセリングの実際（１）：聴き方の原則
第5週 牧会カウンセリングの実際（２）：能動的傾聴
第6週 牧会カウンセリングの実際（３）：対話の方向性
第7週 頻繁に遭遇する課題（１）：セルフイメージ、バーンアウト
第8週 頻繁に遭遇する課題（２）：喪失経験、うつ
第9週 頻繁に遭遇する課題（３）：家族、結婚、パーソナリティー障がい
第10週 教会でできるケア：境界線 ＊各週のトピックは変更する可能性があります。

＜到達目標＞

このクラスの到達目標は以下の４つです。
１）みことばに基づき、教会史と心理学から学びつつ、現代における教会でのケアと牧会カウンセリングのあり方を考察する。
２）牧会カウンセリングにおける姿勢、聴き方の基本手法を理解し、身につける。
３）現代社会や教会で頻繁に遭遇する心の悩みや課題を理解し、クリスチャンとしての応答を考える。
４）自己理解を深め、個々に与えられている賜物と成長が求められる課題を認識することにより、自分らしい寄り添い方やケアの方向性を模索する。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP5 神と教会に仕える情熱と知見

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 討議(ディベート)Debate, 課題解決型学習(PBL), TCUオンライン

＜(*)教科書・参考書＞

『よい聴き手になるために：聖書に学ぶ相互ケア』蔡香、いのちのことば社、２０１６年。（アマゾンオンデマンド）
Wilson, Rod J.K. 2006. How Do I Help a Hurting Friend? Baker Books.
『牧会者の神学：祈り、聖書理解、霊的導き』ユージン・ピーターソン、越川弘英訳、日本基督教団出版、１９９７年。

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 25 %
課題 20 %
中間レポート/試験 25 %
期末レポート 30 %
授業参加（全体の30%、授業に積極的に参加し、クラス内でのディスカッションやロールプレイに積極的に取り組んでいるか）、実践・リフレクション課題の記録（全体の20%、4回出される課題に取り組み、その記録を課題ごとにA4半ページにまとめる）、実習1の振り返りレポート（全体の20%、中間）、実習2
の書写と分析レポート（全体の30%、期末）から成る。

＜準備学習等に必要な時間＞

数回出される実践課題のために、各回ごとに４０分から１時間（１回のみ２時間ほど）が必要になります。課題が出た次の週に、その内容についての分かち合いがあります。また、数回ほど、授業の予習・復習としてのリーディング課題が出されます（各回ごとに30分−40分程度の分量）。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

課題ごとに、TCUオンライン上で評価やフィードバックを行います。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

利用を認めません。生成AIの利用は不正行為とみなします。

＜その他履修上の注意点＞

このクラスは、理論だけではなく、実践を通して牧会カウンセリングを学ぶことを目的としています。このため、対面での実践的な練習や振り返りを重要視し、オンラインのみでの受講はできません。また、自分自身の心や課題、自分の聴き方の傾向に目を開くことが求められます。現時点で人の話を聴くのが上手か下手かは問いません。何の課題もない人である必要もありません。主の前でありのままの自分を知り、人の心と魂に寄り添うケアを行う人に成長する意欲のある方は、どなたでも歓迎いたします。

SYS210J　ユース・ミニストリー I (神学と実践)

岡村 直樹

２単位
教研棟１Ｆ 中教室４
秋 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

「ユースミニストリーの神学と実践」は、福音的な神学、福音的な聖書理解の基礎に立ちつつ、教育学、心理学、社会学、牧会学等の多様な側面から、現代のユース（主に中・高生）と彼らへのミニストリーについて考えるクラスです。学生は、まず「ユース」と「ミニストリー」というそれぞれの言葉の意味について学習し、対象者が誰であるか、そして具体的にどのような働きなのかを知るところから学びを始めます。聖書に書かれたユースミニストリーに関する記述を調べ、ユースミニストリーの研究が盛んな米国での取り組みについて学び、更にユースミニストリーに関わる者がどのような心構えとトレーニングを必要とするかについて考察します。学期の中盤では、ユースミニストリーの現場で働く先生から直接話しを聞き、またユース教育に有効的なナラティブ・メソッドの用法を学びます。学期最後には、具体的なミニストリーの取り組みのアイディアに関する学生によるクラス発表から、相互評価を通して学び、既成の概念にとらわれないユニークなユースミニストリーへのアプローチを共に模索します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 ユースミニストリーの神学と聖書
第2週 教会とミニストリーの方針
第3週 思春期の心理
第4週 ユースミニストリーとリーダーシップ
第5週 ユースミニストリーの新しい展開
第6週 ユースを対象としたキャンプミニストリー
第7週 ユースを対象とした教会教育
第8週 ユースとのコミュニケーション
第9週 ユースミニストリーの実践①
第10週 ユースミニストリーの実践②

＜到達目標＞

① 聖書に記された「ミニストリー」の概念を理解し、それに基づいたユースミニストリーを展開する力を養うこと。
② ユース期の心の様子を理解し、実践的に当てはめて考察できるようになること。
③ ユースにとってわかりやすいメッセージを語れるようになること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 10 %
発表 40 %
期末レポート 40 %
すべての課題は、授業時に相互発表されます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は１４０分ですので、クラス外で毎週約２１０分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業時の相互発表を通して、クラスメートや教員からのフィードバックを受けます。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。

＜その他履修上の注意点＞

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

牧師としての実務経験を活かして講義を行います。

SYS230J　キリスト教教育 I (神学と理念)

徐　有珍

２単位
教研棟１Ｆ 中教室４
春 木曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

キリスト教教育とは何でしょうか。ある人は、キリスト教にとって重要な教義や伝統を伝えることがキリスト教教育であると言います。しかし、もしそれが単なる知識の伝達であるならば、教義や伝統について書かれた本を読めば教育は終わってしまいます。キリスト教教育学者ロバート・パズミーニョは、教育とは日常生活や霊的生活の場面において、人の知識、信条、価値、態度、感情、技能、行動が変化していくプロセスであると述べています。つまり、キリスト教にとって重要な教義や伝統は、単に知り記憶するだけでなく、その人の人格や生き方の変化として現れてはじめて教育となるのです。
本講義ではこの理解を踏まえ、聖書的基盤、歴史的展開、神学的理解という観点からキリスト教教育の基礎を学びます。また映画を通して、信仰が人の人生や経験の中でどのように形づくられるのかを考えます。その後、学生が主体的に学ぶ教育方法であるアクティブラーニングを学び、その一例としてユダヤ人の伝統的学習法であるハブルータ（議論を通して理解を深める学習法）を用いながら、現代社会におけるキリスト教教育の課題と教会教育のあり方について考えます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 キリスト教教育の聖書的基盤（１）
第2週 キリスト教教育の聖書的基盤（２）
第3週 キリスト教教育の歴史と背景
第4週 ＜特講＞キリスト教教育の神学と人間理解
第5週 映画鑑賞「アメイジング・ジャーニー」
第6週 ＜特講＞アクティブラーニングとは？
第7週 ハブルータによる対話型学習（１）
第8週 ハブルータによる対話型学習（２）
第9週 現代社会とキリスト教教育の課題
第10週 期末試験

＜到達目標＞

① 聖書的・神学的基盤に基づいてキリスト教教育の基本的理解を深め、その意義を説明できる。
② 映画や具体的な事例を通して、人間の経験や信仰形成の視点からキリスト教教育の役割について考察できる。
③ アクティブラーニングやハブルータなどの対話的学習を通して、現代社会におけるキリスト教教育の課題について主体的に議論できる。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, 討議(ディベート)Debate, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

＊「日常の神学ーいまさら聞けないあのこと、このこと」岡村直樹著、いのちのことば社、2023年
"Teaching from the Heart." Mary Elizabeth Mullino Moore, Trinity Press International, 1998

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 20 %
課題 14 %
発表 20 %
期末試験 30 %
その他 6 %
・授業参加度：授業活動への協力（インタビュー等）
・リフレクション：授業に関するリアクションペーパーを提出します。（400字程度、5回x4点）
・課題：「ハブルータによる対話型学習」の小論文提出（2回x7点）
・発表：「ハブルータによる対話型学習」の議論と発表（2回x10点）
・その他：映画感想文提出（400時程度）
・期末試験は授業資料の参照を認めるオープンブック形式で実施します。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業内の発表やディスカッションを通して、学生同士の意見交換を行いながら相互にフィードバックを得ます。また、質問や相談はTeamsやメール等を通して行うことも可能です。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してくだ

＜その他履修上の注意点＞
・本科目はユーススタディーズ専攻・副専攻の必須科目です。
・本科目は「どこでもTCU」対象科目です。本科生以外の参加の可能性があります。
・本科生は対面参加を原則とします。個人の判断によるオンライン受講への変更は認められません。やむを得ない事情がある場合は事前に相談してください。
・授業内容の録音・録画・無断共有はできませんのでご注意ください。
・課題や発表準備における生成AIの過度な使用は控え、学生自身の主体的学習に基づいて行ってください。AIによって生成された内容を十分に確認せずそのまま提出することは、学習成果として認められない場合があります。

SYS320J　ユース・ミニストリー II (思春期の理解)

徐　有珍

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
冬 木曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

今日、思春期の若者文化については、アルコールやドラッグ依存、校内暴力、性行動の低年齢化、ゲーム依存などの負の側面が強調されることが少なくありません。しかし近年の研究では、若者文化に見られる創造性や連帯感などの肯定的側面や、精神的・社会的成長を支える要素にも注目が集まっています。本科目では、このような若者文化の両面を理解しながら、思春期の若者をどのように理解し、ユースの精神的・社会的・信仰形成をどのように支援できるのかを考察します。
また、キリスト教教育および心理学で学んだ発達理解の知識を基礎として、ユースミニストリーの実践に焦点を当てて学びます。そして教会やクリスチャン・コミュニティが若者に寄り添い、信頼関係（ラポール）を築きながら支える方法を考えます。
さらに、映画『いまを生きる』の鑑賞やグループ研究を通して若者文化を理解し、ユースの信仰成長や死生観などの課題についても学びます。最後に、日本・アメリカ・韓国のユースミニストリーを比較し、日本の教会に適したミニストリーのあり方を検討し、自らのユースミニストリープランを構想することを目指します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 ユースミニストリーとは：仕える姿勢と若者理解の基礎
第2週 家庭・学校・教会：若者を取り巻く環境
第3週 デジタル時代の若者の価値観
第4週 ユースの危機と教会の役割
第5週 ユース文化の調査研究（グループ発表）
第6週 ユースの信仰成長とラポール形成
第7週 映画鑑賞「いまを生きる」
第8週 ユースの死生観・自殺予防と教会の役割
第9週 若者の教会離れと教会の対応：日米韓比較
第10週 私のユースミニストリープラン（個人発表）

＜到達目標＞

① 思春期の発達と若者文化の特徴を理解し、若者に与える多様な影響（ポジティブ・ネガティブの両面）について説明できるようになること。
② 家庭・学校・SNSなど若者を取り巻く環境や、不登校・孤独・危機状況などの課題について理解できるようになること。
③ 若者の信仰形成と成長を支えるユースミニストリーのあり方について考察し、教会における具体的な関わり方を考えることができるようになること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

* 必要に応じて、授業で使用する資料は適宜配布します。

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
課題 20 %
発表 40 %
その他 30 %
・課題：映画「いまを生きる」の感想文を提出します。
・発表：第10回「私のユースミニストリープラン（個人発表）」の発表内容を学生同士の相互評価も含めて評価します。
・その他：第5回「ユース文化の調査研究（グループ発表）」の発表内容を学生同士の相互評価も含めて評価します。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業内の発表やディスカッションを通して、学生同士の意見交換を行いながら相互にフィードバックを得ます。また、質問や相談はTeamsやメール等を通して行うことも可能です。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞
・本科目はユーススタディーズ専攻・副専攻の必須科目です。
・本科目は「どこでもTCU」対象科目です。本科生以外の参加の可能性があります。
・本科生は対面参加を原則とします。個人の判断によるオンライン受講への変更は認められません。やむを得ない事情がある場合は事前に相談してください。
・授業内容の録音・録画・無断共有はできませんのでご注意ください。
・課題や発表準備における生成AIの過度な使用は控え、学生自身の主体的学習に基づいて行ってください。AIによって生成された内容を十分に確認せずそのまま提出することは、学習成果として認められない場合があります。

SYS340J　キリスト教教育 II (方法と実践)

徐　有珍

2 単位
教研棟１Ｆ 中教室４
秋 木曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

キリスト教教育 II は、信仰に根ざした教育の理解を深め、現代社会においてキリスト者として生きるための知恵と実践力を養うことを目的としています。第1～5回では、教育心理学の視点から発達段階、学習動機づけ、パーソナリティーと集団心理、学習方法、学習評価などについて学び、学習者の成長や学びの過程を理解しながら、信仰形成と教育実践の基礎を理解します。
第6回では、現代科学の視点を手がかりとして世界や人間の存在について考え、信仰と世界理解の関係について探究します。第7回では映画を鑑賞し、人間の存在や人生の意味、信仰の問いについて多角的に考察します。第8回ではナラティブ・メソッドの理論と実践を学び、物語を通して経験や信仰を理解し共有する教育方法について理解を深めます。第9回では学生が物語を再構成して発表し、ディスカッションと相互評価を通して多様な視点から学びを深めます。
これらの学びを通して、自らの経験と信仰を物語として捉え直し、信仰と知識、経験を統合しながら、現代社会におけるキリスト教教育の意義と実践について主体的に考える力を養います。

＜授業テーマと内容＞

第1週 キリスト教教育と発達段階
第2週 キリスト教教育と学習動機づけ
第3週 パーソナリティーと集団心理
第4週 学習方法とカリキュラム
第5週 自己評価と他者評価
第6週 キリスト教教育と科学の対話
第7週 映画鑑賞「The Tree of Life」
第8週 ＜特講＞ナラティブ・メソッドの理論と実践
第9週 ＜特講＞ナラティブの再構成と対話（発表）
第10週 期末試験

＜到達目標＞

① 教育心理学の基本的な理論を理解し、それらをキリスト教教育における信仰形成や人格形成の理解に結びつけて説明できるようになること。
② 現代科学をめぐる問いを手がかりとして、信仰と世界理解の関係について多角的に考察し、自らの考えを言葉で表現できるようになること。
③ ナラティブ・メソッドの基本的な考え方を理解し、物語の再構成や対話的学習を通して信仰理解を深める学びの方法について説明できるようになること。

＜DPとの関連＞

DP3 神学の知識と応用力
DP4 人と社会に仕える姿勢、教養、実践力

＜授業形態＞

対面授業

＜授業方法＞

グループ学習(ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション）, TCUオンライン, Teams

＜(*)教科書・参考書＞

「キリスト教と教育」ヤン・ワータリンク（著）、宇佐神正明（翻訳）、1962年
「楽しく学べる教育心理学」櫻井茂男著(2017 年、図書文化社)

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 10 %
リフレクション 20 %
課題 10 %
発表 40 %
期末試験 20 %
・リフレクション：授業に関するリアクションペーパーを提出します。（400字程、5回x4点）
・課題：映画感想文提出を提出します。（1回x10点）
・発表：「ナラティブの再構成と対話（発表）」の発表
・期末試験は授業資料の参照を認めるオープンブック形式で実施します。
＊出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業内の発表やディスカッションを通して、学生同士の意見交換を行いながら相互にフィードバックを得ます。また、質問や相談はTeamsやメール等を通して行うことも可能です。

＜レポートや課題作成に関する生成AIの利用について＞

課題作成のための調査、アイディア出し、資料の翻訳等の利用を認めます。
課題作成のための構成の検討、表現の調整や校正等の利用を認めます。ただし、生成AIの利用プロセスを明示することが求められる場合があります。
生成AIの出力であることを明記した上で引用することを認めます。ただし、生成AIの出力を全て転載することは禁止します。生成AIが出力した結果は誤情報が含まれる場合があるため、生成AI以外の方法で情報の出典や根拠を確認し必ず明示した上で引用してください。

＜その他履修上の注意点＞
・本科目はユーススタディーズ専攻・副専攻の必修科目です。
・本科目ではオンライン授業は実施しません。原則として対面で授業に参加してください。
・授業内容の録音・録画および無断での共有はできませんのでご注意ください。
・課題作成や発表準備において、生成AIの過度な使用は控え、学生自身の主体的な学習に基づいて取り組んでください。AIによって生成された内容を十分に確認せず、そのまま提出した場合は学習成果として認められないことがあります。